B5FL-3571-01 Z0

Fujitsu Notebook LIFEBOOK

LIFEBOOK A5515-TC

製品ガイド

本書をお読みになる前に
1 本製品の特長
2 各部名称
3 取り扱い
4 周辺機器
5 アプリ
6 BIOS
7 お手入れ
8 トラブル シューティング
9 仕様

目次

本書をお読みになる前に 7

安全にお使いいただくために 7
本書の表記 7
Windowsの操作 9
BIOSやドライバーのアップデートについて 9
デバイスの暗号化およびBitLockerドライブ暗号化について 10
商標および著作権について 10

第1章　本製品の特長

1.1 運用面、セキュリティ面に優れたシンクライアント 12
1.2 運用上の注意 13
1.2.1 管理者アカウントとパスワード設定 13
1.2.2 アプリ 13
1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能 14
1.3.1 書込保護機能とは 14
1.4 保護管理ツール 16
1.4.1 保護管理ツールを起動する 16
1.4.2 書込保護機能の設定／解除 17
1.4.3 内蔵フラッシュメモリへの書き込み制御 18
1.5 不正使用からのセキュリティ 23
1.5.1 BIOSのパスワード 23
1.5.2 Systemwalker Desktop Keeper for Standalone 23
1.6 製品の盗難防止 24
1.6.1 製品本体の施錠方法 24

第2章　各部名称

2.1 製品本体前面 26
2.2 製品本体右側面 28
2.3 製品本体左側面 29
2.4 製品本体背面 30
2.5 製品本体下面 31
2.6 キーボード 32
2.7 状態表示LED 34

第3章　取り扱い

3.1 フラットポイント 36
3.1.1 注意事項 36
3.1.2 基本操作 36
3.1.3 フラットポイントの設定を変更する 37
3.1.4 フラットポイントの有効／無効を切り替える 38
3.2 マウス 39
3.2.1 注意事項 39
3.2.2 マウスの基本設定を変更する 39
3.3 ディスプレイ 40
3.3.1 注意事項 40
3.3.2 明るさを調整する 40
3.3.3 解像度を変更する 41
3.4 マルチディスプレイ機能 42
3.4.1 マルチディスプレイ機能とは 42
3.4.2 注意事項 43
3.4.3 マルチディスプレイ機能を設定する 43
3.5 画面表示の回転 44
3.5.1 画面表示の向きを変える 44
3.6 サウンド 47
3.6.1 全体の再生音量を調節する 47
3.6.2 アプリごとの再生音量を調節する 47
3.6.3 機器や項目ごとの音量を調節する 48
3.6.4 オーディオ端子の機能を切り替える 49
3.6.5 既定のオーディオ機器を選択する 49
3.6.6 AIノイズキャンセラー 50
3.7 省電力 57
3.7.1 省電力状態 57
3.7.2 電源を切る 59
3.7.3 本製品の節電機能 60
3.7.4 省電力設定 60
3.7.5 省エネ機能 62
3.7.6 バッテリーの電源モード 62
3.7.7 ピークシフト 63
3.8 バッテリー 64
3.8.1 注意事項 64
3.8.2 バッテリーを充電する 67
3.8.3 バッテリーの残量を確認する 67
3.8.4 バッテリーを交換する 68
3.8.5 バッテリーの充電モードを変更する 70
3.8.6 バッテリーの状態を確認する 71

3.9 通信 72
3.9.1 有線LAN 72
3.9.2 無線LAN 73
3.9.3 Bluetoothワイヤレステクノロジー 73
3.9.4 無線通信機能の電波を発信する／停止する 74
3.10 セキュリティチップ（TPM） 75
3.11 電源オフUSB充電機能 76
3.11.1 注意事項 76
3.11.2 電源オフUSB充電機能の設定を変更する 76
3.12 AIカメラエフェクター 77
3.13 手のひら静脈センサー 78

第4章 周辺機器

4.1 周辺機器を取り付ける前に 82
4.1.1 注意事項 82
4.2 メモリ 83
4.2.1 注意事項 83
4.2.2 取り付けられるメモリ 83
4.2.3 メモリを取り付ける 84
4.2.4 メモリを取り外す 86
4.3 コネクタの接続／取り外し 87
4.3.1 注意事項 87
4.3.2 ディスプレイコネクタ 87
4.3.3 USBコネクタ 88
4.3.4 オーディオ端子 89
4.3.5 LANコネクタ 89

第5章 アプリ

5.1 アプリの紹介 91
5.1.1 一覧表の見かた 91
5.1.2 ネットワーク関係のアプリ 92
5.1.3 セキュリティ関連のアプリ 92
5.1.4 サポート関連のアプリ 92
5.1.5 ユーティリティ 93
5.2 インストール 95
5.2.1 「ドライバーズディスク検索」からのインストール 95
5.2.2 「AuthConductor Client Basic」のインストール 96
5.3 アンインストール 97
5.3.1 注意事項 97
5.3.2 アンインストール方法 97

第6章 BIOS

6.1 BIOSセットアップ 99
6.2 BIOSセットアップの操作のしかた 100
6.2.1 BIOSセットアップを起動する 100
6.2.2 BIOSセットアップ画面 100
6.2.3 BIOSセットアップメニュー 100
6.2.4 BIOSセットアップを終了する 101
6.2.5 起動メニューを使用する 102
6.3 設定事例集 103
6.3.1 BIOSのパスワード機能を使う 103
6.3.2 起動デバイスを変更する 106
6.3.3 セキュリティチップの設定を変更する 107
6.3.4 セキュアブートの設定を変更する 108
6.3.5 パスワードの代わりに手のひら静脈認証を使う 108
6.3.6 電源オフUSB充電機能の設定を変更する 109
6.3.7 Wake on LANを有効にする 109
6.3.8 Wake on RTCを有効にする 111
6.3.9 イベントログを確認する 111
6.3.10 イベントログを消去する 111
6.3.11 ご購入時の設定に戻す 112

第7章 お手入れ

7.1 日常のお手入れ 114
7.1.1 製品本体、キーボード、マウスの表面の汚れ 114
7.1.2 手のひら静脈センサー 114
7.1.3 液晶ディスプレイ 115
7.2 定期的なお手入れ 116
7.2.1 注意事項 116
7.2.2 空冷用通風路 116

第8章　トラブルシューティング

8.1 トラブル発生時の基本操作 119
8.1.1 状況を確認する 119
8.1.2 以前の状態に戻す 120
8.1.3 トラブルシューティングで調べる 120
8.1.4 インターネットで調べる 120
8.1.5 診断プログラムを使用する 120
8.1.6 サポートの窓口に相談する 122
8.2 よくあるトラブルと解決方法 123
8.2.1 トラブル一覧 123
8.2.2 起動・終了時のトラブル 125
8.2.3 Windows・アプリ関連のトラブル 128
8.2.4 ハードウェア関連のトラブル 131
8.2.5 エラーメッセージ一覧 141
8.3 それでも解決できないときは 145
8.3.1 お問い合わせ先 145

第9章　仕様

9.1 本体仕様 147
9.1.1 LIFEBOOK A5515-TC 148
9.1.2 六面図 152
9.2 CPU 153
9.3 ディスプレイ 154
9.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度 154
9.3.2 クローン表示の解像度 155
9.4 無線LAN 156

廃棄・リサイクル 158

付録1 製品本体の廃棄・譲渡時の注意 159

製品の廃棄・譲渡時の内蔵フラッシュメモリ上のデータ消去に関する注意 159
データ消去 160

付録2 Windowsの新規インストールについて 163

注意事項 163
新規インストールの準備 163
新規インストール手順 164

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が『取扱説明書』に記載されています。
特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

本書の表記

本書の内容は2026年1月現在のものです。お問い合わせ先やURLなどが変更されている場合は、ご購入元へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】＋【F3】キー、【Shift】＋【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタートボタン」を表示して「すべて」をクリックし、「Windows ツール」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「すべて」→「Windows ツール」の順にクリックします。

■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略したり形状を簡略化したりしていることがあります。

■ 周辺機器の使用

本文中の操作手順において、DVDなどを使用することがあります。
操作に必要なドライブは、必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。
使用できる周辺機器については、「カタログ/オプション品対応一覧」のページ（https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/）の「オプション品対応一覧」をご覧ください。
また、使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ 本文に記載しているディスク

ディスク名称
リカバリ起動ディスク
リカバリ起動ディスク
ドライバーズディスク

ご購入時の構成によっては、これらのディスクは添付されていません。
本製品に格納されているイメージからディスクを作成する必要があります。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

■ 本文に記載している仕様とお使いの機種との相違

ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。
あらかじめご了承ください。
なお、本文内において書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報をお読みください。

■ 製品名の表記

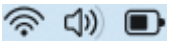
本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記	
LIFEBOOK A5515-TC	A5515-TC	本製品／製品本体
Windows 11 IoT Enterprise LTSC 2024	Windows 11	Windows
Bluetooth®	Bluetooth	
Fujitsu Security Solution AuthConductor™ Client Basic	AuthConductor Client Basic	
FUJITSU Software Systemwalker Desktop Keeper for Standalone	Systemwalker Desktop Keeper for Standalone	

Windowsの操作

■ クイック設定

アプリからの通知を表示する他、クリックすることで画面の明るさ設定や通信機能の状態などを設定できるアイコンが表示されます。

1 **通知領域にある  をクリックします。**
画面右側に「クイック設定」が表示されます。

■ 「コントロールパネル」 ウィンドウ

次の手順で「コントロールパネル」ウィンドウを表示させてください。

1 **「スタート」ボタン→「すべて」→「Windows ツール」の順にクリックし、「コントロールパネル」をダブルクリックします。**

■ ユーザーアカウント制御

本書で説明しているWindowsの操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前にWindowsが表示しているものです。
表示されるメッセージに従って操作してください。

■ 通知領域のアイコン

通知領域にすべてのアイコンが表示されていない場合があります。
表示されていないアイコンを一時的に表示するには、通知領域の ∧ をクリックします。

BIOSやドライバーのアップデートについて

本製品には、さまざまなアプリや周辺機器の接続／制御に必要なBIOS、ドライバーなどが搭載されています。これらのアプリ、BIOS、ドライバーに対して、アップデートプログラムが提供されることがあります。
アップデートプログラムには、次のような内容が含まれています。

- 機能の向上、追加
- 操作性の向上
- 品質改善

本製品をより快適にお使いいただくために、常に最新版のBIOSやドライバーを適用してください。
アップデート方法については、弊社アップデートサイト（https://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html）をご覧ください。

デバイスの暗号化およびBitLockerドライブ暗号化について

次の場合は、Windowsに搭載されている「デバイスの暗号化」機能が自動的に有効になり、本製品搭載の内蔵フラッシュメモリが暗号化されることがあります。

- Microsoftアカウントで本製品にサインインしている場合
- Microsoft Entra（Azure Active Directory）アカウントまたは組織（職場／学校）アカウントで本製品にサインインしている場合

また、「BitLockerドライブ暗号化」を有効にした場合も、内蔵フラッシュメモリが暗号化されます。

暗号化された内蔵フラッシュメモリを修理した場合や修理によりハードウェア情報が更新された場合、本製品起動時に「回復キー」の入力を求められます。
「回復キー」を入力しないと本製品を起動することができないため、事前に「回復キー」を確認しなくさないように保管してください。

回復キーの確認手順については、『取扱説明書』をご覧ください。

商標および著作権について

Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Coreは、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation の商標です。
Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc.が所有権を有します。富士通株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。
FeliCaは、ソニー株式会社の登録商標です。
FeliCaは、ソニー株式会社が開発した非接触ICカードの技術方式です。
HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、HDMIのトレードドレスおよびHDMIのロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。
InsydeH20はInsyde Softwareの登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。
その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright Fujitsu Limited 2026

1

第1章

本製品の特長

本製品の特長について説明しています。

1.1 運用面、 セキュリティ面に優れたシンクライアント 12
1.2 運用上の注意 13
1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能 14
1.4 保護管理ツール 16
1.5 不正使用からのセキュリティ 23
1.6 製品の盗難防止 24

1.1 運用面、 セキュリティ面に優れたシンクライアント

シンクライアントとは、製品側（クライアント側）に最低限の機能しか持たせず、サーバー側でアプリやデータなどの資源を一元管理するシステムの総称です。本製品は、このようなシステムへの適用を前提とした製品です。
また、アプリのインストールや実行、データの保管はすべてサーバー上で行うため、従来の製品に比べて次のような特長があります。

POINT

- サーバー環境およびネットワーク環境などの影響により、パフォーマンスが充分に発揮できない場合があります。必ず、仮想環境を事前に確認してください。

■ ユーザーやアプリを管理しやすい

- サーバーへのサインインが必須となるため、サーバー側でクライアント（ユーザー）を、一元管理できます。
- 業務で使用するアプリはサーバーにインストールされるため、アプリもサーバー側で一元管理できます。これにより次のようなことが可能となります。
  ・各クライアントでアプリのバージョンが違うことによるトラブルの防止
  ・アプリの変更やバージョンアップにかかるコストの大幅な削減
  ・管理外アプリの無断インストールを防止

■ 故障などによるデータ消失のリスクを軽減

- データはすべてサーバー側に保存されるため、製品の故障によるデータの損失がありません。

■ 情報漏えいに強い

- データはすべてサーバー側に保存されるため、製品が盗難に遭った場合でも情報漏えいのリスクがありません。
- 外部記憶媒体による情報漏えいを防ぐために、「1.5.2 Systemwalker Desktop Keeper for Standalone」（→P.23）を使用してUSBメモリやメモリーカードなどの使用を制限できます。
- セキュリティ設定はサーバー側で行うため、セキュリティポリシーの管理・変更などが容易になります。また、個々のクライアント上での設定ミスが防げます。

■ 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能

本製品特有の機能です。
詳しくは、「1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能」（→P.14）をご覧ください。

1.2 運用上の注意

1.2.1 管理者アカウントとパスワード設定

本製品のご購入時は、初めて電源を入れたときに「このPCのアカウントの作成」で作成される管理者アカウントのみが設定されています。
必要に応じて新しいアカウントを作成してください。

重 要

- 内蔵フラッシュメモリへの書き込みは、書込保護機能が「無効」の状態で行ってください。
  書込保護機能が「有効」の状態で行うと再起動後に設定が消去され、設定前の状態に戻ってしまいます。
  内蔵フラッシュメモリに書き込む場合は、「1.4.3 内蔵フラッシュメモリへの書き込み制御」（→P.18）をご覧ください。
  また、内蔵フラッシュメモリへの書き込みが終わったら、書込保護機能を「有効」にして使用することを強くお勧めします。

POINT

- ユーザーアカウントは、「管理者アカウント」と「標準ユーザーアカウント」があります。
  本製品を管理される方用に「管理者アカウント」、通常業務でお使いになる方用に「標準ユーザーアカウント」を作成し、運用されることをお勧めします。

1.2.2 アプリ

■ Webブラウザー

本製品には「Microsoft Edge」のWebブラウザーが搭載されています。
このブラウザーは、Webインターフェース（Receiver for Web接続）での使用を主な用途として想定しています。
セキュリティの一元管理の観点からも、インターネットの閲覧には「リモートデスクトップ接続」を使用し、サーバー側のブラウザーを使用することをお勧めします。

■ Systemwalker Desktop Keeper for Standalone

本製品には、Systemwalker Desktop Keeper for Standaloneが添付されています。
ご使用にあたっては「5.2.1 「ドライバーズディスク検索」からのインストール」（→P.95）をご覧になり、アプリをインストールしてください。
また、パスワードを設定したうえで利用してください。
Systemwalker Desktop Keeper for Standaloneについては、「ドライバーズディスク」内のマニュアルをご覧ください。

その他のアプリについては、「5.1 アプリの紹介」（→P.91）をご覧ください。

1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能

本製品のOSや環境設定などのシステムデータは、内蔵フラッシュメモリに保存されていますが、書込保護機能によって保護することができます。この書込保護機能は、内蔵フラッシュメモリへの書き込みが発生したときに、書き込むか書き込まないかを制御できます。

1.3.1 書込保護機能とは

本製品では、内蔵フラッシュメモリ全体への書き込みやフォルダーやファイル、レジストリへの書き込みを制御する、書込保護機能を用意しています。

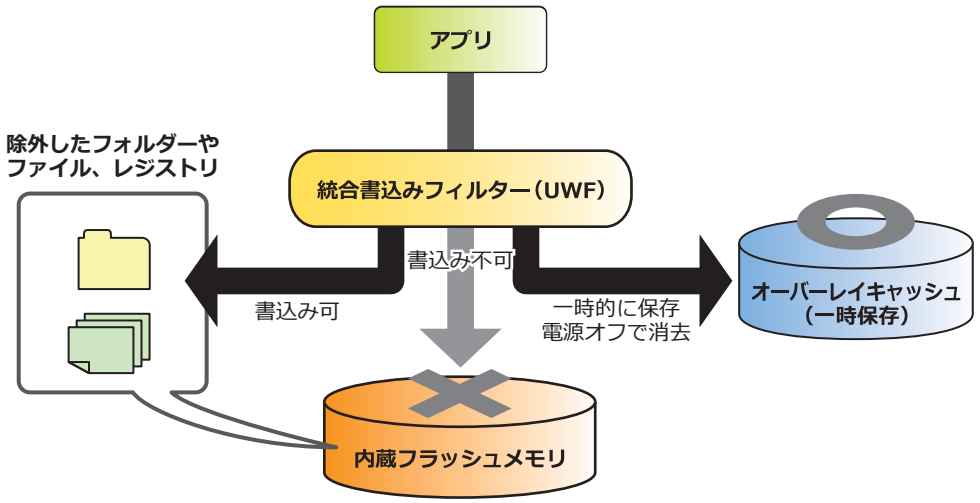
POINT

- 通常の運用では、内蔵フラッシュメモリ全体を保護状態にして使用することを強くお勧めします。
- 書込保護機能の設定は、「1.4 保護管理ツール」（→P.16）をご覧ください。

■ 統合書込みフィルター （UWF ： Unified Write Filter）

UWFは、内蔵フラッシュメモリへの書き込みが発生した場合に、内蔵フラッシュメモリ全体への書き込みや、フォルダーやファイル、レジストリへの書き込みを制御します。

□UWFが有効な状態



● **内蔵フラッシュメモリ全体を保護**

内蔵フラッシュメモリへの書き込みが発生した場合、内蔵フラッシュメモリへ書き込む代わりに、オーバーレイキャッシュ（メインメモリまたは内蔵フラッシュメモリ上）に書き込みを行い、内蔵フラッシュメモリ内のデータを保護します。

オーバーレイキャッシュへの書き込みは、アプリなどからは内蔵フラッシュメモリ上に書き込みを行ったときと同じように見えていますが、実際には書き込まれたデータはオーバーレイキャッシュ上に記憶されます。

重 要

- 設定変更などを行っても、電源を切ったり再起動したりすると設定前の状態に戻ってしまいます。
- 電源を切らずにスリープ状態にした場合は、オーバーレイキャッシュの内容は保持されます。ただし、スリープ状態のまま電源が切れた場合は、オーバーレイキャッシュの内容は消去されますのでご注意ください。

● **保護対象から除外したフォルダーやファイル、レジストリへの書き込み**

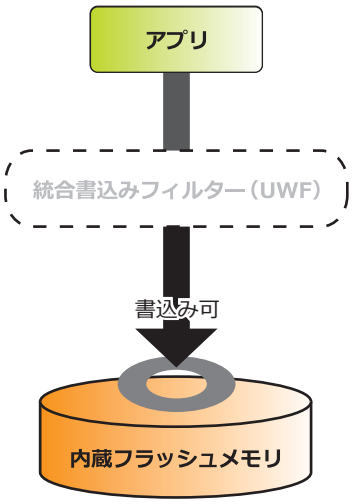
内蔵フラッシュメモリ上の設定したフォルダーやファイル、レジストリに書き込まれます。

重 要

- フォルダーやファイル、レジストリを除外指定する場合は、充分に確認して行ってください。Windowsが正常に動作しなくなる可能性があります。
- 特定のアプリが使用するフォルダーやファイル、レジストリの除外指定が不充分な場合、特定のアプリが正常に動作しない可能性があります。フォルダーやファイル、レジストリの除外指定は、特定のアプリの仕様を充分に確認して行ってください。

□UWFが無効な状態

内蔵フラッシュメモリへ書き込みを行い、内蔵フラッシュメモリは保護しません。



1.4 保護管理ツール

1.4.1 保護管理ツールを起動する

1 **通知領域の保護管理ツールアイコン（ または ）をダブルクリックします。**
「保護管理ツール」ウィンドウが表示されます。



■ 設定状態を確認する

「保護情報」の「状況」で確認します。

- 有効：保護機能が有効になっており、内蔵フラッシュメモリへの書き込みが禁止されている状態です。
  また、この状態ではアプリなどからの書き込みは、オーバーレイキャッシュ（メインメモリまたは内蔵フラッシュメモリ上）に対して行われるため、再起動すると変更した設定はすべて無効になります。
  ただし、除外指定したフォルダーやファイル、レジストリについては、書き込みができます（→P.18）。
- 無効：保護機能が無効になっており、内蔵フラッシュメモリへの書き込みが可能な状態です。
  本製品の設定を変更する場合は、通常この状態に切り替えます。

POINT

- 通知領域のアイコンでも、現在の状況の確認ができます。
  - の場合：保護機能が有効（書き込み不可）
  - の場合：保護機能が無効（書き込み可能）

1.4.2 書込保護機能の設定／解除

1 管理者権限をもったユーザーアカウントでサインインします。

2 保護管理ツールを起動します（→P.16）。

3 「設定」をクリックします。

4 「保護内容」の「保護」で、書込保護機能の設定を行います。
・保護機能を設定する場合：「有効」を選択。
・保護機能を解除する場合：「無効」を選択。



5 「実行」をクリックします。
設定が変更されると、再起動を促すメッセージが表示されます。
設定の変更がない場合は表示されません。

重 要

- 「取消」をクリックすると、設定は反映されずに「保護管理ツール」ウィンドウが閉じます。

6 「はい」をクリックします。
製品が再起動します。再起動後、設定が反映されます。

重 要

- Windows Updateやドライバーアップデートを行う場合
  書込保護機能を「有効」にする前に、Windows Updateやドライバーアップデートの再起動後の更新処理が完了していることを確認してください。
  必ず、更新が完全に終わってから書込保護機能を変更してください。

1.4.3　内蔵フラッシュメモリへの書き込み制御

■ 設定内容を内蔵フラッシュメモリに書き込む

書込保護機能を一時的に解除して、設定内容の変更を内蔵フラッシュメモリに書き込みます。

重 要

- 書込保護機能を解除し設定内容を変更した後は、必ず書込保護機能を「有効」に設定してください。

1 **管理者権限をもったユーザーアカウントでサインインします。**

2 **保護管理ツールを起動します（→P.16）。**
書込保護機能を有効にしている場合は、「1.4.2 書込保護機能の設定／解除」（→P.17）を行い無効に設定してください。

3 **「設定」をクリックします。**

4 **「保護内容」で、「対象ドライブ」を選択します。**
・保護機能から除外するフォルダーやファイルを設定する場合は、「除外ファイル」で選択します（→P.19）。
・保護機能から除外するレジストリキーを選択する場合は、「除外レジストリ」を選択します（→P.20）。

5 **「実行」をクリックします。**
設定が変更されると、再起動を促すメッセージが表示されます。

重 要

- 「取消」をクリックすると、設定は反映されずに「保護管理ツール」ウィンドウが閉じます。

6 **「はい」をクリックします。**
製品が再起動します。再起動後、設定が反映されます。

7 **保護管理ツールを起動し、保護機能を「有効」に設定します（→P.17）。**

以上で、設定が内蔵フラッシュメモリに書き込まれました。
設定が反映されていることと、「保護管理ツール」ウィンドウで保護内容が「有効」になっていることを確認してください。

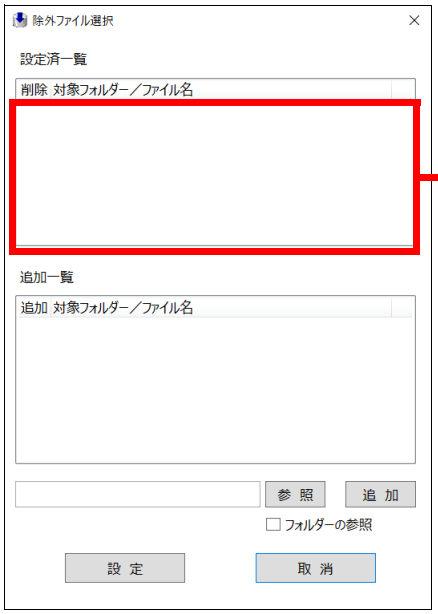
■ フォルダーやファイル単位で書き込みを制御する

1 管理者権限をもったユーザーアカウントでサインインします。

2 保護管理ツールを起動します（→P.16）。
書込保護機能を有効にしている場合は、「1.4.2 書込保護機能の設定／解除」（→P.17）を行い無効に設定してください。

3 「設定」をクリックします。

4 「保護内容」の「除外ファイル」の「選択」をクリックします。
「除外ファイル選択」ウィンドウが表示されます。



ここに除外するフォルダー
またはファイルが表示されます。

5 保護機能から除外するフォルダーまたはファイルを選択します。

1. 「除外フォルダー」を追加する場合は「フォルダーの参照」にチェックを付けます。
2. 書き込みを制御したいフォルダーまたはファイル名を完全パスでテキストボックスに入力、または「参照」をクリックして表示される画面から対象フォルダーまたはファイルを選択します。
3. 「追加」をクリックします。
   選択したフォルダーまたはファイル名が「追加一覧」に追加されます。

6 「設定」をクリックします。
「保護管理ツール」ウィンドウに戻ります。

7 「実行」をクリックします。
設定が変更されると、再起動を促すメッセージが表示されます。

重 要

- 「取消」をクリックすると、設定は反映されずに「保護管理ツール」ウィンドウが閉じます。

8 「はい」をクリックします。
製品が再起動します。再起動後、設定が反映されます。

9 保護管理ツールを起動し、保護機能を「有効」に設定します（→P.17）。

設定したフォルダーやファイル以外は、書込保護の対象となります。
書き込み可能なフォルダーやファイルは、「除外ファイル選択」ウィンドウの「設定済一覧」に追加されます。

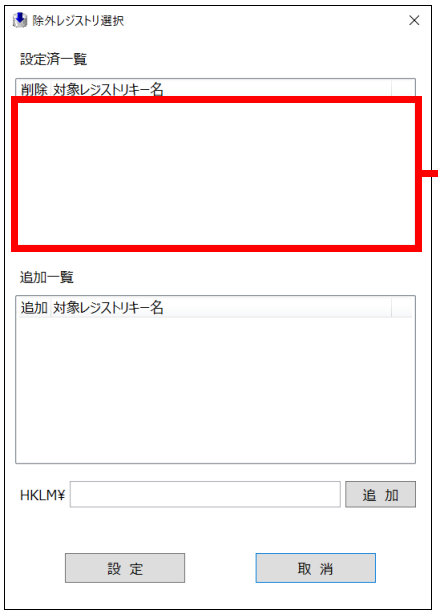
■ レジストリの書き込みを制御する

1 管理者権限をもったユーザーアカウントでサインインします。

2 保護管理ツールを起動します（→P.16）。
書込保護機能を有効にしている場合は、「1.4.2 書込保護機能の設定／解除」（→P.17）を行い無効に設定してください。

3 「設定」をクリックします。

4 「保護内容」の「除外レジストリ」の「選択」をクリックします。
「除外レジストリ選択」ウィンドウが表示されます。



5 保護機能から除外するレジストリキー名を、テキストボックスに入力します。
レジストリキー名は、接頭語（HKEY_LOCAL_MACHINE¥）を除いて入力してください。

6 「追加」をクリックします。
選択したレジストリキー名が「追加一覧」に追加されます。

7 「設定」をクリックします。
「保護管理ツール」ウィンドウに戻ります。

8 **「実行」をクリックします。**

設定が変更されると、再起動を促すメッセージが表示されます。

重 要

- 「取消」をクリックすると、設定は反映されずに「保護管理ツール」ウィンドウが閉じます。

9 **「はい」をクリックします。**

製品が再起動します。再起動後、設定が反映されます。

10 **保護管理ツールを起動し、保護機能を「有効」に設定します（→P.17）。**

設定したレジストリキー以外は、書込保護の対象となります。
書き込み可能なレジストリキーは、「除外レジストリ選択」ウィンドウの「設定済一覧」に追加されます。

■ オーバーレイ内容を変更する

1 **書込保護機能を無効にします。**
「1.4.2 書込保護機能の設定／解除」（→P.17）を行い無効に設定してください。

2 **管理者権限をもったユーザーアカウントでサインインします。**

3 **保護管理ツールを起動します（→P.16）。**

4 **「設定」をクリックします。**

5 **「オーバーレイ内容」の各設定を変更します。**

設定項目		
タイプ		オーバーレイキャッシュを作成する場所を選択します。
	RAM	メインメモリ上に作成
	Disk	内蔵フラッシュメモリ上に作成
最大容量		オーバーレイキャッシュの容量をMB単位で設定します。 オーバーレイキャッシュの容量の最小値は、1024MBです。 本製品での初期設定値は2048MBです。 オーバーレイキャッシュを作成する場所により、設定できる容量の大きさは異なります。
しきい値		オーバーレイキャッシュの使用容量が設定した値に到達、または超えた時に、イベントログを出力させる容量をMB単位で設定します。 イベントログを出力したくない場合は、0を設定してください。 それぞれの推奨値は、次のとおりです。
	警告容量	オーバーレイキャッシュの最大容量の1/2
	限界容量	警告容量以上、かつ、オーバーレイキャッシュの最大容量以下

6 **「実行」をクリックします。**
設定が変更されると、再起動を促すメッセージが表示されます。

重 要

- 「取消」をクリックすると、設定は反映されずに「保護管理ツール」ウィンドウが閉じます。

7 **「はい」をクリックします。**
製品が再起動します。再起動後、設定が反映されます。

8 **保護管理ツールを起動し、保護機能を「有効」に設定します（→P.17）。**

1.5 不正使用からのセキュリティ

ここでは、不正使用から製品を守るため、本製品で設定できるパスワードや機能などについて説明しています。なお、複数のパスワードや機能を組み合わせることによって、コンピューターの安全性も高まります。

重 要

- 本製品の修理が必要な場合は、必ずパスワードなどのセキュリティを解除してください。
  セキュリティがかかった状態では、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- パスワードは数字だけでなく英字や記号を入れるなど、第三者に推測されないように工夫をしてください。

1.5.1 BIOSのパスワード

コンピューターの起動時のパスワードを設定できます。パスワードを知っている人だけが製品を起動できます。
また、コンピューターの内蔵フラッシュメモリ自体にパスワードを設定できます。
詳しくは、「6.3.1 BIOSのパスワード機能を使う」（→P.103）をご覧ください。

1.5.2 Systemwalker Desktop Keeper for Standalone

USBデバイスの使用を制限し、記憶媒体による情報の持ち出しや持ち込みを防ぎ情報漏えいを防止することができます。
また、USBデバイスに対する利用者の操作の記録、利用者への操作記録の通知を設定できます。
本製品では、ご購入時は次のポートやデバイスが無効に設定されているため、そのままでは使用できません。

- USB（Webカメラなど一部利用可能）

ご使用にあたっては、管理者がパスワードを設定して使用することをお勧めします。
Systemwalker Desktop Keeper for Standaloneの使い方については、「ドライバーズディスク」内のマニュアルをご覧ください。

重 要

- 本アプリを使用する場合は「5.2.1 「ドライバーズディスク検索」からのインストール」（→P.95）をご覧になり、インストールしてください。

1.6 製品の盗難防止

製品本体を持ち出しできないようにすることで、盗難や紛失の危険から保護します。

1.6.1 製品本体の施錠方法

製品本体の盗難防止用ロック取り付け穴に、盗難防止用ケーブルを取り付けることができます。
盗難防止用ロック取り付け穴の場所については、「2章　各部名称」（→P.25）をご覧ください。

POINT

- 弊社がお勧めするワイヤーロック／盗難防止用品については、ご購入元にご確認ください。

2

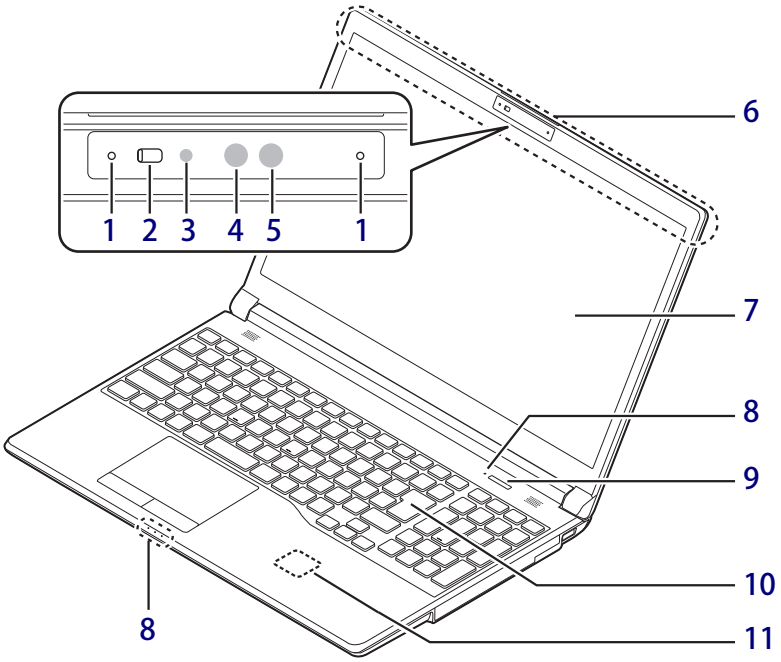
第2章

各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

2.1 製品本体前面 26
2.2 製品本体右側面 28
2.3 製品本体左側面 29
2.4 製品本体背面 30
2.5 製品本体下面 31
2.6 キーボード 32
2.7 状態表示LED 34

2.1 製品本体前面



1 内蔵マイク
音声通話や録音ができます。

2 プライバシーカメラシャッター
カメラを使用しないときは、右に動かしてシャッターを閉めます。
シャッターを閉めると、カメラが使用できないことを示すアイコンがカメラアプリに表示されます。
周囲環境によってはアイコンが表示されない場合があります。

3 Webカメラ状態表示LED
Webカメラが動作しているときに点灯します。

4 顔認証対応Webカメラ
Windowsの起動時などに顔認証によるセキュリティを設定できます。
詳しくは、AuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。

5 顔認証用赤外線発光部
顔認証利用時に赤外線を発光します。

6 ワイヤレスアンテナ

7 液晶ディスプレイ
（→P.40）

8 状態表示LED
（→P.34）

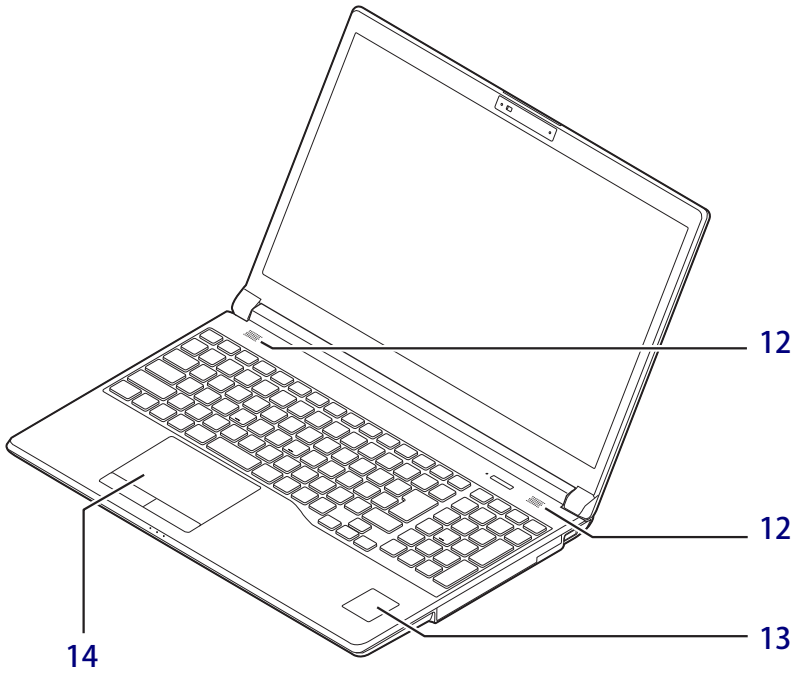
9 電源ボタン
製品本体の電源を入れたり、省電力状態（→P.57）にしたりします。

10 キーボード
（→P.32）

11 FeliCaポート
（FeliCaポート搭載機種）
Windowsの起動、アプリのサインイン時に非接触ICカード技術方式FeliCaに対応したICカードによるセキュリティを設定できます。IDやパスワードなどのセキュリティ情報はICカードに格納します。
詳しくは、AuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。

POINT

- FeliCaを使用する場合は、マークの付近にかざしてください。
- ICカードは製品本体から3mm以下にかざし、マークを中心に前後左右10mmの範囲内で動かしてください。



12 スピーカー
（→P.47）

13 手のひら静脈センサー
（手のひら静脈センサー搭載機種）
製品やWindowsの起動時などに静脈認証によるセキュリティを設定できます。
詳しくは、「3.13 手のひら静脈センサー」（→P.78）およびAuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。

POINT

- 静脈センサーのお手入れ方法については、「7.1.2 手のひら静脈センサー」（→P.114）をご覧ください。

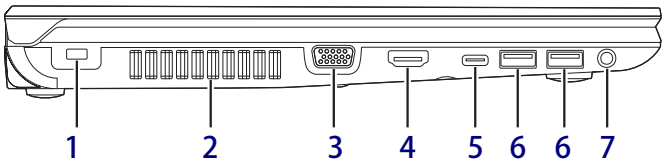
14 フラットポイント
（→P.36）

2.2 製品本体右側面



1 **USB 3.2（Gen1）Type-A コネクタ**
（→P.88）

2.3 製品本体左側面



1 盗難防止用ロック取り付け穴

盗難防止用ケーブルを取り付けます。
弊社がお勧めするワイヤーロック／盗難防止用品については、「カタログ/オプション品対応一覧」のページ（https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/）の「オプション品対応一覧」をご覧ください。

2 排気孔

製品本体内部の熱を外部に逃がします。
排気孔の周辺20cm以内には、物を置かないでください。

3 アナログディスプレイコネクタ

（→P.87）

4 HDMI HDMI出力端子

（→P.87）

5 USB 3.2（Gen2）Type-Cコネクタ

（→P.88）

POINT

- USB Power Deliveryに対応しています。
  仕様については「5.1 本体仕様」（→P.84）をご覧ください。
- 別売のポートリプリケータ（USB Type-C接続）に対応しています。
  ポートリプリケータ（USB Type-C接続）をお使いになる前には、必ず最新のドライバーを適用してください。最新のドライバーは、「ドライバダウンロード」のページ（https://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html）よりダウンロードしてください。

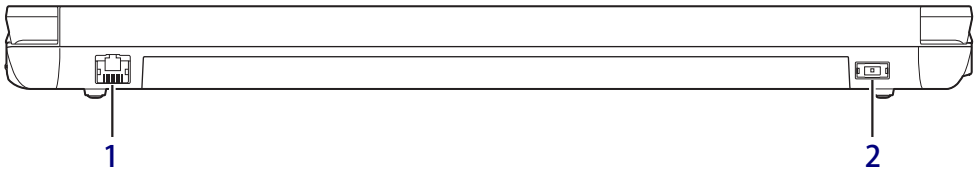
6 USB 3.2（Gen1）Type-Aコネクタ

（→P.88）

7 マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子

（→P.49）

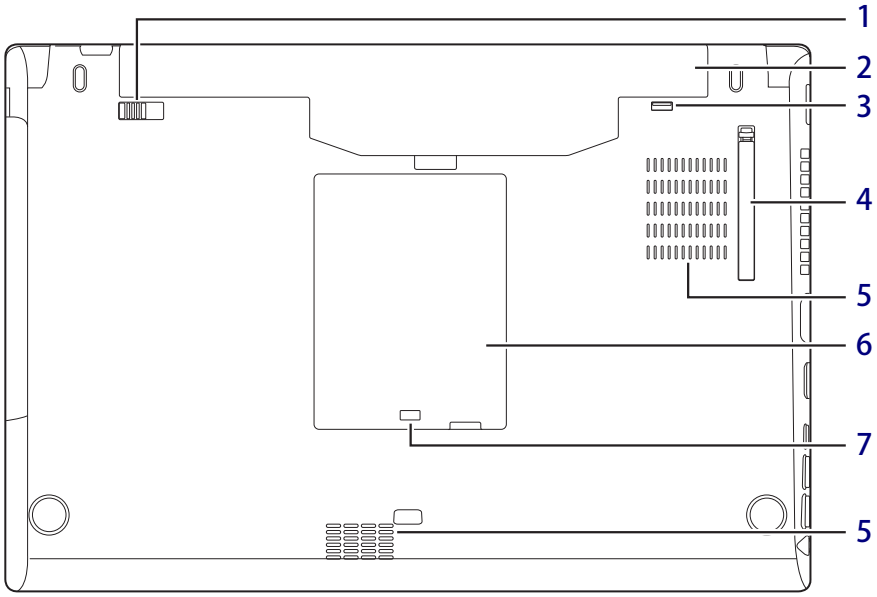
2.4 製品本体背面



1 LANコネクタ
(→P.89)

2 DC-INコネクタ
添付のACアダプタを接続します。

2.5 製品本体下面



1 内蔵バッテリパックロック1
内蔵バッテリパックを取り外すときにスライドさせます。（→P.68）

2 内蔵バッテリパック
（→P.64）

3 内蔵バッテリパックロック2
内蔵バッテリパックを取り外すときに使用します。（→P.68）

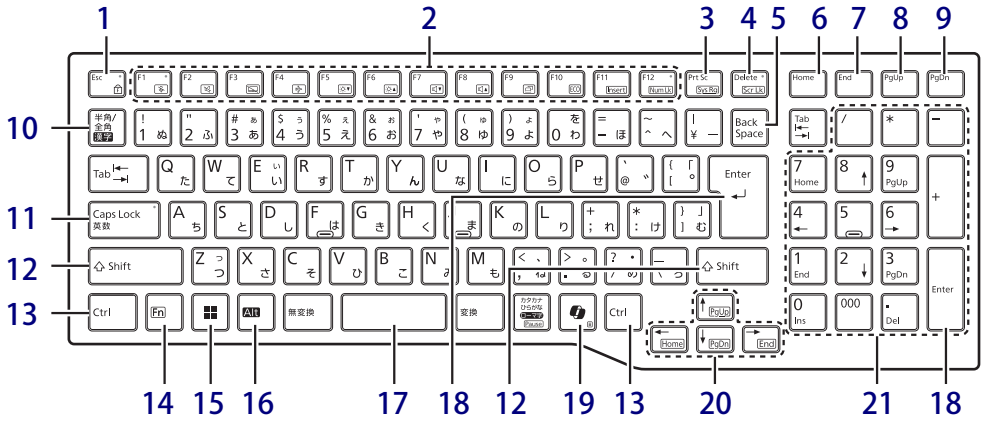
4 ダストカバー
（→P.116）

5 吸気孔
製品本体内部に空気を取り込みます。

6 メモリスロットカバー
（→P.83）

7 メモリスロットカバーロック
（→P.83）

2.6 キーボード



1 【Esc/F】キー

・このキーだけを押すと、現在の作業を取り消します。

・F Lock機能（F）

【Fn】キー（→P.33）を押しながらこのキーを押すごとに、F Lock機能の有効／無効を切り替えます。

F Lock機能を有効にすると、【Fn】キーを押さずにファンクションキーを押すだけで、ホットキー（→P.32）の機能を使用できます。

重 要

- F Lock機能の有効／無効は、「Function Key Lock Utility」でも切り替えることができます。
- 「Function Key Lock Utility」をお使いになる場合は、ストアからインストールする必要があります。
  「ドライバーズディスク」内にある「Readme.txt」をご覧になり、ストアのURLやインストール時の注意をご確認ください。

POINT

- F Lock機能は、Windowsが起動している場合にのみ使用できます。
  Windows起動前およびBIOSセットアップでは、F Lock機能は使用できません。

2 ファンクションキー／ホットキー

・ファンクションキー（【F1】～【F12】）

アプリごとにいろいろな機能が割り当てられています。

・ホットキー（枠で囲われている刻印）

【Fn】キー（→P.33）を押しながら使用したい機能のキーを押します。

POINT

- F Lock機能（→P.32）が有効の場合は、【Fn】キーを押さずにホットキーだけを押します。

各ホットキーの機能は次のとおりです。

	マイクミュートのオン／オフを切り替える ・オンときは、マイクミュートランプ（→P.34）が点灯
	スピーカーやヘッドホンのオン／オフを切り替える（→P.47）
	フラットポイントの有効と無効を切り替える（→P.38）
	無線通信の電波の発信／停止を切り替える
▼	液晶ディスプレイを暗くする（→P.40）
▲	液晶ディスプレイを明るくする（→P.40）
▼	音量を小さくする（→P.47）
▲	音量を大きくする（→P.47）
	外部ディスプレイを接続した場合に、液晶ディスプレイと外部ディスプレイで表示先を切り替える
ECO	省エネ機能の設定を切り替える（→P.62）
Insert	入力する文字の挿入／上書きを切り替える
Num Lk	テンキーでの入力のオン／オフを切り替える ・オンのときは、Num Lockランプ（→P.34）が点灯

3 【Prt Sc】キー
画面に表示されている内容を画像としてコピーできます。

4 【Delete】キー／【Scr Lk】キー

【Delete】キー	カーソルの右側にある1文字を削除する
【Scr Lk】キー	【Fn】キーと組み合わせて使う ・Scroll Lockランプ（→P.34）が点灯

5 【Back Space】キー

6 【Home】キー

7 【End】キー

8 【Page Up】キー

9 【Page Down】キー

10 【半角／全角】キー
日本語入力のオン／オフを切り替えます。

11 【Caps Lock】キー
【Shift】キーを押しながらこのキーを押して、アルファベットの大文字／小文字を切り替えます。
大文字入力モードのときは、Caps Lockランプ（→P.34）が点灯します。

12 【Shift】キー

13 【Ctrl】キー

14 【Fn】キー
このキーを押しながら、ホットキー（→P.32）を押すと、それぞれのキーに割り当てられた機能を使用できます。

POINT

- F Lock機能（→P.32）が有効の場合、【Fn】キーを押さずにホットキーを押すだけで、ホットキーの機能を使用できます。

15 【⊞】（Windows）キー
「スタート」メニューを表示します。

16 【Alt】キー

17 【Space】キー
文字を入力するときに、空白（スペース）を入力します。

18 【Enter】キー

19 【Copilot】キー／【☰】キー
・【Copilot】（Copilot）キー
「検索」を起動します。
・【☰】（アプリケーション）キー
【Fn】キーを押しながらこのキーを押すと、アプリケーションキーになります。
選択した項目のショートカットメニューを表示します。
マウスなどの右クリックと同じ役割をします。

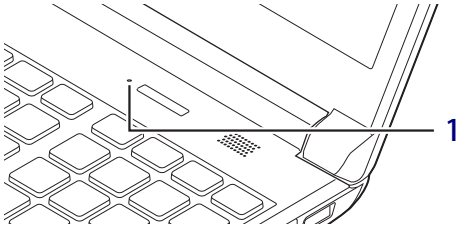
20 カーソルキー
矢印の方向にカーソルを移動します。
また、【Fn】キーを押しながらカーソルキーを押すと、次の機能を使用できます。

【←/Home】	カーソルを行の最初に移動する
【Ctrl】＋【←/Home】	文章の最初に移動する
【↑/Pg Up】	前の画面に切り替える
【↓/Pg Dn】	次の画面に切り替える
【→/End】	カーソルを行の最後に移動する
【Ctrl】＋【→/End】	文章の最後に移動する

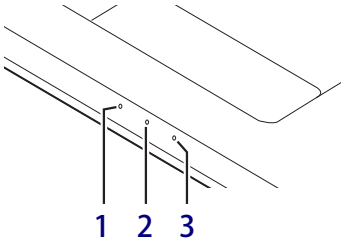
21 テンキー
Num Lockランプ（→P.34）点灯時に数字が入力できます。
Num Lockランプ（→P.34）消灯時にキー下段に刻印された機能が有効になります。

2.7 状態表示LED

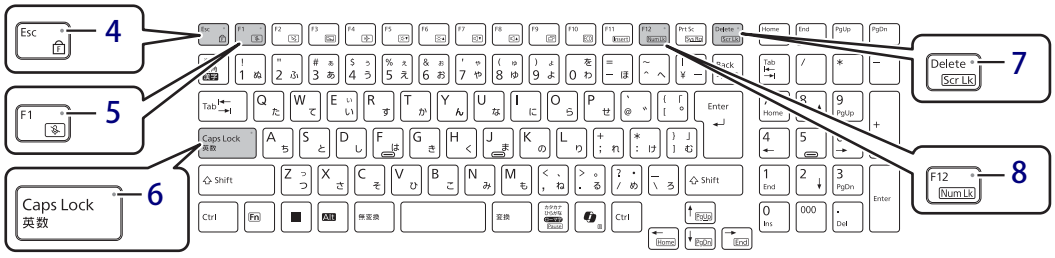
■ 電源ボタン横のランプ



■ 製品本体前面のランプ



■ キーボード上のランプ



1 ⏻ **電源ランプ**

本製品の状態を表示します。

LEDランプ	本製品の状態
点灯	動作状態
点滅	スリープ状態[注]
消灯	電源オフまたは休止状態

注 ：スリープ（→P.57）中は、一部の機能は動作します。
また、動作状況によりLEDランプが点滅ではなく点灯となる場合があります。

2 **バッテリーステータスランプ**

（→P.67）／（→P.67）

3 **ディスクアクセスランプ**

内蔵内蔵フラッシュメモリや光学ドライブにアクセスしているときに点灯します。

4 **F Lockランプ**

F Lock機能（→P.32）が有効のときに点灯します。
ランプ点灯時は、【Fn】キーを押さずにファンクションキーを押すだけで、ホットキー（→P.32）の機能を使用できます。

5 **マイクミュートランプ**

外付けマイクを含むすべてのマイクがミュート（消音）のときに点灯します。

POINT

- 【Fn】＋【F1】キーを押すたびに、マイクのオン／オフを切り替えます。

6 **Caps Lockランプ**

アルファベットの大文字入力モードのときに点灯します。

7 **Scroll Lockランプ**

【Fn】＋【Scr Lk】キーを押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。
ランプ点灯中の動作は、アプリに依存します。

8 **Num Lockランプ**

テンキーによる数字の入力がオンのときに点灯します。

3

第3章

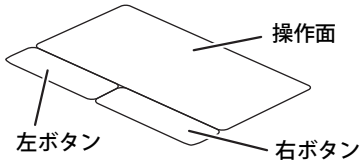
取り扱い

本製品を使用するうえでの基本操作や、本製品に取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

3.1 フラットポイント 36
3.2 マウス 39
3.3 ディスプレイ 40
3.4 マルチディスプレイ機能 42
3.5 画面表示の回転 44
3.6 サウンド 47
3.7 省電力 57
3.8 バッテリー 64
3.9 通信 72
3.10 セキュリティチップ （TPM） 75
3.11 電源オフUSB充電機能 76
3.12 AIカメラエフェクター 77
3.13 手のひら静脈センサー 78

3.1 フラットポイント

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインターを動かすことのできるポインティングデバイスです。
ここでは、フラットポイントの機能について説明しています。



POINT

- 設定の変更は、内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能を「無効」にして行う必要があります。「有効」のまま変更すると、製品の再起動後に設定が解除されてしまいます。
  設定変更後は、書込保護機能を「有効」にしてください。
  書込保護機能の設定方法については、「1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能」（→P.14）をご覧ください。

3.1.1 注意事項

- フラットポイントは操作面表面の結露、湿気などにより誤動作することがあります。また、濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいは操作面の表面が汚れている場合は、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。このような場合は、電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- フラットポイントは、その動作原理上、指先の乾燥度などにより、動作に若干の個人差が発生する場合があります。

3.1.2 基本操作

左ボタン／右ボタンを押すと、マウスの左クリック／右クリックの動作をします。またフラットポイントの操作面を軽く、素早くたたく（タップする）とマウスの左クリックの動作をします。
操作面を指先でなぞると、画面上のマウスポインターが移動します。マウスポインターが操作面の端まで移動した場合は、一度操作面から指を離し、適当な場所に降ろしてからもう一度なぞってください。

POINT

- 指の先が操作面に接触するように操作してください。指の腹を押さえつけるように操作すると、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。

左右のボタンの機能や、マウスポインター、ダブルクリック、スクロールの速度などの設定を変更をする場合は、「3.2.2 マウスの基本設定を変更する」（→P.39）をご覧ください。

3.1.3 フラットポイントの設定を変更する

1 「スタート」ボタン→ （設定）の順にクリックします。

2 「Bluetoothとデバイス」をクリックします。

3 「タッチパッド」をクリックします。

4 各項目で、使いたい機能を設定します。
必要に応じて設定を変更してください。

タッチパッド	フラットポイントのオンとオフを切り替えます。
	マウス接続時のフラットポイントのオン／オフを切り替えます。
カーソル速度	カーソルの速度を変更します。
タップ	キーボード操作時にフラットポイントに触れ誤入力が起きるときは、フラットポイントの感度を下げます。
	1本指での操作、2本指での操作を設定します。
スクロールとズーム	2本指でのスクロール、スクロールの方向、ズーム操作を設定します。
3本指ジェスチャの設定	3本指でのスワイプ時の設定、タップ時の設定を行います。
4本指ジェスチャの設定	4本指でのスワイプ時の設定、タップ時の設定を行います。

POINT

- 本機能は、使用するアプリやアプリの状態によって、動作が異なったり、お使いになれなかったりすることがあります。

3.1.4 フラットポイントの有効／無効を切り替える

重 要

- フラットポイントを無効にする場合は、必ずUSBマウスを接続してください。

■ キーボードで切り替える

【Fn】＋【F3】キーを押すたびに、次のようにフラットポイントの設定が切り替わります。

無効 → 有効

POINT

- 【Fn】＋【F3】キーを押すたびに、画面右下に状況を示すメッセージが表示されます。
- F Lockランプ（→P.34）が点灯している場合はF Lock機能（→P.32）が有効になっているので、【Fn】キーを押さずに【F3】キーを押すだけで切り替わります。

■ 設定で切り替える

1 「スタート」ボタン→（設定）の順にクリックします。

2 「Bluetoothとデバイス」をクリックします。

3 「タッチパッド」をクリックします。

4 「タッチパッド」のオン／オフを切り替えます。

・「オン」：フラットポイントを有効にする
・「オフ」：フラットポイントを無効にする

POINT

- 次の操作で、マウスとフラットポイントを同時に使用する設定を変更できます。
  1. 「スタート」ボタン→（設定）の順にクリックします。
  2. 「Bluetoothとデバイス」をクリックします。
  3. 「タッチパッド」をクリックします。
  4. 「マウスの接続時にタッチパッドをオフにしない」で設定を変更します。
     ・チェックを付ける：マウスとフラットポイントを同時に使用できます。
     ・チェックを外す：マウス接続時にフラットポイントが無効になります。

3.2 マウス

対 象　マウス使用時

ここでは、マウスの基本設定について説明しています。

POINT

- 設定の変更は、内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能を「無効」にして行う必要があります。「有効」のまま変更すると、製品の再起動後に設定が解除されてしまいます。
  設定変更後は、書込保護機能を「有効」にしてください。
  書込保護機能の設定方法については、「1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能」（→P.14）をご覧ください。

3.2.1 注意事項

- 光学式マウスは、マウス底面から赤い光を発しています。レーザー式マウスは、マウス底面から目には見えないレーザー光を発しています。直接目に向けると、目に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスのセンサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、次のようなものの表面では、正しく動作しない場合があります。
  ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
  ・光沢のあるもの
  ・濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
  ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、本来はマウスパッドを必要としませんが、マウス本体や傷が付きやすい机、テーブルの傷防止のために、マウスパッドをお使いになることをお勧めします。

3.2.2 マウスの基本設定を変更する

左右のボタンの機能や、マウスポインター、ダブルクリック、スクロールの速度などは、「マウスのプロパティ」で変更できます。

1 **「スタート」ボタン→（設定）の順にクリックします。**

2 **「Bluetoothとデバイス」をクリックします。**

3 **「マウス」をクリックします。**
それぞれの項目で設定を変更します。

3.3 ディスプレイ

ここでは、本製品の液晶ディスプレイを使う方法について説明しています。
複数のディスプレイを使ってマルチディスプレイ機能を使う方法については、「3.4 マルチディスプレイ機能」（→P.42）をご覧ください。

POINT

- 設定の変更は、内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能を「無効」にして行う必要があります。「有効」のまま変更すると、製品の再起動後に設定が解除されてしまいます。
  設定変更後は、書込保護機能を「有効」にしてください。
  書込保護機能の設定方法については、「1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能」（→P.14）をご覧ください。

3.3.1 注意事項

- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- 仮想環境によっては正しく表示されない場合があります。必ず事前検証をお願いします。

3.3.2 明るさを調整する

本製品の液晶ディスプレイの明るさは、次の方法で変更できます。

POINT

- ご購入時およびリカバリ後は、ディスプレイの明るさの設定は最大になっていません。
  暗いと感じる場合などは必要に応じて明るさを調整してください。

■ スライダーで変更する

1. **「スタート」ボタン→ （設定）→「システム」の順にクリックします。**
2. **「ディスプレイ」をクリックします。**
3. **「明るさ」のスライダーを左右に動かします。**
   スライダーを右に動かすと明るく、左に動かすと暗くなります。

POINT

- クイック設定（→P.9）でも明るさを調整できます。
  のスライダーを左右に動かすごとに、明るさのレベルが変わります。

■ キーボードで明るさを変更する

【Fn】＋【F6】キーを押す	明るくする
【Fn】＋【F5】キーを押す	暗くする

POINT

- F Lockランプ（→P.34）が点灯している場合はF Lock機能（→P.32）が有効になっているので、【Fn】キーを押さずに【F6】／【F5】キーを押すだけで明るさを変更できます。

画面左上部に明るさを示すインジケーターが表示されます。

3.3.3 解像度を変更する

ここでは、ディスプレイの解像度、リフレッシュレートの変更方法について説明します。

1 **「スタート」ボタン→ （設定）→「システム」の順にクリックします。**

2 **「ディスプレイ」をクリックします。**

3 **解像度を変更します。**

1.「ディスプレイの解像度」で設定したい解像度を選択します。
2. 設定を確認するメッセージが表示されたら、「変更の維持」をクリックします。

4 **リフレッシュレートを変更します。**

1.「ディスプレイの詳細設定」をクリックします。
2.「ディスプレイを選択して、その設定を表示または変更します」でディスプレイを選択します。
3.「リフレッシュレートの選択」でリフレッシュレートを変更します。

POINT

- 設定可能な値は、「9.3 ディスプレイ」（→P.154）をご覧ください。
- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

3.4 マルチディスプレイ機能

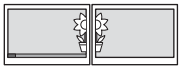
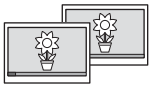
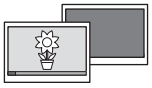
本製品に外部ディスプレイを接続すると、マルチディスプレイ機能が使えるようになります。
ディスプレイの取り扱いについては、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。
外部ディスプレイを接続する方法については、「4.3.2 ディスプレイコネクタ」（→P.87）をご覧ください。

POINT

- 設定の変更は、内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能を「無効」にして行う必要があります。「有効」のまま変更すると、製品の再起動後に設定が解除されてしまいます。
  設定変更後は、書込保護機能を「有効」にしてください。
  書込保護機能の設定方法については、「1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能」（→P.14）をご覧ください。

3.4.1 マルチディスプレイ機能とは

マルチディスプレイ機能により、複数のディスプレイを使用した次のような表示方法を選択できます。

表示方法	説明
拡張デスクトップ表示 	複数のディスプレイを1つの画面として表示します。 Windowsのタスクバーはすべてのディスプレイに表示されます。 それぞれのディスプレイの解像度は別々に設定できます。
クローン表示 	複数のディスプレイに同一の画面を表示します。 すべてのディスプレイの解像度は同じである必要があります。
シングル表示 	複数のディスプレイのどれか1つに画面を表示します。 表示するディスプレイは切り替えることができます。

【⊞】＋【P】キーおよび【Fn】＋【F9】キーを押すことで、表示方法を選択する画面を表示できます。

3.4.2 注意事項

- お使いのディスプレイと本製品の両方が対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
- マルチディスプレイ機能を変更するときは、動画を再生するアプリは終了してください。
- マルチディスプレイ機能は、Windowsが起動している場合にのみ有効です。
- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- 最大4画面でマルチディスプレイを設定することができます。
- 仮想環境によっては正しく表示されない場合があります。必ず事前検証をお願いします。

3.4.3 マルチディスプレイ機能を設定する

1 **「スタート」ボタン→ (設定）→「システム」の順にクリックします。**

2 **「ディスプレイ」をクリックします。**

3 **画面上部の選択肢から、表示する設定を選択します。**

表示画面を複製する	クローン表示になります。
表示画面を拡張する	拡張デスクトップ表示になります。
1のみに表示する	シングル表示になります。製品本体のディスプレイのみに表示します。
2のみに表示する	シングル表示になります。外部ディスプレイのみに表示します。

4 **設定を確認するメッセージが表示されたら、「変更の維持」をクリックします。**

5 **必要に応じて、表示する画面の位置、明るさ、解像度、向きを選択します。**

POINT

- 設定可能な値は、「9.3 ディスプレイ」（→P.154）をご覧ください。
- リフレッシュレートを変更する場合は、「3.3.3 解像度を変更する」（→P.41）の手順4を行ってください。
- 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

3.5 画面表示の回転

使用する状況により、製品の画面の向きを変更することができます。

POINT

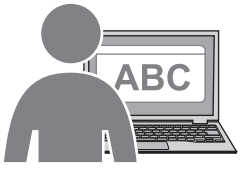
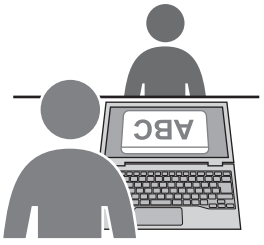
- 設定の変更は、内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能を「無効」にして行う必要があります。「有効」のまま変更すると、製品の再起動後に設定が解除されてしまいます。
  設定変更後は、書込保護機能を「有効」にしてください。
  書込保護機能の設定方法については、「1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能」（→P.14）をご覧ください。

3.5.1 画面表示の向きを変える

画面表示の向きは、次の方法で変更できます。

■「画面反転ユーティリティ」 で変更する

製品の画面を開いた状態で対面の人に見せやすいように、画面表示を簡単に変更できます。
次の組合せでキーボードを押して、画面表示の向きを切り替えます。

画面表示の向き	 通常画面 横表示	 反転画面 横 （反対向き）表示
キーボードの操作	【Ctrl】+【Alt】+【↑】キーを押す	【Ctrl】+【Alt】+【↓】キーを押す

重 要

- 外部ディスプレイを接続している場合は、本機能は使用できません。
- 外付けのキーボードからは操作できません。本製品のキーボードで操作してください。

□ 反転画面にする場合

1. **液晶ディスプレイを対面の人が見えるように開きます。**
2. **【Ctrl】+【Alt】+【↓】キーを押します。**
   「画面反転ユーティリティ」ウィンドウが表示されます。

3 「実行」をクリックします。

画面表示の向きが180度反転し、横（反対向き）表示になります。

重 要

- 画面表示の切り替え（キーボード操作）は、液晶ディスプレイを対面の人が見えるように開いた状態で行ってください。
- 反転画面時の画面操作はフラットポイントで行ってください。マウスでの操作は、カーソルが逆方向に動きます。
- 書込保護機能を「有効」にして反転画面で電源を切った場合は、次に電源を入れたときには変更前（通常画面）の表示に戻ります。

POINT

- 「次回以降、キー操作時の確認メッセージを表示せずに実行する」にチェックを付けて「実行」をクリックすると、次の操作から「画面反転ユーティリティ」ウィンドウは表示されずに画面表示の向きが切り替わります。
  キー操作時に「画面反転ユーティリティ」ウィンドウを表示させるには、次の手順を行ってください。
  1. 「スタート」ボタン→（設定）→「Extras」→「画面反転ユーティリティ」の順にクリックします。
  2. アプリの動作の「キー操作時に確認メッセージを表示する」をオンにします。

□通常画面に戻す場合

1 液晶ディスプレイを戻す前に、【Ctrl】+【Alt】+【↑】キーを押します。

「画面反転ユーティリティ」ウィンドウが表示されます。

2 「実行」をクリックします。

画面表示の向きが通常画面に戻り、横表示になります。

重 要

- 画面表示の切り替え（キーボード操作）は、液晶ディスプレイを対面の人が見えるように開いた状態で行ってください。

POINT

- 「次回以降、キー操作時の確認メッセージを表示せずに実行する」にチェックを付けて「実行」をクリックすると、次の操作から「画面反転ユーティリティ」ウィンドウは表示されずに画面表示の向きが切り替わります。
  キー操作時に「画面反転ユーティリティ」ウィンドウを表示させるには、次の手順を行ってください。
  1. 「スタート」ボタン→（設定）→「Extras」→「画面反転ユーティリティ」の順にクリックします。
  2. アプリの動作の「キー操作時に確認メッセージを表示する」をオンにします。

3 液晶ディスプレイを自分が見えるように起こします。

■ 手動で向きを変更する

製品本体の向きにかかわらず手動で画面表示の向きを変更できます。

1 **「スタート」ボタン→ （設定）→「システム」の順にクリックします。**

2 **「ディスプレイ」をクリックします。**

3 **「画面の向き」で変更したい向きを選択します。**

選択メニュー	横	縦	横（反対向き）	縦（反対向き）
画面表示の向き				

「ディスプレイの設定を維持しますか？」と表示されます。

4 **「変更の維持」をクリックします。**

3.6 サウンド

ここでは、音量の調節方法やオーディオ端子の機能の切り替え方法などについて説明しています。オーディオ端子に機器を接続する方法については、「4.3.4 オーディオ端子」（→P.89）をご覧ください。

POINT

- 設定の変更は、内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能を「無効」にして行う必要があります。「有効」のまま変更すると、製品の再起動後に設定が解除されてしまいます。
  設定変更後は、書込保護機能を「有効」にしてください。
  書込保護機能の設定方法については、「1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能」（→P.14）をご覧ください。

3.6.1 全体の再生音量を調節する

製品本体のスピーカーや、本製品に接続されたヘッドホンの再生音量は、次の操作で調節します。

【Fn】＋【F8】キーを押す	音量を上げる
【Fn】＋【F7】キーを押す	音量を下げる
【Fn】＋【F2】キーを押す	ミュートする／ミュートを解除する

POINT

- F Lockランプ（→P.34）が点灯している場合はF Lock機能（→P.32）が有効になっているので、【Fn】キーを押さずに【F8】／【F7】／【F2】キーを押すだけで音量を変更できます。

画面左上部に音量を示すインジケーターが表示されます。

POINT

- 通知領域の「スピーカー」アイコン（）をクリックして表示されるスライダーで調節することもできます。

3.6.2 アプリごとの再生音量を調節する

アプリごとの再生音量は「音量ミキサー」で調節します。

1 **音量を調節するアプリを起動します。**

2 **通知領域の「スピーカー」アイコン（）を右クリックし、「音量ミキサーを開く」をクリックします。**

3 **「アプリ」の一覧で、音量の設定を変更したいアプリの音量を調節します。**

3.6.3 機器や項目ごとの音量を調節する

機器や項目ごとの音量は次の手順で調節します。
調節できる機器や項目は、「■ 再生するときに調節できる機器と項目」（→P.48）、「■ 録音するときに調節できる機器と項目」（→P.49）をご覧ください。

1 **音量を調節したい機器が接続されていない場合は接続します。**
「4.3.4 オーディオ端子」（→P.89）

2 **通知領域の「スピーカー」アイコン（）を右クリックします。**

3 **「サウンドの設定」をクリックします。**

4 **詳細設定の「サウンドの詳細設定」をクリックします。**
「サウンド」ウィンドウが表示されます。

5 **「再生」タブまたは「録音」タブをクリックします。**

6 **音量を調節したい機器を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。**

7 **「レベル」タブをクリックします。**

8 **音量を調節したい項目で音量を調節し、「OK」をクリックします。**

■ 再生するときに調節できる機器と項目

機器／項目	説明
スピーカー	
Realtek HD Audio output	製品本体のスピーカーや本製品に接続されたヘッドホンから出力される音の再生音量
ヘッドホン	
ヘッドホン	オーディオ端子に接続したヘッドセットから入出力される音および、ヘッドホンやスピーカーアウトで接続した機器から出力される音の再生音量
［ディスプレイ名］注1注2	
インテル(R) ディスプレイ用オーディオ	ディスプレイから出力される音の再生音量

注1 ：「［ディスプレイ名］」には、接続されたディスプレイの名称が表示されます。
注2 ：次のコネクタに、音声出力に対応したディスプレイを続した場合に表示されます。
- HDMI出力端子
- USB Type-Cコネクタ

■ 録音するときに調節できる機器と項目

機器／項目		説明
マイク配列		
	マイク配列	内蔵マイクから入力される音の録音音量
マイク		
	マイク	オーディオ端子（マイク入力設定時）から入力される音の録音音量
	マイクブースト	マイクブーストのレベル（マイク入力設定時）
ライン入力		
	ライン入力	オーディオ端子にライン入力で接続した機器から入力される音の録音音量

3.6.4 オーディオ端子の機能を切り替える

オーディオ端子（マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子）の機能は、次の手順で切り替えます。

1. **オーディオ端子に機器を接続します（→P.89）。**
2. **「スタート」ボタン→「すべて」→「Realtek Audio Console」の順にクリックします。**
3. **「デバイス詳細設定」をクリックします。**
4. **「コネクタを再接続しています」の下に表示されているコネクタで、使用したいデバイスを選択します。**

3.6.5 既定のオーディオ機器を選択する

音声を録音または再生する機器が複数使用可能な場合、既定の機器を選択できます。

1. **通知領域の「スピーカー」アイコン（）を右クリックします。**
2. **「サウンドの設定」をクリックします。**
3. **詳細設定の「サウンドの詳細設定」をクリックします。**
   「サウンド」ウィンドウが表示されます。
4. **「再生」タブまたは「録音」タブをクリックします。**
5. **既定に設定する機器を選択し、「既定値に設定」をクリックします。**
6. **「OK」をクリックします。**

3.6.6 AIノイズキャンセラー

本機能はオンライン通話アプリ使用時に周囲のノイズを低減することができます。
オンライン通話などで、環境ノイズ（キーボードの打鍵音、電話の着信音、ペットの鳴き声、生活音など）を識別し、まわりのノイズを自動で低減させることで、会話をしやすくします。
また、AI登録ボイスフォーカスモードを使用すると、登録した声を強調することができます。

■ 注意事項

- 仮想環境によっては本機能がご利用できない場合があります。必ず事前検証をお願いします。
- 一部のオンライン通話アプリおよびヘッドセットなどの接続機器によっては、本機能がご利用できない場合があります。
- 一部のオンライン通話アプリでは、本機能の設定切り替え時、オンライン通話アプリが正常に動作しなくなる場合があります。
  正常に動作しなくなった場合は、オンライン通話アプリの通話を再接続、または通話アプリや製品を再起動してください。
- 本機能のご利用により製品の動作が遅く感じる場合は、他のアプリを終了させてからオンライン通話アプリをご利用ください。
- 「スピーカーノイズ除去（音声通話）」をオンにして、オンライン通話アプリで通話中に次の操作をすると、再生中の音がカットされることがあります。
  その場合は、「スピーカーノイズ除去（音声通話）」をオフにしてください。
  ・動画や音楽を再生する
  ・アプリ上で動画再生などを共有する
- 「スピーカーノイズ除去（音声通話）」をオンに設定している場合、一部のオンライン通話アプリでは通話中に製品のシステム音などがカットされることがあります。また、一部のオンライン通話アプリのオーディオテストで、テスト音が聞こえないことがあります。
  その場合は、「スピーカーノイズ除去（音声通話）」をオフにしてください。
- 「AI登録ボイスフォーカスモード」を利用する場合は、事前に声の登録を行ってください。また、使用するマイクごとに声の登録が必要となります。
  ・登録した声以外の声すべてを低減できるわけではありません。
  ・効果が感じられない場合は再度声の登録を行ってください。
- 「AI登録ボイスフォーカスモード」をUSBヘッドセットで使用する場合、声の登録時と異なるUSBコネクタに接続すると効果が出ない場合があります。その場合は声の登録を行ってください。
- ヘッドセットなどの接続機器をお使いの場合
  ・接続機器は、製品本体に接続してお使いください。
  ・接続機器をはじめてお使いになる場合、機器を接続した状態で設定をオンにしてください。
  ・本機能が効かない場合は、設定を一度オフにしてから再度オンにしてください。
- 「AI登録ボイスフォーカスモード」は多くの電力を使用するため、バッテリー運用で使用する場合は駆動時間が短くなります。その場合はACアダプタを接続してください。
- オーディオドライバーを最新バージョンにアップデートしてご利用ください。

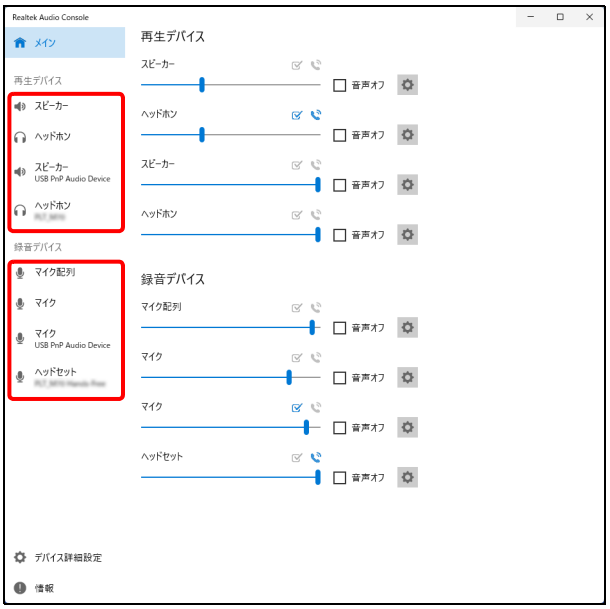
■ AIノイズキャンセラーを使用する

1 「スタート」ボタン→「すべて」→「Realtek Audio Console」の順にクリックします。
「Realtek Audio Console」が表示されます。

2 マイクおよびスピーカーの効果を設定します。

●マイクの効果を設定する場合
通話相手に自分の声を聞きやすくします。
「録音デバイス」から設定する機器をクリックします。（→P.52）

●スピーカーの効果を設定する場合
通話相手のノイズを低減し、自身が聞きやすくします。
「再生デバイス」から設定する機器をクリックします。（→P.55）



上の画面は表示例です。
「再生デバイス」および「録音デバイス」の機器は、接続されている機器のみ表示されます。

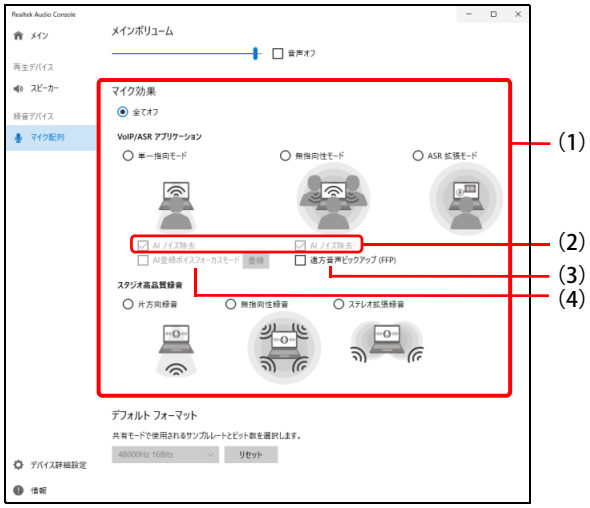
POINT

- 音量スライダー横の⚙をクリックしても、設定画面が表示されます。
- スピーカー内蔵ディスプレイを接続している場合、ディスプレイのスピーカーは表示されません。

■ マイクの効果を設定する

通話相手に自分の声を聞きやすくする機能です。
使用するマイクにより、表示される画面および設定項目が異なります。

● 製品の内蔵マイクを使用する場合



(1) マイク効果の設定を変更する
- 全てオフ
  すべてのマイク効果をオフにします。
- 単一指向モード
  オンライン通話アプリで一人で通話するときに使用します。
  ※ 製品正面で会話してください。製品の横から拾われる音は低減されるため、相手への音声が小さくまたは聞こえなくなります。
- 無指向性モード
  複数人でオンライン通話アプリで通話するときに使用します。
  ※ 全方向からの音をマイクが拾うため、周囲の通話に参加していない人の声も拾うのでご注意ください。
- ASR拡張モード
  音声認識をしやすくします。(AIノイズ除去は設定できません。)
- 次の録音モードは内部処理を高品質に行うモードです。
  動画の撮影などで使用できます。(AIノイズ除去などのAI機能には対応していません。)
  - 片方向録音　　：横方向からの音を低減して録音します。
  - 無指向性録音　　：全方位の音を録音します。
  - ステレオ拡張録音：左右（ステレオ）方向からの音を録音します。

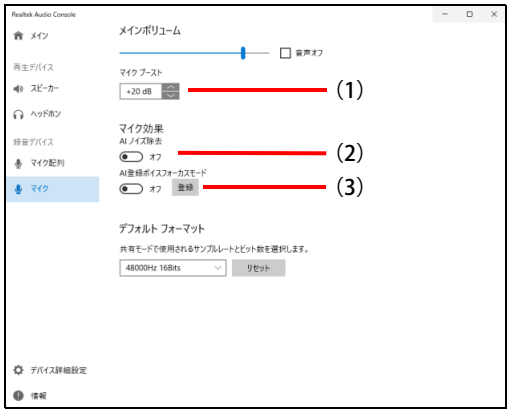
(2) AIノイズキャンセラーの設定を変更する
- チェックを付ける：AIノイズ除去（AIノイズキャンセラー）をオンにします。
- チェックを外す　：AIノイズ除去（AIノイズキャンセラー）をオフにします。

(3) 遠方音声ピックアップ（FFP）
- オン：数メートル離れたところで発生した声も拾いやすくします。
- オフ：遠方音声効果をオフにします。

(4) AI登録ボイスフォーカスモード
事前に声を登録することで、登録した声を強調しそれ以外の声を低減することができます。
- オン：オンライン通話で通話者の声を強調します。
- オフ：本効果をオフにします。

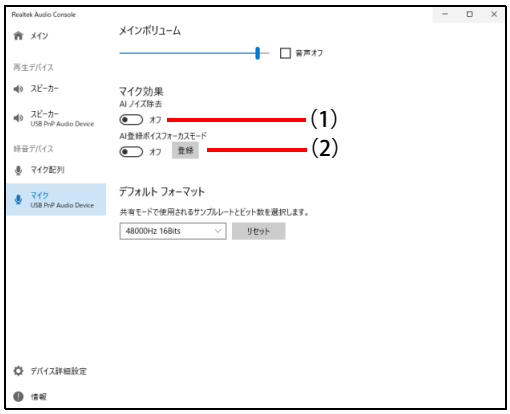
※ 声を登録する場合は、「□ 特定の声を登録する」(→P.54)をご覧ください。

● **オーディオ端子に機器を接続した場合**



(1) マイクの感度を調節する
マイクが拾う音の感度を調節します。
(2) AIノイズキャンセラーの設定を変更する
・ オン：AIノイズ除去（AIノイズキャンセラー）をオンにします。
・ オフ：AIノイズ除去（AIノイズキャンセラー）をオフにします。
(3) AI登録ボイスフォーカスモード
事前に声を登録することで、登録した声を強調しそれ以外の声を低減することができます。
・ オン：オンライン通話で通話者の声を強調します。
・ オフ：本効果をオフにします。
※ 声を登録する場合は、「□ 特定の声を登録する」（→P.54）をご覧ください。

● **Bluetooth接続／USBコネクタに機器を接続した場合**



(1) AIノイズキャンセラーの設定を変更する
・ オン：AIノイズ除去（AIノイズキャンセラー）をオンにします。
・ オフ：AIノイズ除去（AIノイズキャンセラー）をオフにします。
(2) AI登録ボイスフォーカスモード
事前に声を登録することで、登録した声を強調しそれ以外の声を低減することができます。
・ オン：オンライン通話で通話者の声を強調します。
・ オフ：本効果をオフにします。
※ 声を登録する場合は、「□ 特定の声を登録する」（→P.54）をご覧ください。

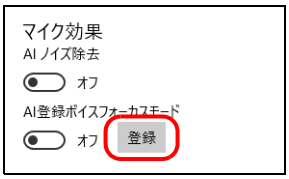
POINT

▶ 接続した機器や選択した項目によっては、一部使用できない機能（グレーアウトし選択不可）があります。

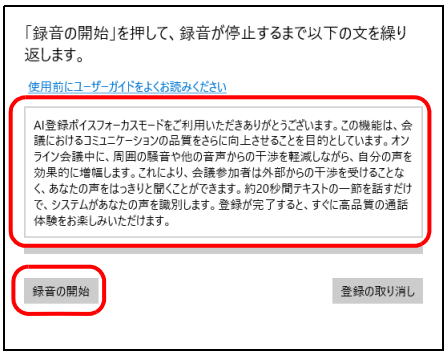
□特定の声を登録する

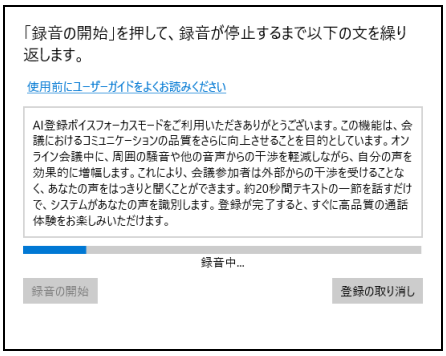
次の手順で、声を登録してください。

1 「AI登録ボイスフォーカスモード」の「登録」をクリックします。



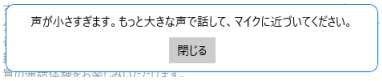
2 「録音の開始」をクリックし、囲みの文章または任意の文章を読み上げ声を録音します。
読み上げている音声を検知すると、プログレスバーが進行します。

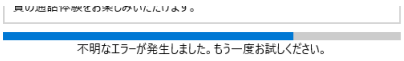




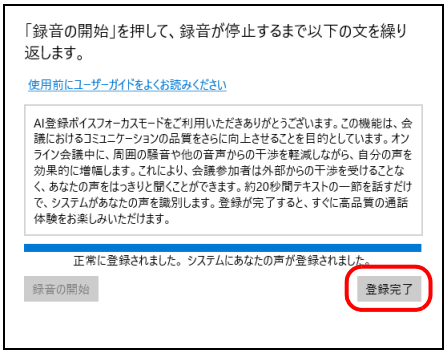
重 要

- エラーが発生したときは、もう一度「登録の開始」からやり直してください。
  うまく録音できない場合は、次のようなメッセージが表示されます。





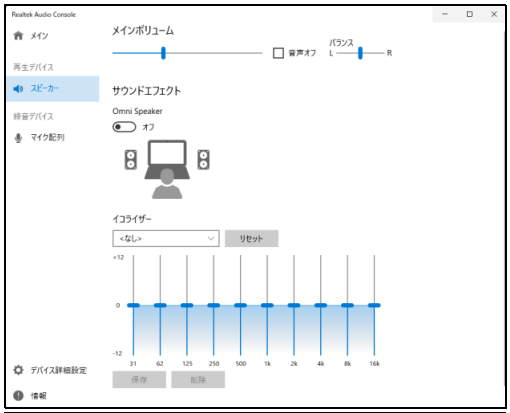
3 正常に登録されたというメッセージが表示されたら、「登録完了」をクリックします。

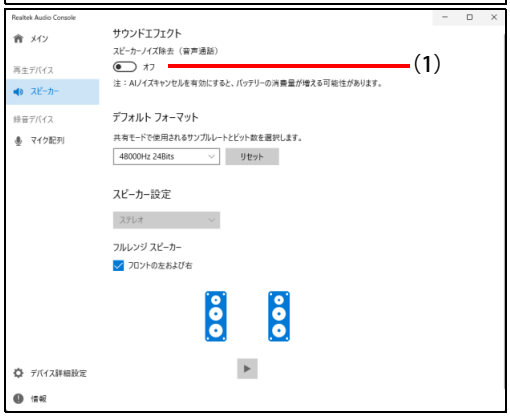


■ スピーカーの効果を設定する

通話相手のノイズを低減し、自身が聞きやすくなる機能です。
使用するスピーカーにより、表示される画面が異なります。

● 製品本体の内蔵マイク使用／オーディオ端子に機器を接続した場合





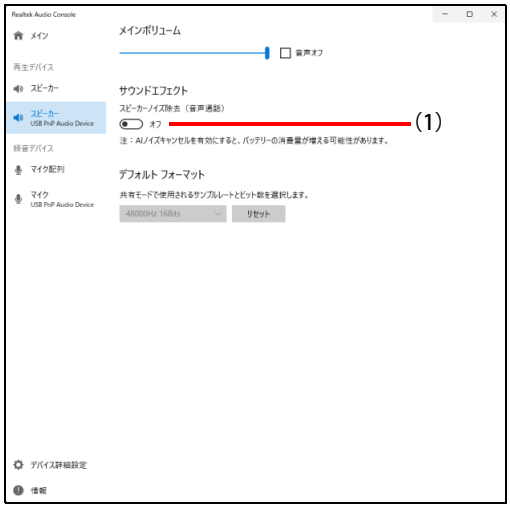
以降の項目はスクロールすると表示されます。

(1) 通話相手からのノイズを低減する

通話相手からの音声に環境ノイズが混じり、聞き取りづらいときに使用します。

- オン：通話相手側のノイズを低減します。
- オフ：この機能をオフにします。

● **Bluetooth接続／USBコネクタに機器を接続した場合**



(1) 通話相手からのノイズを低減する

通話相手からの音声に環境ノイズが混じり、聞き取りづらいときに使用します。

・ オン：通話相手側のノイズを低減します。

・ オフ：この機能をオフにします。

POINT

▶ 接続した機器や選択した項目によっては、一部使用できない機能（グレーアウトし選択不可）があります。

3.7 省電力

ここでは、製品を使わないときに省電力にする省電力状態と、その他の節電機能について説明しています。

POINT

- 設定の変更は、内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能を「無効」にして行う必要があります。「有効」のまま変更すると、製品の再起動後に設定が解除されてしまいます。
  設定変更後は、書込保護機能を「有効」にしてください。
  書込保護機能の設定方法については、「1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能」（→P.14）をご覧ください。

3.7.1 省電力状態

製品を使用しないときに、画面を消灯して消費電力を抑えます。

省電力状態	説明
スリープ （モダンスタンバイ）	メモリに作業中のデータなどを保存し、Windowsの動作を一時的に停止させ待機状態になります。 製品の電源は入っているため、すぐにレジュームできます。 スリープ中は、対応アプリを使用することによりメールを受信することができます。 バッテリー運用時は、状況により消費電力をより抑えるモードに入る場合があります。その場合はメールの受信は止まります。 ※待機状態および対応アプリ稼働中は電力を消費するので、バッテリー駆動時間は短くなります。 ※スリープ中はWindows Updateなど一部の機能が動作することがあります。そのためファンが回転したりバッテリーの消費が増える場合があります。

■ 注意事項

- 状況により省電力状態にならない場合があります。メッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。
- 状況により省電力状態になるのに時間がかかる場合があります。
- レジュームした後、すぐに省電力状態にしないでください。必ず10秒以上たってから省電力状態にするようにしてください。
- 省電力状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず10秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- スリープ中にACアダプタを接続するとスリープからレジュームしますが、ユーザー操作がない場合は数秒でスリープ状態に戻ります。
- 液晶ディスプレイを閉じたときに何もしないように設定した場合は、本製品の動作中には液晶ディスプレイを閉じないでください。放熱が妨げられ、故障の原因となります。
- 電源ボタンを押す以外の方法でスリープ状態からレジュームさせると、Windowsの仕様により画面が表示されない場合があります。
  その場合は、キーボードやマウスなどから入力を行うと画面が表示されます。画面が表示されないままの状態で一定時間経過すると、再度スリープ状態になります。
- 本製品は休止状態をサポートしていません。

■ 省電力状態にする

ご購入時は次のように設定されています。

製品の動作	操作／条件
スリープに移行	「スタート」ボタン→ (電源) の順にクリックし、「スリープ」を選択します。
	電源ボタンを押す[注1]
	液晶ディスプレイを閉じる[注2]
	一定時間操作しない 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.60）

注1：電源ボタンは10秒以上押さないでください。電源ボタンを10秒以上押すと、Windowsが正常終了せずに本製品の電源が切れてしまいます。
注2：液晶ディスプレイを閉じた後は、電源ランプ（→P.34）で省電力状態になったことを確認してください。
省電力状態にならないと放熱が妨げられ、故障の原因となります。

■ 省電力状態からレジュームする

ご購入時は次のように設定されています。

製品の動作	操作／条件
スリープからレジュームする	電源ボタンを押す
	液晶ディスプレイを開く[注1]
	USBマウスで次の操作をする ・クリックボタンを押す
	Bluetoothマウスで次の操作をする[注2] ・クリックボタンを押す ・スクロールボタンを動かす ・マウスを動かす
	フラットポイントを操作する
	キーボードの操作をする
	対応アプリからの起動[注2]

注1：液晶ディスプレイを開いたときの設定は、「カバーを閉じたときの動作」の設定と連動します。
注2：バッテリー運用時は、使用状況によりレジュームしない場合があります。その場合は電源ボタンを押してレジュームしてください。

3.7.2 電源を切る

ここでは、Windowsを終了させて製品本体の電源を切る方法を説明します。

■ 注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し必要なデータを保存してください。
- 電源を切るとき、ノイズが発生することがあります。その場合はあらかじめ音量を下げておいてください。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れないでください。必ず10秒以上たってから電源を入れるようにしてください。

■ 電源の切り方

次のいずれかの方法で、製品本体の電源を切ります。

□Windowsを終了する

1. 「スタート」ボタン→（電源）の順にクリックします。
2. 「シャットダウン」をクリックします。

□完全に電源を切る

重 要

▶ 次のような場合は、ここで説明している手順で製品の電源を切ってください。
- BIOS セットアップを起動する
- 診断プログラムを使用する
- メモリを交換する
- バッテリーを交換する
- 内蔵フラッシュメモリデータ消去

1. 「スタート」ボタン→（設定）の順にクリックします。
2. 「システム」→「回復」の順にクリックします。
3. 「PCの起動をカスタマイズする」の「今すぐ再起動」をクリックします。
4. 「今すぐ再起動」をクリックします。
5. 「PCの電源を切る」をクリックします。

3.7.3 本製品の節電機能

本製品には、さまざまな節電機能が搭載されています。これらの機能と有効となる製品の状態との関係は次のとおりです。

節電機能	製品の状態		
	電源オン	スリープ状態	電源オフ
省電力設定（→P.60） 製品の消費電力を低減する。	○	—	—
省エネ機能（→P.62） 【ECO】キーで省エネ機能を切り替える。	○	—	—
バッテリーの電源モード（→P.62） バッテリーの消費量を抑える。	○	—	—
ピークシフト（→P.63） ACアダプタとバッテリーの運用を切り替える。	○	—	—

3.7.4 省電力設定

使用状況にあわせて電源プランを切り替えることで、消費電力を節約できます。

■ 電源プランを切り替える

1 **「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.9）を表示します。**

2 **「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」の順にクリックします。**
「電源オプション」が表示されます。

3 **お使いになる電源プランをクリックします。**

POINT

- ご購入時の電源プランは「Fujitsu電源設定」が選択されています。使用する状況によりプランを変更してください。
  また、電源プランは新規に作成することができます。

□ 新規に電源プランを作成する場合

1 **「電源オプション」ウィンドウ左のメニューで「電源プランの作成」をクリックします。**
「電源プランの作成」ウィンドウが表示されたら、メッセージに従って操作します。

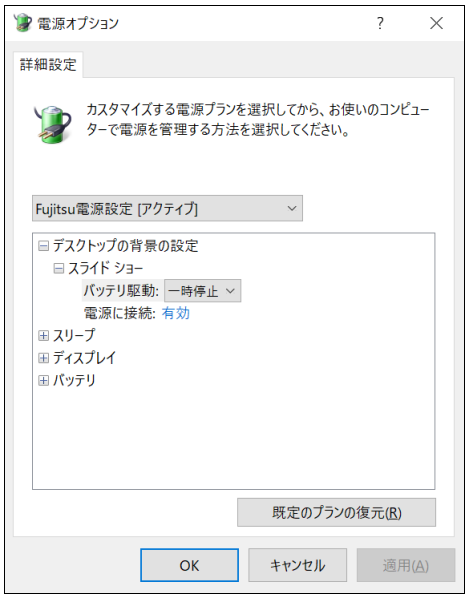
■ 電源プランの設定を変更する

1 **「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.9）を表示します。**

2 **「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」の順にクリックします。**
「電源オプション」が表示されます。

3 **設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をクリックします。**

4 「詳細な電源設定の変更」をクリックします。



（表示されるリストは、お使いの機種により異なります。）

5 リストから項目を選択し、設定を変更します。

POINT

- 一部の設定は手順1や手順2で表示される画面でも変更できます。

6 「OK」をクリックします。

3.7.5 省エネ機能

省エネ機能を有効にすると、バッテリー運用時にシステムやアプリ全体の電力使用量を自動的に管理して、電力消費を低減しバッテリーの寿命を延ばすことができます。
本製品では、【Fn】＋【F10（ECO）】キーを押すごとに、次の設定で省エネ機能を切り替えることができます。

常時	・バッテリー運用時は常に省エネ機能をオンにする ・画面の明るさを下げる
30%	バッテリー運用時にバッテリー残量が30%以下になると、自動的に省エネ機能をオンにする

POINT

- 【F10（ECO）】キーの位置については、「2.6 キーボード」（→P.32）をご覧ください。
- F Lockランプ（→P.34）が点灯している場合はF Lock機能（→P.32）が有効になっているので、【Fn】キーを押さずに【F10（ECO）】キーを押すだけで設定を切り替えることができます。

省エネ機能の設定内容は変更することができます。
設定を変更したい場合は、次の手順を行ってください。

1 **「スタート」ボタン→ （設定）→「システム」の順にクリックします。**

2 **「電源とバッテリー」をクリックします。**

3 **「省エネ機能」をクリックします。**
それぞれの項目の設定を変更してください。
・常に省エネ機能を使用する
・バッテリー残量が次の値の時に自動的に省エネ機能をオンにする
・省エネ機能を使用中の画面の明るさを下げる

重 要

- 上記手順で設定を変更した後に【F10（ECO）】キーを押すと、「常時」と「30%」での切り替えとなります。省エネ機能の設定内容を変更して運用したい場合は、【F10（ECO）】キーではなく上記手順で行ってください。

3.7.6 バッテリーの電源モード

使用状況にあわせて電源モードを切り替えることで、バッテリーの消費量を抑えることができます。
次の手順で設定を切り替えてください。

1 **「スタート」ボタン→ （設定）→「システム」の順にクリックします。**

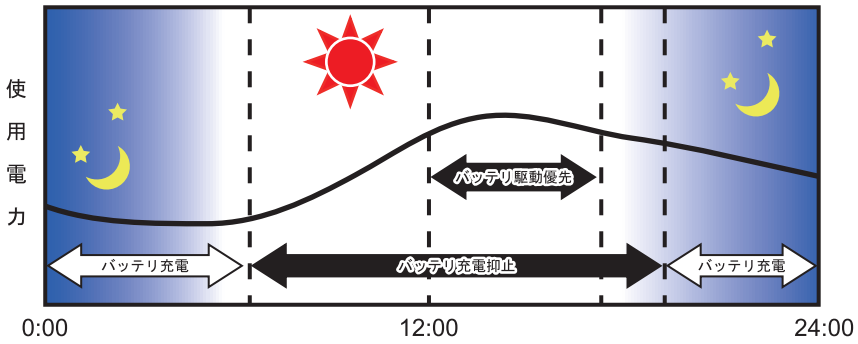
2 **「電源とバッテリー」をクリックします。**

3 **「電源モード」でお使いになるモードを選択します。**
「最適な電力効率」、「バランス」、「最適なパフォーマンス」から選択します。

3.7.7 ピークシフト

設定した時間にあわせてACアダプタ運用とバッテリー運用を切り替えられる機能です。
1日のうち電力需要のピークタイムをはさんで製品を連続してお使いになる場合に有効です。

● 使用例



重 要

- バッテリーは消耗品であり、充放電を繰り返すたびに少しずつ性能が劣化します。ピークシフトを利用するとバッテリーの充放電回数が増えるため、性能劣化が早まる場合があります。
  なお、バッテリーが劣化している場合には、バッテリー駆動時間が短くなり、充分な効果を得られないことがあります。
- スリープ中にピークシフト終了設定時刻になると、一旦製品がレジュームしてからピークシフトが終了します。
  省電力設定（→P.60）が次の場合は、そのまま製品が起動したままになります。
  ・電源プランの「電源に接続」の設定
  「ディスプレイの電源を切る」および「コンピューターをスリープ状態にする」が「適用しない」
  消費電力を抑えるためには、任意の時間を設定してください。

■ ピークシフトを設定する

ピークシフトが動作する期間と、バッテリー駆動優先の時間帯、バッテリー充電抑止の時間帯を設定できます。一度設定を行うと、製品が起動するたびに、自動的に有効になります。

1 「スタート」ボタン→ （設定）→「Extras」→「ピークシフト設定」の順にクリックします。
「ピークシフト設定」が表示されます。

2 必要に応じて、設定を変更します。
詳しい使い方は、画面右上の「？（ヘルプ）」アイコンをクリックして表示されるヘルプをご覧ください。

POINT

- 「ピークシフト設定」では、2つの期間を設定できます。
  例えば、設定1に夏季、設定2に冬季の設定を行うなどのように使用します。

3.8 バッテリー

ここでは、バッテリーを使用して本製品を使用する方法や注意事項について説明しています。
バッテリーの充電時間や駆動時間など、バッテリーの仕様については「9.1 本体仕様」（→P.147）をご覧ください。

POINT

- 設定の変更は、内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能を「無効」にして行う必要があります。「有効」のまま変更すると、製品の再起動後に設定が解除されてしまいます。
  設定変更後は、書込保護機能を「有効」にしてください。
  書込保護機能の設定方法については、「1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能」（→P.14）をご覧ください。

3.8.1 注意事項

■ バッテリーの取り扱い

- 本製品に対応している弊社純正品をお使いください。
  詳しくは、「カタログ/オプション品対応一覧」のページ（https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/）の「オプション品対応一覧」をご覧ください。
- バッテリーを落としたり強い衝撃を与えたりしないでください。また、落としたり強い衝撃を与えたりしたバッテリーは使用しないでください。
- バッテリーや製品本体のバッテリーコネクタには触れないでください。
- バッテリーは分解しないでください。
- 長期間（約1ヶ月以上）本製品を使用しないときは、バッテリーを取り外して涼しい場所に保管してください。製品本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリーの寿命が短くなります。
- 高温環境に放置しないでください。バッテリーが劣化します。

■ バッテリーで運用するとき

- 本製品の使用中にバッテリーの残量がなくなると、作成中のデータが失われることがあります。バッテリーの残量に注意してお使いください。バッテリーの残量を確認するには、「3.8.3 バッテリーの残量を確認する」（→P.67）をご覧ください。
- 本製品を長く使用していると、バッテリーの残量が正確に表示されなくなる場合があります。
  故障ではありませんのでそのままお使いください。
  正しく残量を表示されるようにするには、満充電まで充電後、BIOSセットアップ画面にて電源が切れるまで放電してください。
- 製品の機能を多用したり負荷の大きいアプリを使用したりすると、多くの電力を使用するためバッテリー駆動時間が短くなります。このような場合や重要な作業を行う場合は、ACアダプタを接続してください。
- バッテリーが満充電状態のときに、ACアダプタを接続したまま放置しないでください。
- バッテリーは使用しなくても少しずつ自然放電していきます。
- 低温時にはバッテリー駆動時間が短くなる場合があります。
- 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリーの充電能力が低下します。
  また、ACアダプタを接続している場合も、製品本体の使用状況により、バッテリー残量が減る場合があります。

- 充電保管庫などの密閉環境で複数台の製品を一度に充電する場合、密閉環境内に熱がこもりバッテリー充電時間が仕様と異なることがあります。また、温度条件により充電が停止することがあります。
- バッテリー残量が空の状態で本製品に添付のACアダプタを接続した直後は、電源ボタンを押しても電源が入らない場合があります。この場合はバッテリーの残量が1%になると自動的に起動しますので、数十秒から数分、ACアダプタを接続した状態でお待ちください。
- バッテリー部は通常のご使用時および充電時に多少暖かくなりますが、異常ではありません。
- 長期間製品を使用しない場合には、高温環境となる保管場所は避け、バッテリー残量を50%程度にしてから保管してください。
  また、長期間使用しない場合においても2年以内に必ず充電を行ってください。
- バッテリーの残量が残りわずかの場合、バッテリー運用またはUSB Type-Cコネクタから5Vで給電中のときは、本製品は起動しません。本製品に添付のACアダプタを接続してください。
- 「バッテリ残量1%未満です。ACアダプタを抜かずにバッテリを充電してください。バッテリが1%以上充電されるまで製品のパフォーマンスが低下します。」というメッセージが表示された場合は、バッテリー残量が1%に到達するまでシステムの電力保護のためにパフォーマンスを下げて動作します。その間、製品の起動やアプリの動作に通常よりも時間がかかります。

■ バッテリーの寿命

□ 寿命となる要因

① バッテリーの充電／放電を繰り返した回数（サイクル数）
② バッテリーが満充電状態でACアダプタを接続したまま放置
③ 高温環境での使用／保管、使用時の負荷が高いなど、環境温度が高温である

POINT

▸ バッテリーの寿命を延ばすため「バッテリーユーティリティ」の充電モードで、満充電にならないようにすることができます。

□ 寿命について

- バッテリーは消耗品です。
- バッテリーの寿命は、使用環境および保管方法、ご使用の時間や頻度によって大きく異なります。
- 長期間使用し、次のような症状が出た場合、バッテリーの寿命が考えられます。
  ・バッテリーの駆動時間や充電時間が極端に短くなる
  ・満充電にならなくなる
  ・充電できなくなる
  ・使用中に勝手に電源が切れる
- バッテリーはご使用条件により、寿命が近づくにつれて膨れる場合があります。リチウムイオンバッテリーの特性であり、安全上問題はありません。ただし、内部機器を圧迫し故障の原因となりますので、修理を依頼してください。
- 製品本体を長期間使用しなかった場合にも、バッテリーは劣化します。
- 「バッテリーユーティリティ」でバッテリーの満充電量を抑えることにより、バッテリーの寿命を延ばすことができます。詳しくは、「3.8.5 バッテリーの充電モードを変更する」（→P.70）をご覧ください。

■ バッテリー駆動時間について

- 本製品は、他メーカーのバッテリー駆動時間との比較のために、共通の測定方法として一般社団法人電子情報技術産業協会の「JEITAバッテリ動作時間測定法」を採用しています。
- バッテリー駆動時間はお使いの環境によって大きく異なります。
  次のことを行うことにより、バッテリー駆動時間を延ばすことができます。
  ・液晶ディスプレイの画面を暗くする
  詳しくは、「3.3.2 明るさを調整する」（→P.40）をご覧ください。
  ・省電力機能を活用する
  詳しくは、「3.7 省電力」（→P.57）をご覧ください。
  ・時間のかかるアプリ（ウイルス対策アプリのスキャンなど）は、ACアダプタを接続して使用する

  POINT

  ▶ 消費電力が大きいアプリは次の操作で確認できます。（バッテリー運用時のみ）
  1. 「スタート」ボタン→ (設定）→「システム」の順にクリックします。
  2. 「バッテリー」をクリックします。
  3. バッテリー残量の下に表示されている「アプリごとのバッテリー使用量」で消費電力が大きいアプリを確認します。

  ・周辺機器を取り外す
  ・無線LAN／Bluetoothの電波を停止する
  詳しくは、「3.9.4 無線通信機能の電波を発信する／停止する」（→P.74）をご覧ください。
  ・音声出力をミュート（消音）に切り替える
  詳しくは、「3.6.2 アプリごとの再生音量を調節する」（→P.47）をご覧ください。

  この他、ドライバーや各種アプリを最新の状態に更新することで、バッテリー駆動時間を延ばせる可能性があります。詳しくは、「BIOSやドライバーのアップデートについて」（→P.9）をご覧ください。

3.8.2 バッテリーを充電する

1 製品本体にACアダプタを接続します。

充電が始まります。バッテリーの充電状態は、バッテリーステータスランプ（→P.34）で確認できます。

バッテリーステータスランプ	バッテリーの充電状態
オレンジ色[注1]	充電中
消灯	充電完了

注1 ：点滅している場合は、バッテリーの温度が高すぎる、または低すぎるなどの理由でバッテリーの保護機能が働き充電が停止している状態です。バッテリーの温度が正常に戻れば点灯し、充電を再開します。

POINT

- バッテリーを保護するため、次の場合は充電は始まりません。
  - ・充電モードが「フル充電モード」で、バッテリーの残量が90%以上の場合
  - ・充電モードが「80%充電モード」で、バッテリーの残量が70%以上の場合

  バッテリーの残量が少なくなると自動的に充電が始まります。

3.8.3 バッテリーの残量を確認する

バッテリーの残量は、バッテリーステータスランプ（→P.34）で確認できます。

バッテリーステータスランプ	バッテリーの残量
消灯	100%～21%
赤色	20%～0%

重 要

- 短い間隔で赤色に点滅している場合は、バッテリーが異常です。「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。

■ バッテリーステータスランプが赤色に点灯したら

バッテリーの残量はわずかになっています。すみやかに次のいずれかの対処を行ってください。

- ACアダプタを接続する
- 充電済みのバッテリーに交換する（→P.68）
- 作業を終了して本製品の電源を切る

  「3.7.2 電源を切る」（→P.59）

ご購入時は、バッテリーの残量が約10%になると自動的に省電力状態になるように設定されています。設定を変更するには、「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.60）をご覧ください。

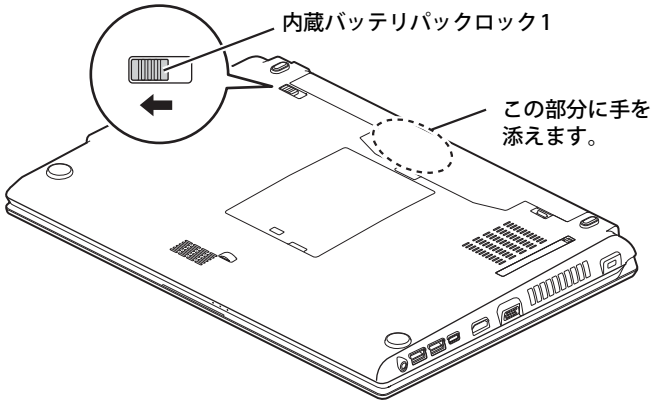
3.8.4 バッテリーを交換する

ここでは内蔵バッテリパックの交換方法について説明します。
交換したバッテリーの処分については、「廃棄・リサイクル」（→P.158）をご覧ください。

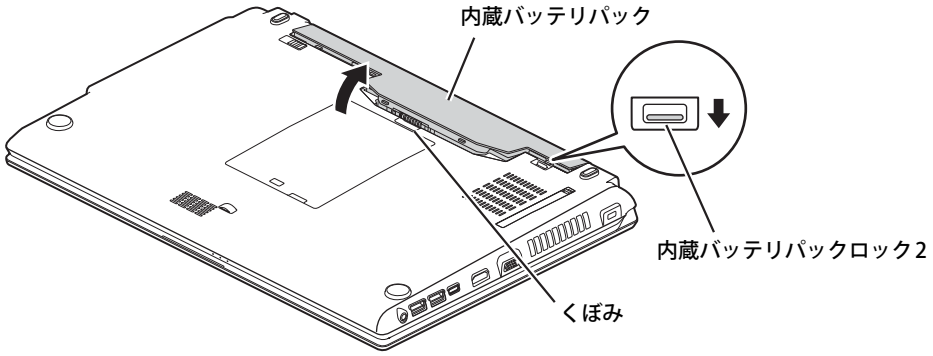
1 **製品本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します。**
電源の切り方は、「3.7.2 電源を切る」（→P.59）をご覧ください。

2 **液晶ディスプレイを閉じ、製品本体を静かに裏返します。**

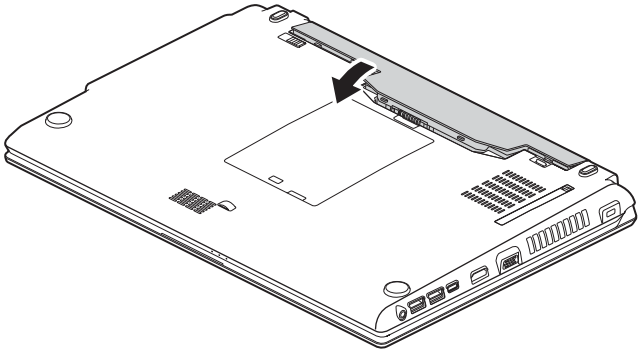
3 **内蔵バッテリパックロック1を矢印の向きにスライドします。**
内蔵バッテリパック（点線部分）を軽く押さえながら、スライドしてください。



4 **内蔵バッテリパックロック2を矢印の向きに押したままくぼみに指をかけ、内蔵バッテリパックを斜め上に持ち上げて取り外します。**

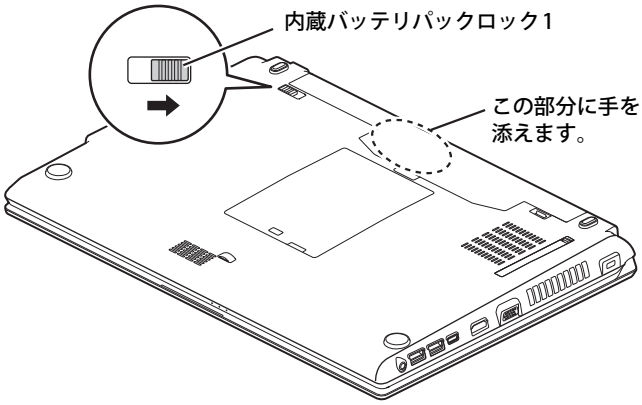


5 内蔵バッテリパックのロックが解除されていることを確認し、新しい内蔵バッテリパックのふちと製品本体のふちを合わせ、しっかりとはめ込みます。



6 内蔵バッテリパックロック1を矢印の向きにスライドして、内蔵バッテリパックをロックします。

内蔵バッテリパック（点線部分）を軽く押さえながら、スライドしてください。



3.8.5 バッテリーの充電モードを変更する

バッテリーの充電モードを「80%充電モード」に変更しバッテリーの満充電量を抑えることにより、バッテリーの寿命を延ばすことができます。

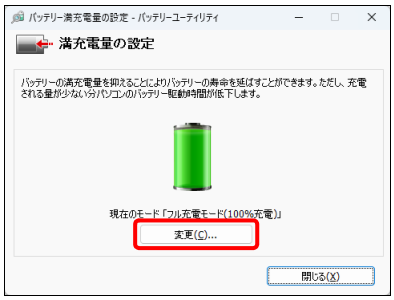
重 要

- 「80%充電モード」に設定すると、バッテリー駆動時間は「フル充電モード」よりも短くなります。
- ACアダプタを接続して使用することが多い場合は、「80%充電モード」に設定することをお勧めします。

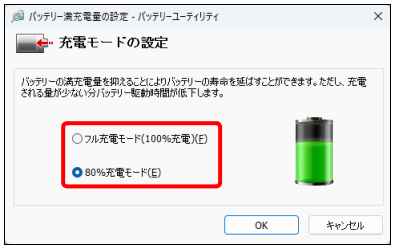
1 「スタート」ボタン→ (設定) →「Extras」→「バッテリーユーティリティ」の順にクリックします。

2 「バッテリー満充電量」をクリックします。

3 「変更」をクリックします。



4 「フル充電モード（100%充電）」または「80%充電モード」を選択し、「OK」をクリックします。



5 「閉じる」をクリックします。

3.8.6 バッテリーの状態を確認する

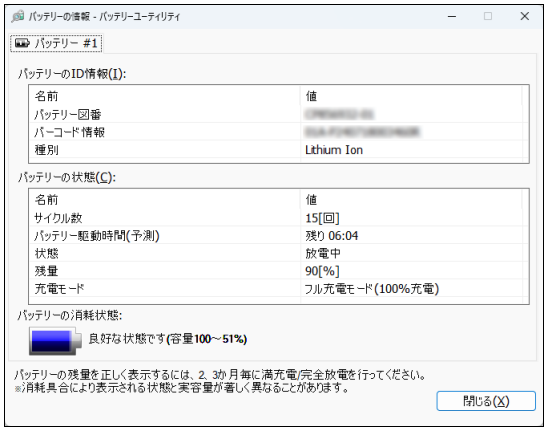
バッテリーの情報や消耗状態の確認は、「バッテリーユーティリティ」で行うことができます。

重 要

- バッテリーの残量や消耗状態を正しく表示するには、定期的な満充電／完全放電が必要になります。
  満充電／完全放電を行わずに使い続けると、「バッテリーユーティリティ」に表示される残量や消耗状態が、実容量と著しく異なることがあります。
- 満充電／完全放電するには
  満充電後ACアダプタを取り外し、BIOSセットアップ画面の状態で電源が切れるまで放電してください。
  自動で電源が切れると、放電が完了します。
  BIOSセットアップについては、「6.2 BIOSセットアップの操作のしかた」（→P.100）をご覧ください。

1 「スタート」ボタン→ （設定）→「Extras」→「バッテリーユーティリティ」の順にクリックします。

2 「バッテリーの情報」をクリックします。



「サイクル数」、「残量」、「消耗状態」などを確認できます。

3.9 通信

ここでは本製品の通信機能について説明しています。
ネットワーク機器を接続してお使いになる場合は、お使いのネットワーク機器のマニュアルもご覧ください。また、搭載されている通信機能の仕様については、「9.1 本体仕様」（→P.147）をご覧ください。

重 要

- 仮想環境へリダイレクトしての使用は、サポートしていません。

POINT

- 設定の変更は、内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能を「無効」にして行う必要があります。「有効」のまま変更すると、製品の再起動後に設定が解除されてしまいます。
  設定変更後は、書込保護機能を「有効」にしてください。
  書込保護機能の設定方法については、「1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能」（→P.14）をご覧ください。

3.9.1 有線LAN

LANケーブルを接続する方法については、「4.3.5 LANコネクタ」（→P.89）をご覧ください。
LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

POINT

- 本製品はMACアドレスパススルー機能に対応しています。
  この機能をご利用になるには、MACアドレスパススルーに対応した周辺機器と接続する必要があります。
  また、本機能について次の注意事項をご確認ください。
  - ご購入時は無効に設定されています。設定の変更はBIOSセットアップで行います。
    BIOSセットアップの「詳細」メニューの「各種設定」→「MACアドレスパススルー」を「使用する」に設定してください。
  - BIOSセットアップについては、「6.2 BIOSセットアップの操作のしかた」（→P.100）をご覧ください。
  - 本機能に対応した周辺機器の同時使用（有線LANの複数接続）はできません。
  - 本機能でネットワークに接続した後に、本機能に対応した他の周辺機器でネットワークに接続できないことがあります。
    同一のDHCPサーバーからIPアドレスを取得する場合、先にDHCPサーバーに接続した周辺機器がIPアドレスを取得しているため、後から接続した周辺機器はIPアドレスを取得できません。
  - 他の周辺機器から接続したい場合は、本製品を再起動するか、先に接続した周辺機器を取り外すことで、IPアドレスを取得できます。

3.9.2 無線LAN

無線LANについては、『無線LANご利用ガイド』をご覧ください。
無線LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。
また、無線LANの仕様については、「9.4 無線LAN」（→P.156）をご覧ください。

■ 無線LANの種類を確認する

搭載されている無線LANの種類を確認するには、次の操作を行います。

1. **「スタート」ボタン→（設定）→「システム」の順にクリックします。**
2. **「バージョン情報」をクリックします。**
3. **「デバイス マネージャー」をクリックします。**
   「デバイスマネージャー」が表示されます。
4. **「ネットワークアダプター」をダブルクリックします。**
   本製品に搭載されている無線LANの種類が表示されます。

3.9.3 Bluetoothワイヤレステクノロジー

Bluetoothワイヤレステクノロジーとは、ヘッドセットやワイヤレスキーボード、携帯電話などの周辺機器や他のBluetoothワイヤレステクノロジー搭載の製品などに、ケーブルを使わず電波で接続できる技術です。
Bluetoothワイヤレステクノロジーについては、『Bluetoothワイヤレステクノロジーご利用ガイド』をご覧ください。
また、Bluetoothワイヤレステクノロジーのバージョンについては、「9.1 本体仕様」（→P.147）をご覧ください。

3.9.4 無線通信機能の電波を発信する／停止する

病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、あらかじめ無線通信機能の電波を停止してください。
電波の発信／停止は次の方法で変更できます。

■ 設定方法

1 「スタート」ボタン→ (設定) →「ネットワークとインターネット」の順にクリックします。

2 「機内モード」をクリックします。

3 「機内モード」または「ワイヤレス デバイス」でそれぞれの設定を切り替えます。

	「オン」に設定	「オフ」に設定
機内モード[注1]	すべての無線通信機能の電波を停止[注2]	機内モードを解除[注2]
ワイヤレス デバイス	電波を発信	電波を停止

注1：・ キーボードの【F4】キーと連動しています。
【Fn】+【F4】キーを押すたびに機内モード（→P.74）のオン／オフが切り替わります。
・ F Lockランプ（→P.34）が点灯している場合はF Lock機能（→P.32）が有効になっているので、【Fn】キーを押さずに【F4】キーを押すだけで電波の発信／停止が切り替わります。
注2： 機内モードの「オン」「オフ」それぞれに対し、ワイヤレス デバイスの状態を個別に設定できます。

■ 機内モードについて

機内モードとは、製品に搭載されている無線通信機能の電波を一斉に停止する機能です。機内モードを「オン」にすると、すべての無線通信機能の電波が「停止」します。
また、機内モードの「オン」「オフ」に対して、ワイヤレス デバイスの状態（オン／オフ）を個別に設定することもできます。

● **ワイヤレス デバイスの個別設定**
ワイヤレス デバイスの設定状態を、「機内モード」の「オン」「オフ」のときそれぞれに対し個別に設定すると、ワイヤレス デバイスの設定状態が保持されます。

例：Bluetoothのみを個別に設定した場合

1. 「機内モード」が「オン（電波停止）」のときに、Bluetoothを個別に「オン（電波発信）」にします。
2. その後「機内モード」を「オフ（電波発信）」にすると、ワイヤレス デバイスはすべて「オン」になります。
3. 再度「機内モード」を「オン（電波停止）」にしても、Bluetoothは手順1で設定した状態を保持するため「オン」のままとなります。

上記の個別設定を解除する場合は、「機内モード」を「オン（電波停止）」にしてBluetoothを「オフ」にしてください。

また、「機内モード」が「オフ（電波発信）」のときに個別に設定した場合も、同様にワイヤレス デバイスの設定状態が保持されます。

3.10 セキュリティチップ （TPM）

セキュリティチップ（TPM）は、ドライブを暗号化したときの暗号鍵などの重要なデータを格納・管理するための特別なICチップです。暗号鍵などを内蔵フラッシュメモリに残さないため、内蔵フラッシュメモリが盗まれても暗号を解析できません。

POINT

- すべてのソリューションの動作保証をするものではありません。必ず事前検証をお願いします。

3.11 電源オフUSB充電機能

本製品は電源オフ時のUSB充電に対応したコネクタを搭載しています。
電源オフUSB充電機能とは、製品が電源オフ状態や省電力状態の場合でも、USB充電に対応した周辺機器を充電することができる機能です。

POINT

- 設定の変更は、内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能を「無効」にして行う必要があります。「有効」のまま変更すると、製品の再起動後に設定が解除されてしまいます。
  設定変更後は、書込保護機能を「有効」にしてください。
  書込保護機能の設定方法については、「1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能」（→P.14）をご覧ください。

3.11.1 注意事項

- 本製品に搭載されているUSB Type-Cコネクタは電源オフUSB充電機能に対応しています。
- ご購入時は有効に設定されています。
- USB対応周辺機器によっては、電源オフUSB充電機能を使用できない場合があります。
- 電源オフUSB充電機能が有効に設定されている場合、省電力状態からレジュームしたときに、本機能に対応したUSBコネクタに接続したUSB対応周辺機器で次の現象が発生することがあります。これらの現象が発生してもUSB対応周辺機器本体および記録データが破損することはありません。
  ・デバイス認識のポップアップウィンドウが表示される
  ・「自動再生」ウィンドウが表示される
  ・接続したUSB対応周辺機器と連携しているアプリが起動する
  ・接続したUSB対応周辺機器のドライブ名が変わる

3.11.2 電源オフUSB充電機能の設定を変更する

電源オフUSB充電機能の設定変更はBIOSセットアップで行います。
設定変更の方法については、「6.3.6 電源オフUSB充電機能の設定を変更する」（→P.109）をご覧ください。

3.12 AIカメラエフェクター

カメラが人を検知すると、カメラ映像にエフェクトをかける機能です。

POINT

- 設定の変更は、内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能を「無効」にして行う必要があります。「有効」のまま変更すると、製品の再起動後に設定が解除されてしまいます。
  設定変更後は、書込保護機能を「有効」にしてください。
  書込保護機能の設定方法については、「1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能」（→P.14）をご覧ください。

■ 注意事項

- 本製品に搭載されているWebカメラで使用できます。
- ご購入時は、AIカメラエフェクター機能は「オフ」に設定されています。
- 次の場合は適切に動作しないことがあります。
  ・マスクや眼鏡着用時
  ・周囲の環境、服装、帽子、髪型などにより、人の検出ができない場合
  ・顔が正面をむいていない場合
  ・複数人がカメラに写りこむ場合
- カメラエフェクトをサポートする他のアプリを使用して本機能を無効にするには、他アプリと本アプリの両方でエフェクト機能を「オフ」にする必要があります。

■ エフェクターを設定する

1 「スタート」ボタン→ (設定)→「Extras」→「Camera Effect Setting」の順にクリックします。
「Camera Effect Setting」が表示されます。

2 必要に応じて、設定を変更します。
詳しくは、画面右上の「？(ヘルプ)」アイコンをクリックして表示されるヘルプをご覧ください。

3.13 手のひら静脈センサー

対 象　手のひら静脈センサー搭載機種

手のひら静脈センサーで手のひら静脈を認識することで、Windowsにサインインすることができます。

重 要

- 本センサーをお使いになるには、専用の認証アプリが必要となります。
  詳しくは、AuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。

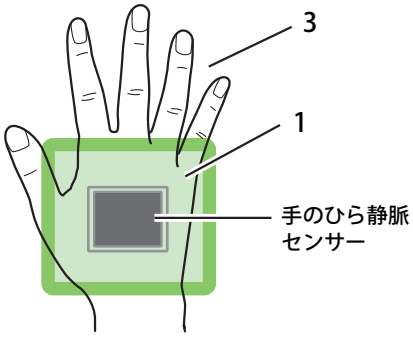
■ 手のひら静脈の読み取り方

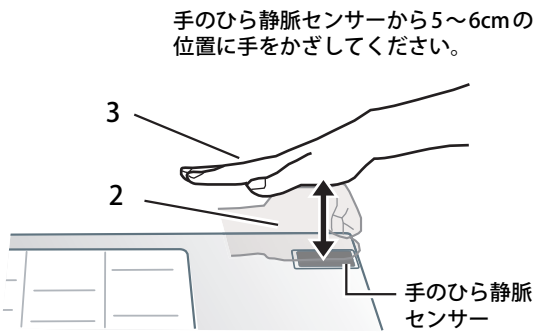
手のひら静脈の登録や認証は、手のひらを正しい位置でかざす必要があります。
次の手順で読み取ってください。

1 **手のひら静脈センサーが手のひらの中央にくるようにかざします。**

2 **画面に表示される案内に従い、手のひら静脈センサーに対して手のひらの中心を合わせ、こぶし1つ分の距離（5～6cm）で水平にかざします。**

3 **指を軽く開いて伸ばします。**



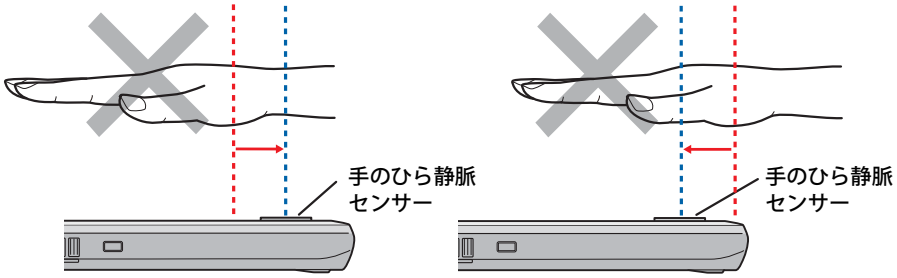


POINT

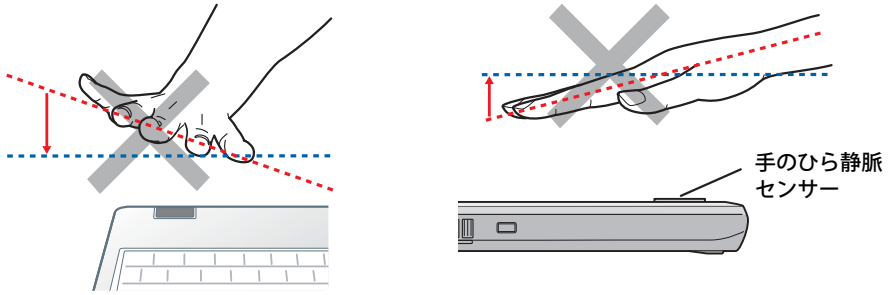
- 手のひらが動いている状態では正しく認証できません。認証中は、手のひらを正しい姿勢で水平に保ち、静止させてください。

□次のような手のかざし方は正しく登録／認証できません

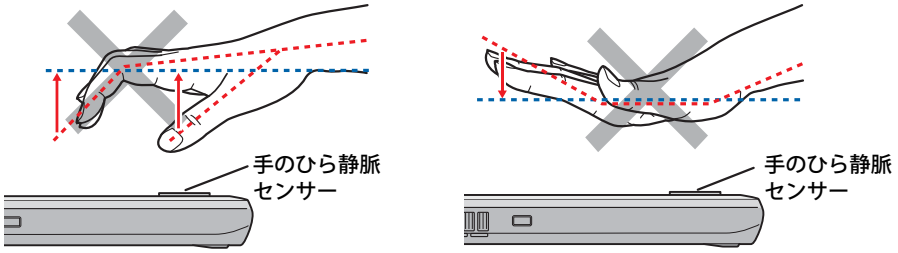
問題点　：手のひら静脈センサーと手のひらの位置がずれています。
対処方法：手のひら静脈センサーが手のひらの中央にくるようにかざしてください。



問題点　：センサー面に対して手のひらが水平になっていません。
対処方法：センサー面に対して手のひらが水平になるようにかざしてください。



問題点　：指が伸びていない。または、そっています。
対処方法：指を軽く開いて伸ばしてください。



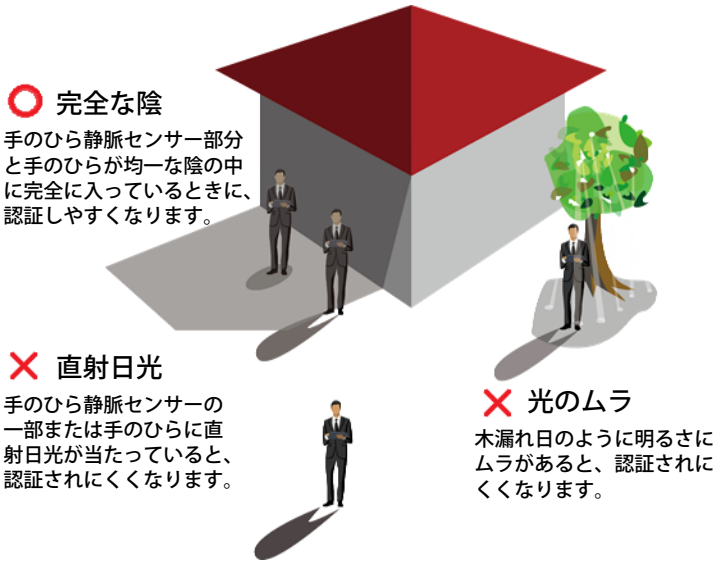
■ 取り扱い上の注意

□ 屋外での使用について

日光の当たる屋外では、注意が必要です。手のひら静脈センサーや手のひらが完全に陰に入るようにしてください。

POINT

- 光にムラのない陰の中で認証を行うと、屋外でも認証がスムーズになります。
- 登録のときは屋内で使用し、日光が差し込む窓際での使用は避けてください。



□ 手のひら静脈センサーの周囲について

手のひら静脈センサーの近くに物があると、手のひら静脈データの登録や手のひら静脈認証が正しくできない場合があります。
センサーの周囲に、次のようなすき間を空けてください。

- センサー面から上に20cm以上
- センサーの左右に10cm以上

上記のすき間は、紙や壁などの光を散乱したり反射したりする物に対して定めています。
なお、周囲に鏡や金属などの光沢がある物があると、距離に関係なく正しく認証できない可能性があります。

□ 手のひら静脈の登録時／認証時の注意事項

手のひらが次のような状態の場合には、手のひら静脈を正しく登録できず、認証しにくいことがあります。

- 手のひらが汚れている、ぬれている、またはけがをしている
- 手のひらに、ばんそうこうや包帯を付けている
- 手のひらに、そで口がかかっている
- 手袋や、ブレスレットなどをしている

4

第4章

周辺機器

周辺機器の取り付け方法や注意事項を説明しています。

4.1 周辺機器を取り付ける前に 82
4.2 メモリ 83
4.3 コネクタの接続／取り外し 87

4.1 周辺機器を取り付ける前に

ここでは、周辺機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことを説明しています。必ずお読みください。

4.1.1 注意事項

- 本製品に対応している弊社純正品をお使いください。
  詳しくは、「カタログ/オプション品対応一覧」のページ（https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/）の「オプション品対応一覧」をご覧ください。
- お使いになる周辺機器のマニュアルもあわせてご覧ください。
- 電源を切った直後は、製品本体内部が熱くなっています。電源を切り、電源ケーブルを抜いた後、充分に待ってから作業を始めてください。
  やけどの原因となります。
- 操作に必要な箇所以外は触らないでください。故障の原因となります。
- 周辺機器の取り付け／取り外しは、Windowsのセットアップが完了してから行ってください。
- お使いになる周辺機器によっては、取り付けた後にドライバーなどのインストールや設定が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください。一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われないことがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行った後、別の周辺機器を取り付けてください。
- 一般的には周辺機器の電源を入れてから製品本体の電源を入れ、製品本体の電源を切ってから周辺機器の電源を切ります。ただし、周辺機器によっては逆の順序が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

4.2 メモリ

ここでは、本製品にメモリを取り付ける方法について説明しています。
必ず「4.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.82）をお読みになってから作業をしてください。

4.2.1 注意事項

- メモリを取り付ける、または取り外すときは、必ず製品本体の電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。電源の切り方については、「3.7.2 電源を切る」（→P.59）をご覧ください。
  また、バッテリパックを取り外してください。
- メモリは静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- メモリはふちを持ち、端子やICなどそれ以外の箇所に触れないようにしてください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。故障や接触不良の原因となります。
- メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となります。
- 取り外したネジなどを製品本体内部に落とさないでください。故障の原因となります。
- マイナスドライバーを用意してください。

4.2.2 取り付けられるメモリ

メモリを増設するときは、次の表でメモリの容量とメモリスロットの組み合わせを確認し、正しく取り付けてください。この表の組み合わせ以外で、メモリを取り付けないでください。

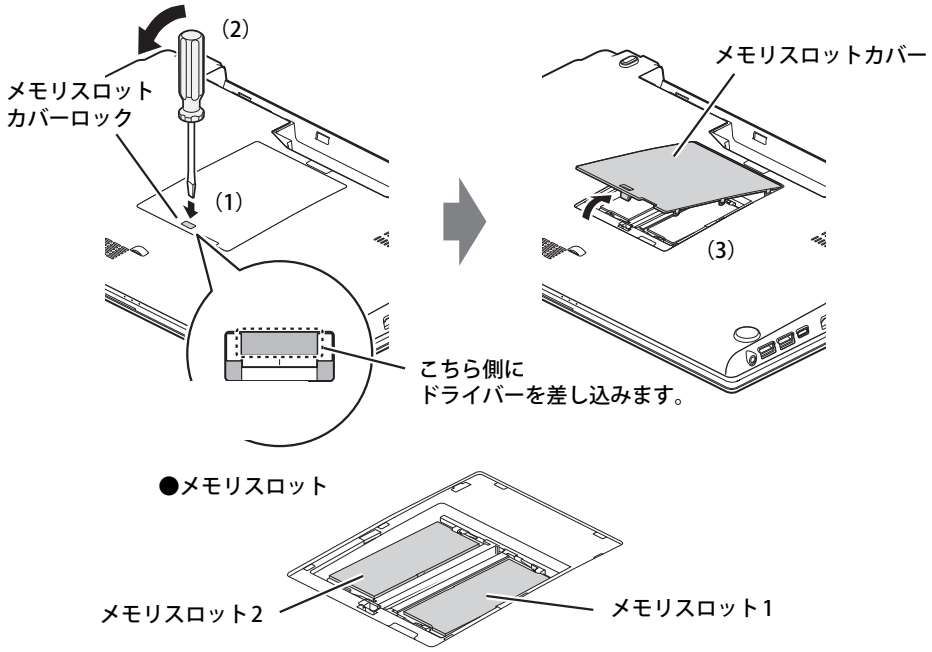
総容量	メモリスロット1	メモリスロット2
8GB	8GB	—
16GB	16GB	—
32GB	16GB	16GB

4.2.3 メモリを取り付ける

1 「3.8.4 バッテリーを交換する」（→P.68）をご覧になり、バッテリーを取り外します。

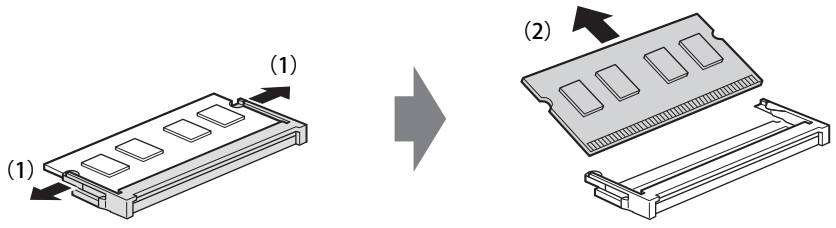
2 メモリスロットカバーを取り外します。

1. メモリスロットカバーロックにマイナスドライバーを差し込みます。
2. 矢印の方向にマイナスドライバーを倒します。
3. ドライバーを倒したまま、メモリスロットカバーを取り外します。



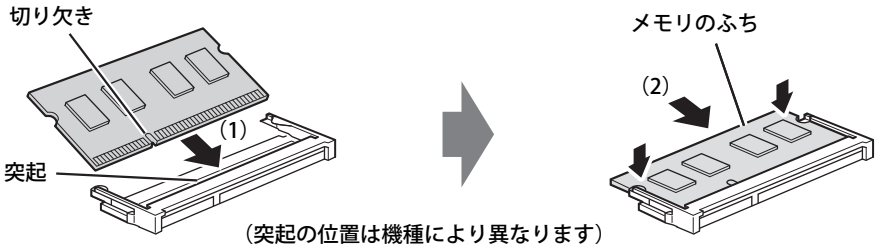
3 メモリを取り付けるメモリスロットにメモリが取り付けられている場合は取り外します。

1. メモリスロットの両側のフックを外側に開いてメモリの固定を解除します。
2. メモリのふちを持って斜め上にまっすぐ引き抜きます。



4 メモリを取り付けます。

1. メモリの切り欠き部とメモリスロットの突起を合わせ、斜め上から奥まで差し込みます。
2. メモリのふちを押しながらメモリを下に倒します。メモリスロット両側のフックがメモリを固定していることを確認してください。

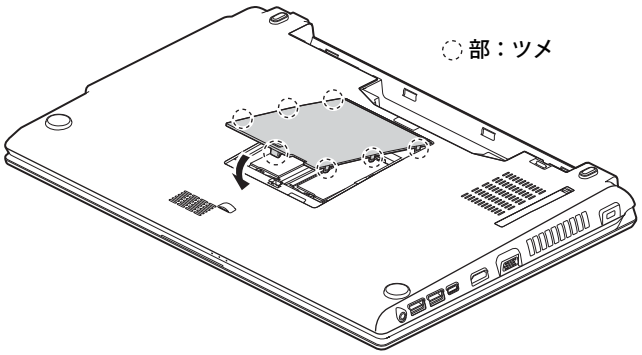


重 要

- メモリがうまく取り付けられないときは、無理に取り付けず、いったんメモリを抜いてからもう一度メモリを取り付けてください。

5 メモリスロットカバーを取り付けます。

メモリスロットカバーのふちを合わせ、そのままツメの位置がずれないように閉じます。



6 「3.8.4 バッテリーを交換する」（→P.68）をご覧になり、バッテリーを取り付けます。

POINT

- メモリ交換後、最初に製品の電源を入れるときには、必ずACアダプタを接続した状態で電源ボタンを押してください。ACアダプタを接続しないと製品の電源が入りません。

7 BIOSセットアップを起動して、メモリが正しく認識されていることを確認します。

「6.2 BIOSセットアップの操作のしかた」（→P.100）をご覧になり、「情報」メニューを表示してメモリ容量を確認してください。

重 要

- メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときにエラーメッセージが表示されたり、画面に何も表示されなかったりすることがあります。その場合は電源ボタンを10秒以上押して本製品の電源を切り、メモリを取り付け直してください。それでも本製品が起動しない場合は、故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。

4.2.4 メモリを取り外す

メモリを取り外す場合も、取り付ける手順をご覧ください。

重 要

- 取り外したメモリは、静電気防止袋に入れて大切に保管してください。

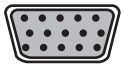
4.3 コネクタの接続／取り外し

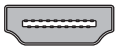
ここでは、周辺機器を接続したり、取り外したりする一般的な方法について説明しています。接続する周辺機器やケーブルのマニュアルもあわせてご覧ください。また、それぞれのコネクタの仕様については、「9.1 本体仕様」（→P.147）をご覧ください。
必ず「4.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.82）をお読みになってから作業をしてください。

4.3.1 注意事項

- ご購入時の構成によっては、記載されているコネクタの一部は搭載されていません。
- 周辺機器のコネクタの形状によっては、接続できなかったり、隣接するコネクタに接続された周辺機器と干渉したりする場合があります。周辺機器を接続する前に確認してください。
- 周辺機器によっては、接続したり取り外したりするときに、コネクタの仕様にかかわらず製品本体の電源を切る必要があるものがあります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

4.3.2 ディスプレイコネクタ


アナログディスプレイコネクタ


HDMI出力端子

外部ディスプレイを接続します。製品本体の電源を切ってから接続してください。

重 要

- USB Type-Cコネクタについては、「4.3.3 USBコネクタ」（→P.88）をご覧ください。

■ 接続する

1 **製品本体の電源を切ります。**

2 **ディスプレイコネクタに、ディスプレイのケーブルを接続します。**
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。
次のコネクタをお使いの場合、コネクタのネジを締めてください。

3 **ディスプレイの電源を入れてから、製品本体の電源を入れます。**

■ 取り外す

重 要

- マルチディスプレイ機能（→P.42）をお使いになっている場合は、取り外すディスプレイに画面が表示されないようにしてからディスプレイを取り外してください。

□アナログディスプレイコネクタ

1 **製品本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。**

2 **ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。**

□HDMI出力端子

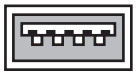
1 **製品本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。**

2 **ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。**

4.3.3 USBコネクタ



USB Type-Cコネクタ



USB Type-Aコネクタ

USB対応周辺機器を接続します。製品本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

■ 接続する

1 **USBコネクタに、USB対応周辺機器のケーブルを接続します。**
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。

POINT

- USB Type-Cコネクタは、どちらの向きでも差し込むことができます。

■ 取り外す

重 要

- USB対応周辺機器によっては、取り外す前に「ハードウェアの安全な取り外し」の操作が必要になる場合があります。詳しくはお使いのUSB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

1 **「ハードウェアの安全な取り外し」が必要な場合は次の操作を行います。**

1. 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン（ ）をクリックします。
2. 取り外すデバイスをクリックし、表示されるメッセージに従ってデバイスを停止します。

2 **ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。**

4.3.4 オーディオ端子

オーディオ機器を接続します。製品本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

重 要

- マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子にオーディオ機器を接続したり取り外したりするときは、オーディオ機器の再生音量を小さくするか、再生を停止してください。

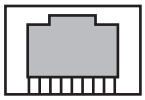
■ 接続する

1 **マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子に、オーディオ機器のケーブルを接続します。**
まっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

1 **ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。**

4.3.5 LANコネクタ



LANケーブルを接続します。製品本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。
ただし、電源を入れたまま接続すると、LANが使用可能になるまで時間がかかる場合があります。

重 要

- 1000BASE-Tの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したネットワーク機器とエンハンスドカテゴリー 5（カテゴリー 5E）以上のLANケーブルを使用してください。

■ 接続する

1 **LANコネクタにネットワーク機器のケーブルを接続します。**
コネクタの形を互いに合わせ、「カチッ」と音がするまでまっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

1 **ケーブルコネクタのツメを押さえながら、LANケーブルをまっすぐに引き抜きます。**

5

第5章

アプリ

本製品にプレインストール（添付）されているアプリの概要や、インストール、アンインストール方法を説明しています。

5.1 アプリの紹介 91
5.2 インストール 95
5.3 アンインストール 97

5.1 アプリの紹介

ここでは、本製品にプレインストールまたは添付されているアプリの概要と、ご購入時の提供形態を説明しています。
ご購入時にインストールされているアプリは、削除してしまったり、データやファイルが破損したりした場合に再インストールできるように、「リカバリ起動ディスク」などに格納されています。
各アプリの格納場所は、次ページ以降の一覧表で確認してください。

その他の情報については次をご覧ください。

- アプリの使い方
  ヘルプまたは「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。
- インストール方法
  「5.2 インストール」（→P.95）をご覧ください。
- 一部のアプリ
  インターネット上のマニュアル（https://www.fmworld.net/biz/fmv/support/fmvmanual/）の機能別のマニュアルをご覧ください。

5.1.1 一覧表の見かた

アプリ一覧表の欄にある項目や記号について説明します。

□OS欄について

本製品は、プリインストールOSおよびサポートOSのアプリを提供しています。
アプリ一覧表の対象OS欄で、次のように表記しています。

11 ：Windows 11用
10 ：サポートOSのWindows 10用

□提供形態について

●：ご購入時にインストール済み
◆：ご購入時にインストール済み（「ドライバーズディスク」にも格納されています）
▲：「ドライバーズディスク」に格納（ご購入時はインストールされていません）
■：起動メニューより選択（→P.102）
－：搭載されていないか、対象となる機種がありません

□ディスクについて

「ドライバーズディスク」は、本製品の内蔵フラッシュメモリに格納されています。
ディスクがお手元にない場合は、内蔵フラッシュメモリからディスクを作成してください。
作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

5.1.2 ネットワーク関係のアプリ

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.91）をご覧ください。

対象OSの表記　11：Windows 11用、10：サポートOSのWindows 10用

名称	概要／提供形態	対象OS	
		11	10
リモートデスクトップ接続	Microsoftが提供するリモートデスクトップサービスを利用するためのアプリです。Windowsを搭載した物理端末へ接続する場合にお使いいただけます。	●	−
Microsoft Edge	本製品にインストールされているMicrosoft Edgeは、クライアント仮想化システムへのWebインターフェイス（Receiver for Web接続）としてのみお使いいただけます。インターネット閲覧は、必ずサーバー側のブラウザーをお使いください。	●	−

5.1.3 セキュリティ関連のアプリ

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.91）をご覧ください。

対象OSの表記　11：Windows 11用、10：サポートOSのWindows 10用

名称	概要／提供形態	対象OS	
		11	10
AuthConductor Client Basic	次のセキュリティデバイスなどを使用するためのアプリです。 ・手のひら静脈センサー ・Felicaポート ・Webカメラ	▲	▲
Systemwalker Desktop Keeper for Standalone	USBデバイスの使用を許可するかどうか、USBデバイスに対する操作を記録するかどうかを設定できます。 不要なUSBデバイスの使用を制限することで、情報漏洩リスクを軽減し、記録した操作の確認により情報の持ち出しを監視／監査できます。	▲	▲
Windows Defender	マルウェアから保護するための対策アプリです。 定期的に定義ファイルの更新プログラムを最新状態に保持するため、「8.2 よくあるトラブルと解決方法」の「Q. UWF の保護が有効な状態で Windows Defenderを使用するには」（→P.129）をご覧になり、記載の設定内容を行う必要があります。	●	−

5.1.4 サポート関連のアプリ

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.91）をご覧ください。

対象OSの表記　11：Windows 11用、10：サポートOSのWindows 10用

名称	概要／提供形態	対象OS	
		11	10
富士通ハードウェア診断ツール	ハードウェアに障害が発生していないか診断できます。 詳しくは、「8.1.5 診断プログラムを使用する」（→P.120）をご覧ください。	■	−
モデル情報表示ユーティリティ	本製品の情報（型名／製造番号／カスタムメイド番号）を確認することができます。	◆	▲

5.1.5 ユーティリティ

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.91）をご覧ください。

対象OSの表記　11：Windows 11用、10：サポートOSのWindows 10用

名称	概要／提供形態	対象OS	
		11	10
Camera Effect Setting	AIカメラエフェクター用のアプリです。	●注1	―
Dolby Digital Plus Codec	Dolby DigitalおよびDolby Digital Plusコンテンツを再生するアプリです。	◆	―
Function Key Lock Utillity	キーボードのファンクションキーの動作を、ファンクションキーにするか、ホットキーにするかを設定するアプリです。	注2	注2
Function Manager	本製品のハードウェア設定を変更するアプリが登録されています。 アイコンをクリックすると各設定アプリを開くことができます。 「スタート」ボタン→「すべて」→「Function Manager」の順にクリックして起動してください。	●注1	注2
Pointing Device Utility for Precision Touchpad	キーボードで【Fn】キーを押しながら[▭]の刻印のあるキーを押して、フラットポイントのオン／オフ切り替えるアプリです。 【Fn】キーや刻印のあるキーの位置については、「2.6 キーボード」（→P.32）をご覧ください。	●注1	注2
Realtek Audio Console	接続したオーディオ端子を切り替えたり、音量を調節したりします。 ・「ドライバーズディスク」内の「readme.txt」については、「Realtek High Definition Audio オーディオドライバー」に格納されています。	●	―
Systemwalker Desktop Patrol CT	本製品や周辺機器（プリンタやFaxなど）のICT資産全体を、セキュリティ管理と資産管理の両面から一元管理するためのアプリです。 本アプリを使用するためには、Systemwalker Desktop PatrolのCS（管理サーバー）を別途手配し構築していただく必要があります。 詳しくは、ソフトウェア技術情報ホームページ（https://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/technical/systemwalker/desktoppatrol/）をご覧ください。	◆	▲
インテル® グラフィックス・コマンド・センター	ディスプレイの解像度の変更や、マルチディスプレイ機能の設定を行います。 ・「ドライバーズディスク」内の「readme.txt」については、「インテル(R) ディスプレイドライバー 64ビット版」に格納されています。	●	―
画面反転ユーティリティ	本製品の画面を開いた状態で対面の人に見せやすいように、画面表示を簡単に変更できます。	●注1	注2
静音ユーティリティ	製品の内部の冷却ファンを調整し、音を静かにできるユーティリティです。 ・静音モード： CPUパフォーマンスを制御して発熱を抑え、冷却ファンをゆっくり回転します。 ・通常モード： CPUパフォーマンスを優先します。	●注1	注2
ディスク作成ユーティリティ	リカバリディスクを作成するときに使用するアプリです。	◆	―
ドライバーズディスク検索	ドライバーやアプリをインストールするときに使用するアプリです。	◆	―
バッテリーユーティリティ	バッテリーの情報を表示したり、充電モードの変更を設定したりします。機種によって利用できる機能が異なります。 詳しくは、「3.8 バッテリー」（→P.64）をご覧ください。	●注1	注2
ピークシフト設定	設定した時間にあわせて、ACアダプタ運用とバッテリー運用を切り替えることができます。ピークシフト設定の設定方法については、「3.7.7 ピークシフト」（→P.63）をご覧ください。	●注1	注2
保護管理ツール	書込保護機能に関する各種設定を行うためのアプリです。 詳しくは、「1.4 保護管理ツール」（→P.16）をご覧ください。	●	―

表内の記号については「5.1.1 一覧表の見かた」（→P.91）をご覧ください。

対象OSの表記　11：Windows 11用、10：サポートOSのWindows 10用

名称	概要／提供形態	対象OS	
		11	10
マイクミュート ユーティリティ	キーボードで【Fn】キーを押しながら[🎤]の刻印のあるキーを押して、マイクのオン／オフを切り替えるアプリです。 【Fn】キーや刻印のあるキーの位置については、「2.6 キーボード」（→P.32）をご覧ください。 ※ 本アプリをお使いになる場合は、書込保護機能を「有効」にする前に必ず次の設定を行ってください。 1.「スタート」ボタンを右クリックし、「タスクマネージャー」をクリックします。 2.「スタートアップ」タブで「マイクミュートユーティリティ」を右クリックし、「有効化」をクリックします。 設定が完了すると、「状態」が「有効」に変わります。	●注1	注2
ワンタッチボタン設定	キーボードで【Fn】キーを押しながら[ECO]の刻印のあるキーを押すと、省エネ機能の設定を切り替えることができます。 ・省エネ機能については、「3.7.5 省エネ機能」（→P.62）をご覧ください。 ・【Fn】キーや刻印のあるキーの位置については、「2.6 キーボード」（→P.32）をご覧ください。	●注1	注2

注1：本アプリは「ドライバーズディスク」には格納されていません。
再インストールする場合は、ストアから本アプリをインストールする必要があります。
「ドライバーズディスク」内にある「Readme.txt」をご覧になり、ストアのURLやインストール時の注意をご確認ください。
注2：本アプリをインストールする場合は、ストアからインストールする必要があります。
「ドライバーズディスク」内にある「Readme.txt」をご覧になり、ストアのURLやインストール時の注意をご確認ください。

5.2 インストール

次のアプリをお使いになるにはインストールが必要です。手順に従ってインストールしてください。

POINT

- アプリのインストールは、内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能を「無効」にして行う必要があります。「有効」の状態で行うと再起動後に設定が削除され、インストール前の状態に戻ってしまいます。
  書込保護機能については、「1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能」（→P.14）をご覧ください。
  アプリをインストールし設定を行った後は、書込保護機能を「有効」にしてください。

5.2.1 「ドライバーズディスク検索」からのインストール

重 要

- ディスクからインストールする場合は、別売の外付け光学ドライブを接続してください。
- 本製品にプリインストールされているアプリやドライバーの一部は、ドライバーズディスク検索に格納されていないものもあります。
  再インストールする場合には、ストアからインストールする必要があります。
  各アプリやドライバーのフォルダに格納されている「Readme.txt」に、ストアのURLやインストール時の注意について記載していますので、必ずご確認ください。
- 「ドライバーズディスク」は、本製品の内蔵フラッシュメモリに格納されています。
  ディスクがお手元にない場合は内蔵フラッシュメモリからディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。
- ドライバーやアプリのアップデート版は、弊社アップデートサイトに公開されています。
  システムの安定稼働のため、常に最新版のドライバーやユーティリティを適用することをお勧めします。
  なお、本製品に搭載されているすべてのドライバーやアプリが公開されているわけではありません。

1 次の操作を行います。

●ディスクからインストールする場合

1. ディスクをセットします。
   「ドライバーズディスク検索」が起動します。

POINT

- 画面右下にメッセージが表示された場合は、そのメッセージをクリックし、続けて「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックしてください。
- 「ドライバーズディスク検索」が起動しない場合は、次のように操作してください。
  1. 「スタート」ボタンを右クリックし、「エクスプローラー」をクリックします。
  2. ウィンドウ左の「PC」をクリックします。
  3. ディスクをセットしたドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「自動再生を開く」をクリックします。
  4. 「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックします。

●内蔵フラッシュメモリのデータからインストールする場合

1. 「スタート」ボタン→「すべて」→「ドライバーズディスク検索（ハードディスク）」の順にクリックします。
2. メッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。
   「ドライバーズディスク検索」が起動します。

2 「ソフトウェアの検索条件」で機種名が選択できる場合は、お使いの機種名を選択します。

3 「ソフトウェアの検索条件」でお使いのOSを選択します。

4 「種別」に「すべて」を選択します。

5 インストールするアプリを選択します。
「内容」に、インストールするアプリのフォルダーが表示されます。

6 「インストール方法の確認」をクリックします。
Readmeなどのテキストファイルを選択するウィンドウが表示されます。

重 要

- 「表示可能なファイルがありません。」というメッセージが表示された場合
「内容」に表示されている「readme」から始まるファイルをダブルクリックして、ファイルを開いてください。

7 テキストファイルを選択し、「開く」をクリックします。
テキストファイルの手順に従って、ドライバーをインストールしてください。
ドライバーのインストール完了後、本製品が再起動します。

5.2.2 「AuthConductor Client Basic」のインストール

「AuthConductor Client Basic」は「ドライバーズディスク」に格納されていますが、インストールの方法や順番が、他のアプリとは異なります。「AuthConductor Client Basic」のインストール方法については、AuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。

5.3 アンインストール

POINT

- アプリのアンインストールは、内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能を「無効」にして行う必要があります。「有効」の状態で行うと再起動後に設定が削除され、アンインストール前の状態に戻ってしまいます。
  書込保護機能については、「1.3 内蔵フラッシュメモリへの書込保護機能」（→P.14）をご覧ください。
  アプリをアンインストールした後は、書込保護機能を「有効」にしてください。

5.3.1 注意事項

アプリをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- アプリをすべて終了してからアンインストールを始めること
- DLLファイルは削除しないこと
  アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。
  「このDLLは複数のソフトウェアで使用されている可能性があります。削除を行いますか」
  このDLLファイルを削除すると、他のアプリが正常に動作しなくなることがあります。アプリのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルで、特に指示がない場合はDLLファイルは削除しないことをお勧めします。

5.3.2 アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する
  アプリにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- 「プログラムのアンインストールまたは変更」機能を使用する
  次の手順で削除することができます。
  1. 「スタート」ボタン→ （設定）→「アプリ」の順にクリックします。
  2. 「アプリと機能」をクリックします。
  3. 削除したいアプリをクリックし、表示された「アンインストール」をクリックします。
  4. 「アンインストール」をクリックします。
     アプリがアンインストールされます。

アンインストール方法はアプリによって異なります。詳しくは、各アプリのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。

重 要

- 次の認証デバイスのドライバーをアンインストールするときは、「AuthConductor Client Basic」をアンインストールした後で行うようにしてください。
  ・Webカメラ
  ・手のひら静脈センサー
  ・Felicaポート
- 「AuthConductor Client Basic」のアンインストール方法については、AuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。

6

第6章

BIOS

BIOSセットアップについて説明しています。

6.1 BIOSセットアップ 99
6.2 BIOSセットアップの操作のしかた 100
6.3 設定事例集 103

6.1 BIOSセットアップ

BIOSセットアップは、メモリや内蔵フラッシュメモリなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。
本製品ご購入時には、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。次のような場合にBIOSセットアップの設定を変更します。

・特定の人だけが本製品を利用できるように、本製品にパスワードを設定するとき
・起動デバイスを変更するとき
・セキュリティチップの設定を変更するとき
・セキュアブートの設定を変更するとき
・手のひら静脈認証をパスワードの代わりとして使用するとき（手のひら静脈センサー搭載機種）
・Wake on LANの設定を変更するとき
・Wake on RTCを有効にする
・起動時の自己診断（POST）にBIOSセットアップをうながすメッセージが表示されたとき

重 要

- BIOSセットアップの設定は、必ず電源を切ってから行ってください。電源の切り方は、「3.7.2 電源を切る」（→P.59）をご覧ください。
- BIOSセットアップは正確に設定してください。
  設定を間違えると、本製品が起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。
  このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本製品を再起動してください。
- 起動時の自己診断中は、電源を切らないでください。

6.2 BIOSセットアップの操作のしかた

ここでは、BIOSセットアップの起動と終了、および基本的な操作方法について説明しています。

6.2.1 BIOSセットアップを起動する

POINT

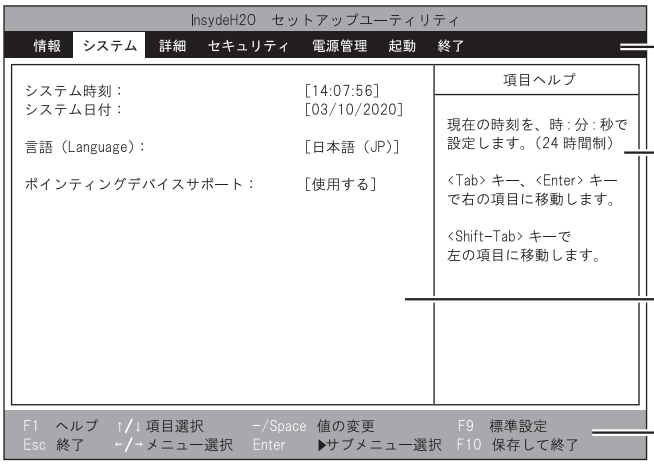
- Windowsが起動してしまった場合は、本製品の電源を完全に切ってからもう一度操作してください。
  電源の切り方は、「3.7.2 電源を切る」（→P.59）をご覧ください。

1 **【F2】キーを押したまま、本製品の電源を入れます。**

2 **ビープ音が鳴ったら、【F2】キーを離します。**
BIOSセットアップ画面が表示されます。
パスワード入力画面が表示された場合はパスワードを入力（→P.105）してください。
手のひら静脈を登録した場合は、認証を行ってください。

6.2.2 BIOSセットアップ画面

BIOSセットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。
各項目についての説明は「項目ヘルプ」を、操作方法は「キー一覧」をご覧ください。



1 メニューバー
メニュー名が表示されます。

2 項目ヘルプ
カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

3 設定フィールド
選択しているメニューの設定項目と、現在の設定値が表示されます。

4 キー一覧
設定時に使うキーの一覧です。

（機種により表示が異なる場合があります）

6.2.3 BIOSセットアップメニュー

BIOSの各種設定を行います。
本製品のBIOSセットアップメニューについては、『BIOSセットアップメニュー 一覧』をご覧ください。

6.2.4 BIOSセットアップを終了する

■ 変更を保存して終了する

1 「終了」メニューを選択します。
サブメニューが表示されている場合は、メニューバーに「終了」メニューが表示されるまで【Esc】キーを数回押してから、「終了」メニューを選択してください。

2 次のいずれかの項目を選択し、【Enter】キーを押します。
・「変更を保存して終了する」
・「変更を保存して電源を切る」
確認メッセージが表示されます。

3 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
BIOSセットアップが終了します。
「変更を保存して終了する」を選択した場合はWindowsが起動します。
「変更を保存して電源を切る」を選択した場合は本製品の電源が切れます。

■ 変更を保存せずに終了する

1 「終了」メニューを選択します。
サブメニューが表示されている場合は、メニューバーに「終了」メニューが表示されるまで【Esc】キーを数回押してから、「終了」メニューを選択してください。

2 「変更を保存せずに終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。

POINT

- 何も変更していない場合は、メッセージは表示されずにBIOSセットアップが終了し、Windowsが起動します。

3 「いいえ」を選択し、【Enter】キーを押します。
BIOSセットアップが終了し、Windows が起動します。

重 要

- 「はい」を選択すると、変更が保存されてしまいます。必ず「いいえ」を選択してください。

6.2.5 起動メニューを使用する

起動するデバイスを選択して本製品を起動します。「リカバリ起動ディスク」から本製品を起動する場合などに使用します。
起動メニューを使用するには、本製品の電源を完全に切った状態から行ってください。

重 要

- BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューの「起動メニュー」が「使用しない」の場合は、起動メニューを使用できません。その場合は、「使用する」に設定し直してください。

1 本製品の電源を完全に切ります。
電源の切り方は、「3.7.2 電源を切る」（→P.59）をご覧ください。

2 【F12】キーを押したまま、本製品の電源を入れます。

3 ビープ音が鳴ったら、【F12】キーを離します。
起動メニューが表示されます。
パスワード入力画面が表示された場合はパスワードを入力（→P.105）してください。
手のひら静脈を登録した場合は、認証を行ってください。

POINT

- Windowsが起動してしまった場合は、本製品の電源を完全に切ってからもう一度操作してください。
  電源の切り方は、「3.7.2 電源を切る」（→P.59）をご覧ください。
- 【Tab】キーを押して、「起動メニュー」と「アプリケーションメニュー」の表示を切り替えることができます。

4 カーソルキーで起動するデバイスを選択し、【Enter】キーを押します。
選択したデバイスから本製品が起動します。

POINT

- 光学ドライブから起動する場合、光学ドライブにディスクをセットしてから操作してください。
- 光学ドライブから起動する場合、光学ドライブのデータの読み出しが停止していることを確認してから【Enter】キーを押してください。
  光学ドライブのデータの読み出し中に【Enter】キーを押すと、光学ドライブから正常に起動できない場合があります。
- 起動メニューを終了して通常の方法で起動する場合は、【Esc】キーを押してください。

6.3 設定事例集

ここでは、よく使われる設定について、その設定方法を記載しています。
お使いの状況にあわせてご覧ください。

- **BIOSのパスワード機能を使う（→P.103）**
- **起動デバイスを変更する（→P.106）**
- **セキュリティチップの設定を変更する（→P.107）**
- **セキュアブートの設定を変更する（→P.108）**
- **パスワードの代わりに手のひら静脈認証を使う（→P.108）**
- **電源オフUSB充電機能の設定を変更する（→P.109）**
- **Wake on LANを有効にする（→P.109）**
- **Wake on RTCを有効にする（→P.111）**
- **イベントログを確認する（→P.111）**
- **イベントログを消去する（→P.111）**
- **ご購入時の設定に戻す（→P.112）**

6.3.1 BIOSのパスワード機能を使う

■ パスワードの種類

本製品で設定できるパスワードは次のとおりです。

□管理者用パスワード

システム管理者用のパスワードです。パスワード機能を使う場合は、必ず設定してください。

□ユーザー用パスワード

一般利用者用のパスワードです。管理者用パスワードが設定されている場合のみ設定できます。
ユーザー用パスワードでBIOSセットアップを起動した場合は、設定変更のできる項目が制限されます。制限された設定項目はグレー表示になり、変更できません。

POINT

- 管理者用パスワードが削除された場合、ユーザー用パスワードも削除されます。

□ハードディスクパスワード

本製品の内蔵フラッシュメモリを、他のユーザーが使用したり、他のコンピューターで使用したりできないようにするためのパスワードです。

■ パスワードを設定／変更／削除する

重 要

- ハードディスクパスワードを設定する場合は、電源オフ状態から作業を開始してください。本製品を再起動してBIOSセットアップを起動した場合、ハードディスクパスワードを設定することはできません。
- 「管理者用パスワード」を変更するには、BIOSセットアップを「管理者用パスワード」で起動する必要があります。
- 「ユーザー用パスワード」を設定するには、「管理者用パスワード」が設定されている必要があります。

1 ハードディスクパスワードを設定する場合は、次の操作を行います。

1. 本製品の電源が入っている場合は、電源を切ります（→P.59）。
2. BIOSセットアップを起動します（→P.100）。

2 「セキュリティ」メニューで次の項目を選択し、【Enter】キーを押します。

●管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する場合
・「管理者用パスワード設定」
・「ユーザー用パスワード設定」
●ハードディスクパスワードを設定する場合
・「ハードディスクセキュリティ」の「ドライブn」の「マスターパスワード設定」
・「ハードディスクセキュリティ」の「ドライブn」の「ユーザーパスワード設定」

POINT

- ハードディスクの「マスターパスワード」を設定するためには、ハードディスクの「ユーザーパスワード」が設定されている必要があります。

3 すでにパスワードが設定されている場合は、現在のパスワードを入力します。

「新しいパスワードを入力してください」にカーソルが移ります。

4 新しいパスワード（1～32桁）を入力します。

パスワードを削除する場合は、何も入力せずに【Enter】キーを押します。
「新しいパスワードを確認してください」にカーソルが移ります。

POINT

- パスワードには、アルファベットと数字、記号および半角スペースを使用できます。
  大文字、小文字は区別されます。
  記号を入力する場合は、次の表をご覧ください。（表にない記号は使用できません。）
  ・キーボードの刻印どおりに入力します。

入力する記号	-	;	,	.	/

  ・【Shift】キーを押しながら対応するキーを押します。

入力したい記号	!	#	$	%	<	>	?
対応するキー	1	3	4	5	,	.	/

- 入力した文字は表示されず、代わりに「＊」が表示されます。
- 数字だけでなく英字を入れるなど、第三者に推測されないように工夫してください。
- BIOSセットアップを「ユーザー用パスワード」で起動した場合、「ユーザー用パスワード」を削除できるのは「ユーザー用パスワード文字数」の設定が0のときだけです。0以外のときは、「パスワード文字数不足」のメッセージが表示されます。
- 本製品の修理が必要な場合は、必ずパスワードを解除してください。パスワードがかかった状態では、保証期間にかかわらず、修理は有償となります。

5 **手順4で入力したパスワードをもう一度入力します。**

「変更が保存されました。」と表示され、パスワードが変更されます。

POINT

- 再入力したパスワードが間違っていた場合は、警告メッセージが表示されます。
  【Enter】キーを押してウィンドウを消去し、手順4からやり直してください。

6 **変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。**

「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.101）

■ パスワードを使用する

設定したパスワードは、BIOSセットアップの設定により、次の場合に入力が必要になります。

POINT

- 誤ったパスワードを3回入力すると、エラーメッセージが表示されます。（警告音が鳴り、キーボードやマウスが一切反応しなくなります。）
  この場合は、電源ボタンを10秒以上押して本製品の電源を切ってください。
  電源が切れた後、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。

● 管理者用パスワード／ユーザー用パスワード

・BIOSセットアップを起動するとき

・本製品を起動するとき

次の入力画面が表示されたら、管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードを入力してください。



● ハードディスクパスワード

・本製品を起動するとき

次の入力画面が表示されたら、対応するドライブのハードディスクパスワードを入力してください。



POINT

- ハードディスク用マスターパスワードでは、本製品を起動することはできません。

■ パスワードを忘れてしまったら

重 要

- ハードディスクパスワードは、盗難などによる不正使用を防止することを目的とした強固なセキュリティです。ハードディスクパスワードを忘れてしまった場合、修理をしても内蔵フラッシュメモリ内のデータやプログラムは復元できず、消失してしまいます。パスワードの管理には充分ご注意ください。

□対処が可能な場合

- ユーザー用パスワードを忘れてしまった
  管理者用パスワードを削除すると、ユーザー用パスワードも削除されます。
- ハードディスク用ユーザーパスワードを忘れてしまった
  ハードディスク用マスターパスワードが設定されている場合のみ、マスターパスワードを削除するとユーザーパスワードも削除されます。
  マスターパスワードを設定していなかった場合は、修理が必要です。修理は保証期間にかかわらず、有償になります。

□対処が不可能な場合

次の場合は、修理が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。
修理は保証期間にかかわらず、有償になります。

- 管理者用パスワードを忘れてしまった
- ハードディスク用マスターパスワードを忘れてしまった

6.3.2 起動デバイスを変更する

本製品の起動時にOSを読み込むデバイスの順序は、「起動」メニューの「起動デバイスの優先順位」で設定します。
「起動デバイスの優先順位」に設定されている順にOSを検索します。
変更したデバイスの順序は、再起動後に反映されます。

1 **「起動」メニューを選択します。**

2 **カーソルキーで優先順位を変更したいデバイスを選択します。**

3 **次のキーを使用して、優先順位を変更します。**

・【+】キー　　：選択したデバイスを1つ上に移動します。
・【−】キー　　：選択したデバイスを1つ下に移動します。
・【Shift】＋【1】キー：選択したデバイスを有効または無効に設定します。

4 **「起動デバイスの優先順位」が希望する順番になるまで、手順2〜3を繰り返します。**

5 **変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。**

「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.101）

6.3.3 セキュリティチップの設定を変更する

■ セキュリティチップを有効／無効にする

1. 「セキュリティ」メニューを選択します。
2. 「TPM（セキュリティチップ）設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
3. 「セキュリティチップ」を選択し、【Enter】キーを押します。
4. 「使用する」または「使用しない」を選択し、【Enter】キーを押します。
5. 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。

POINT

- セキュリティチップのクリアは、再起動後に反映されます。

■ セキュリティチップをクリアする

重 要

- セキュリティチップをクリアすると、セキュリティチップで保護されたデータなどは利用できなくなります。セキュリティチップをクリアする前に保護を解除してください。

1. 「セキュリティ」メニューを選択します。
2. 「TPM（セキュリティチップ）設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
3. 「セキュリティチップのクリア」を選択し、【Enter】キーを押します。
   確認画面が表示されます。
4. 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
5. 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
   「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.101）

POINT

- セキュリティチップのクリアは、再起動後に反映されます。

■ アプリからの変更を反映する

Windows上のアプリを使ってセキュリティチップの状態を変更する場合、本製品の再起動後に、変更が有効になっていることがあります。
再起動を要求するメッセージが表示されたら、次の手順に従って操作してください。

1. 本製品の電源を入れるまたは再起動します。
   起動時の自己診断が実行された後、TPM設定変更の確認画面が表示されます。
2. 【Y】キーを押します。
   セキュリティチップの状態が変更されます。

6.3.4 セキュアブートの設定を変更する

1. 「セキュリティ」メニューを選択します。
2. 「セキュアブート設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
3. 「セキュアブート機能」を選択し、【Enter】キーを押します。
4. 「使用する」または「使用しない」を選択し、【Enter】キーを押します。
5. 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.101）

6.3.5 パスワードの代わりに手のひら静脈認証を使う

対 象　手のひら静脈センサー搭載機種

手のひら静脈センサー搭載機種の場合、パスワードを入力する代わりに、手のひら静脈センサーを使用して本製品の起動時の認証を行うことができます。次の手順で設定を変更してください。

1. 管理者用パスワードとユーザー用パスワードを設定します。
「6.3.1 BIOSのパスワード機能を使う」（→P.103）
2. 「起動時のパスワード」を「毎回」に設定します。
3. 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.101）
4. AuthConductor Client Basicで手のひら静脈の登録と設定を行います。
詳しくは、AuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。

POINT

- ハードディスクパスワードの代わりに手のひら静脈認証を使用することはできません。

6.3.6 電源オフUSB充電機能の設定を変更する

対 象 USB Type-Cコネクタ

電源オフUSB充電機能とは、製品が電源オフ状態や省電力状態の場合でも、USB充電に対応した周辺機器を充電することができる機能です。
電源オフUSB充電機能については、「3.11 電源オフUSB充電機能」（→P.76）もあわせてご覧ください。
本機能はご購入時は有効に設定されています。

1 **「電源管理」メニューを選択します。**

2 **「USB Type-C充電設定」の「パソコン電源オフ時の動作」を選択し、【Enter】キーを押します。**

3 **設定したい項目を選択し、【Enter】キーを押します。**

設定項目	説明
充電しない	電源オフUSB充電機能が無効になります。
充電する	電源オフUSB充電機能が有効になります。 バッテリー残量が12%以下になると、電源オフUSB充電は停止します。 ACアダプタを接続すると、電源オフUSB充電を再開します。

4 **変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。**
「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.101）

6.3.7 Wake on LANを有効にする

Wake on LAN（WoL機能）は、他のコンピューターから有線LAN経由で本製品を起動する機能です。
本製品が電源オフ状態のときに、起動することができます。

重 要

- 電源を切る方法については、「3.7.2 電源を切る」（→P.59）をご覧ください。
- MACアドレスパススルー機能を使用している場合
  本製品がスリープ状態のときのみ、WoL機能を使用できます。
  電源オフ状態の場合は、WoL機能は使用できません。電源オフ状態でWoL機能を使用するには、MACアドレスパススルー機能は使用しないでください。
  MACアドレスパススルー機能については「3.9.1 有線LAN」（→P.72）をご覧ください。

■ BIOSセットアップメニューでの設定

1 **「電源管理」メニューを選択します。**

2 **「LANによるウェイクアップ」を選択し、【Enter】キーを押します。**

3 **「使用する」を選択し、【Enter】キーを押します。**

4 **変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。**
「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.101）
Windowsが起動します。続けて「■ Windowsでの設定」（→P.110）を行ってください。

■ Windowsでの設定

1 **「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.9）を表示します。**

2 **「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」の順にクリックします。**
「電源オプション」が表示されます。

3 **ウィンドウ左の「電源ボタンの動作を選択する」をクリックします。**

4 **「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリックします。**

5 **「シャットダウン設定」の「高速スタートアップを有効にする（推奨）」のチェックを外します。**

6 **「変更の保存」をクリックします。**
続けて次の操作を行います。

7 **「スタート」ボタン→（設定）→「システム」の順にクリックします。**

8 **「バージョン情報」をクリックします。**

9 **「デバイス マネージャー」をクリックします。**
「デバイスマネージャー」が表示されます。

10 **「ネットワーク アダプター」→「Realtek PCIe GbE Family Controller」の順にダブルクリックします。**
Realtek PCIe GbE Family Controllerのプロパティが表示されます。

11 **「詳細設定」タブで次の設定を変更します。**
「LAN上のウェークアップのシャットダウン」を選択し、値を「有効」にします。

12 **「OK」をクリックします。**

6.3.8 Wake on RTCを有効にする

Wake on RTC機能とは、電源オフ状態から指定の時刻に本製品を起動する機能です。

1. **「電源管理」メニューを選択します。**
2. **「時刻による電源ON」を選択し、【Enter】キーを押します。**
3. **「使用する」を選択し、【Enter】キーを押します。**
4. **次の設定をそれぞれ選択し、【Enter】キーを押します。**
   ・時刻
   ・日付
5. **指定をそれぞれ入力し、【Enter】キーを押します。**
6. **変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。**
   「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.101）

6.3.9 イベントログを確認する

1. **「詳細」メニューを選択します。**
2. **「イベントログ設定」を選択し、【Enter】キーを押します。**
3. **「イベントログの表示」を選択し、【Enter】キーを押します。**
   記録されているイベントログが表示されます。

イベントログに記録されるメッセージについては、「8.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.141）の「■BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ」をご覧ください。

6.3.10 イベントログを消去する

1. **「詳細」メニューを選択します。**
2. **「イベントログ設定」を選択し、【Enter】キーを押します。**
3. **「イベントログの消去」を選択し、【Enter】キーを押します。**
4. **「次回起動時に消去します」を選択し、【Enter】キーを押します。**
5. **変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。**
   「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.101）

6.3.11　ご購入時の設定に戻す

1 **「終了」メニューを選択します。**

2 **「標準設定値を読み込む」を選択し、【Enter】キーを押します。**
確認メッセージが表示されます。

3 **「はい」を選択して【Enter】キーを押します。**
一部を除くすべての設定が、ご購入時の設定値に戻ります。
変更されない項目については、『BIOSセットアップメニュー一覧』の「終了」メニュー―「標準設定値を読み込む」備考欄「次の項目は対象外」をご覧ください。

4 **変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。**
「6.2.4 BIOSセットアップを終了する」（→P.101）

7

第7章

お手入れ

快適にお使いいただくためのお手入れ方法を説明しています。

7.1 日常のお手入れ 114
7.2 定期的なお手入れ 116

7.1 日常のお手入れ

製品本体や周辺機器を長時間使用していると、汚れが付いたり、ほこりがたまったりします。ここでは、日常のお手入れのしかたを説明しています。

7.1.1 製品本体、キーボード、マウスの表面の汚れ

乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。
中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。

重 要

- 拭き取るときは、内部に水が入らないよう充分に注意してください。
- シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは使わないでください。損傷する原因となります。

■ キーの間のほこり

キーボードのキーの間のほこりは、柔らかいブラシなどを使って取り除いてください。

重 要

- ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となります。
- 掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
- 毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となります。

7.1.2 手のひら静脈センサー

対 象 手のひら静脈センサー搭載機種

手のひら静脈センサーにほこりや汚れが付いたりすると、手のひら静脈認証の精度が低下する可能性があります。手のひら静脈センサーのほこりや汚れは、次の方法で取り除いてください。

- ほこりは乾いた柔らかい布で軽く払います。
- 汚れは乾いた柔らかい布で軽く拭き取ります。

重 要

- 水を使用しないでください。損傷する原因となります。
- シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。損傷する原因となります。

7.1.3 液晶ディスプレイ

つめや指輪などで傷を付けないように注意しながら、乾いた柔らかい布かメガネ拭きを使って軽く拭き取ってください。水や中性洗剤を使用して拭かないでください。

重 要

- 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- 液晶ディスプレイの背面を手で支えてください。製品本体が倒れるおそれがあります。
- 化学ぞうきんや市販のクリーナーを使うと、成分によっては、画面表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは使わないでください。
  - ・アルカリ性成分を含んだもの
  - ・界面活性剤を含んだもの
  - ・アルコール成分を含んだもの
  - ・シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
  - ・研磨剤を含むもの

7.2 定期的なお手入れ

長期間製品を使用していると、通風路や製品内部にほこりがたまります。ほこりがたまった状態で使用し続けると、故障の原因となりますので、定期的にお手入れをしてください。

7.2.1 注意事項

- 感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、必ず次の事項を行うようにしてください。
  - ・製品本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
    電源の切り方については、「3.7.2 電源を切る」（→P.59）をご覧ください。
  - ・周辺機器の電源を切り、製品本体から取り外してください。
  - ・バッテリーを取り外してください。
- 清掃時には、ほこりなどを口や鼻から吸い込まないように、窓を開けたり、換気扇を回したりするなどして、充分に換気してください。
- 洗剤を使用しないでください。故障の原因となります。
- 清掃時に破損した場合は、保証期間にかかわらず修理は有償となります。取り扱いについては、充分にご注意ください。

7.2.2 空冷用通風路

本製品は、性能を維持するために放熱用のファンを内蔵しています。放熱用ファンは、製品本体の外側と内側の間に空気の流れを作って製品本体内部を冷却しているため、ご使用環境によっては製品本体内部に周囲のほこりを取り込んでしまうことがあります。このほこりが徐々に蓄積していくと、製品本体内部に熱がこもり、故障の原因となります。

重 要

- 感電のおそれがありますので、清掃前には必ず製品本体や周辺機器の電源を切り、ACアダプタ、バッテリーを取り外してください。
  製品本体の電源の切り方については、「3.7.2 電源を切る」（→P.59）をご覧ください。

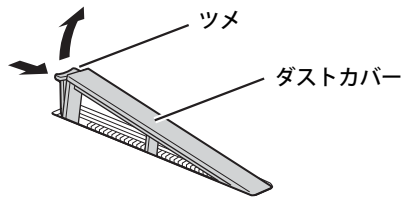
■ お手入れのしかた

1 製品本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します。

2 液晶ディスプレイを閉じ、製品本体を裏返します。

3 「3.8.4 バッテリーを交換する」（→P.68）をご覧になり、バッテリーを取り外します。

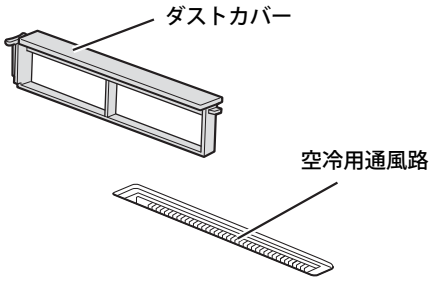
4 ツメを矢印の方向に押しながら持ち上げ、ダストカバーを取り外します。



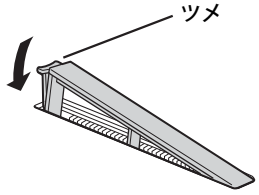
5 ダストカバーと空冷用通風路のほこりを取り除きます。

重 要

- ほこりを取り除くときは、プラスチック製のようじや歯間ブラシなどをお使いください。金属などの硬いものや、木製の折れやすいものなどを使うと故障の原因になります。
- 金属部分を傷付けないように注意してください。



6 ツメのない側から差し込み、「カチッ」と音がするまでしっかりはめ込みます。



7 「3.8.4 バッテリーを交換する」（→P.68）をご覧になり、バッテリーを取り付けます。

重 要

- ダストカバーを取り外したまま使用しないでください。取り外したまま使用すると、故障の原因となります。

8

第8章

トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

8.1 トラブル発生時の基本操作 119
8.2 よくあるトラブルと解決方法 123
8.3 それでも解決できないときは 145

8.1 トラブル発生時の基本操作

トラブルを解決するにはいくつかのポイントがあります。トラブル発生時に対応していただきたい順番に記載しています。

8.1.1 状況を確認する

トラブルが発生したときは、直前に行った操作や現在の製品の状況を確認しましょう。

■ メッセージなどが表示されたら控えておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモ帳などに控えておいてください。マニュアルで該当するトラブルを検索する場合や、お問い合わせのときに役立ちます。

■ 製品や周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まず製品や周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？また緩んだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありませんか？
  他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- OAタップを使用している場合、OAタップ自体に問題はありませんか？
  他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- 使用する装置の電源はすべて入っていますか？
  ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- キーボードの上にものを載せていませんか？
  キーが押され、製品が正常に動作しないことがあります。
- サーバー側の設定に問題はありませんか？
  仮想環境のみで不具合が発生する場合は、サーバー側の設定を確認する必要があります。

この他、「8.2.2 起動・終了時のトラブル」（→P.125）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

8.1.2 以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやアプリのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
- アプリをインストールした場合は、アンインストールします。

その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、インターネット上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください。
発生したトラブルに該当する記述があれば、指示に従ってください。

8.1.3 トラブルシューティングで調べる

「8.2 よくあるトラブルと解決方法」（→P.123）は、よくあるトラブルの解決方法が記載されています。
発生したトラブルの解決方法がないかご覧ください。

8.1.4 インターネットで調べる

「よくあるQA一覧」のページ（https://www.fmworld.net/biz/fmv/support/qalist/index.html）では、本製品で発生したトラブルの解決方法を提供しています。
また、「サポート」のページ（https://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html）では、本製品に関連したサポート情報や更新されたドライバーを提供しております。
注意事項や補足情報も公開していますので、解決方法がないかご覧ください。

8.1.5 診断プログラムを使用する

診断プログラムを使用して、ハードウェアに障害が発生していないか診断してください。
まずBIOSの起動メニューにある診断プログラムで簡単に診断し、異常が発見されなければ続けて「富士通ハードウェア診断ツール」でデバイスを選んで詳しく診断します。
診断後にエラーコードが表示された場合は控えておき、「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
診断時間は5～10分程度ですが、診断する内容や製品の環境によっては長時間かかる場合があります。
診断プログラムを使用するには、本製品の電源を完全に切った状態から行ってください。

重 要

- 電源の切り方は、「3.7.2 電源を切る」（→P.59）をご覧ください。
- BIOSの設定をご購入時の状態に戻してください。
  診断プログラムを使用する前に、必ず、BIOSをご購入時の状態に戻してください。詳しくは、「6.3.11 ご購入時の設定に戻す」（→P.112）をご覧ください。
- 診断プログラムを使用する前に周辺機器を取り外してください。
  USBメモリや外付けハードディスクなど、ハードディスクやリムーバブルディスクと認識される周辺機器は、診断を行う前に取り外してください。

■ アプリケーションメニューを表示する

1 **本製品の電源を完全に切ります。**
電源の切り方は、「3.7.2 電源を切る」（→P.59）をご覧ください。

2 **【F12】キーを押したまま、本製品の電源を入れます。**

3 **ビープ音が鳴ったら、【F12】キーを離します。**
起動メニューが表示されます。

POINT

- BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューの「起動メニュー」が「使用しない」の場合は、起動メニューを使用できません。その場合は、「使用する」に設定し直してください。
  BIOSセットアップについては、「6.2.1 BIOSセットアップを起動する」（→P.100）をご覧ください。
- 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。
  手のひら静脈を登録した場合は、認証を行ってください。
- 起動メニューが表示されずWindowsが起動してしまった場合は、本製品の電源を完全に切ってからもう一度操作してください。電源の切り方は、「3.7.2 電源を切る」（→P.59）をご覧ください。
- 高速起動が有効になっているためUSBキーボードが使えない場合があります。内蔵キーボードを使って操作してください。

4 **【Tab】キーを押します。**
アプリケーションメニューが表示されます。
「■ 診断プログラムを実行する」（→P.121）へ進んでください。

■ 診断プログラムを実行する

続けて、診断プログラムを実行します。

1 **カーソルキーで「診断プログラム」を選択し、【Enter】キーを押します。**
「診断プログラムを実行しますか？」と表示されます。

2 **【Y】キーを押します。**
ハードウェア診断が始まります。
ハードウェア診断が終了したら、診断結果が表示されます。診断結果が表示される前に、自動的に製品が再起動する場合があります。

3 **次の操作を行います。**
●トラブルが検出されなかった場合
【Enter】キーを押してください。続けて「富士通ハードウェア診断ツール」が起動します。
「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「注意事項」ウィンドウが表示されます。手順4へ進んでください。
●トラブルが検出された場合
手順4以降の「富士通ハードウェア診断ツール」での診断は不要です。画面に表示された内容を控え、お問い合わせのときにお伝えください。その後、【Y】キーを押して製品の電源を切ってください。
電源が自動で切れない場合は、電源ボタンを押して電源を切ってください。

4 **「注意事項」ウィンドウの内容を確認し、「OK」をクリックします。**

5 **「診断」タブをクリックします。**
診断したいアイコンにチェックが付いていることを確認します。

重 要

- 内蔵フラッシュメモリを診断する場合は、次の操作を行ってください。
  1.「ハードディスク」のアイコンを右クリックします。
  2. 表示された画面で、「ディスク0」にチェックが付いていることを確認します。
  3.「OK」をクリックします。

6 **「実行」をクリックします。**
ハードウェア診断が始まります。

POINT

- 「[ハードウェア名]に［媒体］をセットしてください」などと表示された場合、「リカバリ起動ディスク」などのディスクをセットしてください。音楽CDなどでは診断できない場合があります。
  診断を取りやめる場合は、「スキップ」をクリックしてください。

7 **「診断結果」ウィンドウに表示された内容を確認します。**
表示された内容に従って操作してください。エラーコードが表示された場合には控えておき、お問い合わせのときにお伝えください。

8 **「診断結果」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。**
「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウに戻ります。

9 **「終了」をクリックします。**
「終了」ウィンドウが表示されます。

10 **「はい」をクリックします。**
電源が切れ、診断プログラムが終了します。

8.1.6 サポートの窓口に相談する

本章をご覧になり、トラブル解決のための対処をした後も回復しない場合には、「8.3 それでも解決できないときは」（→P.145）をご覧になりサポートの窓口に相談してください。

8.2 よくあるトラブルと解決方法

8.2.1 トラブル一覧

■ 起動 ・ 終了時のトラブル

- 「電源が入らない」（→P.125）
- 「メッセージが表示された」（→P.125）
- 「画面に何も表示されない」（→P.126）
- 「起動時にチェックディスクが毎回行われる」（→P.126）
- 「Windowsが起動しない」（→P.127）
- 「Windowsが動かなくなってしまい、電源が切れない」（→P.127）
- 「シャットダウンに時間がかかるなど、本製品の動作が不安定になる」（→P.127）

■ Windows ・ アプリ関連のトラブル

- 「Windowsにサインインできない」（→P.128）
- 「アプリが動かなくなってしまった」（→P.128）
- 「頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる」（→P.128）
- 「「このms-*******を開くには新しいアプリが必要です」というメッセージが表示される」（→P.128）
- 「Windows Updateが完了しない」（→P.129）
- 「UWFの保護が有効な状態でWindows Defenderを使用するには」（→P.129）
- 「休止が使用できない」（→P.130）
- 「仮想メモリが使用できない」（→P.130）
- 「回復が正常に行えない」（→P.130）
- 「UWF Servicingが使用できない」（→P.131）
- 「スクリーンセーバーにUwfServicingScr.scrを設定すると、キー入力やマウス操作で復帰しない」（→P.131）
- 「デバイスドライバーをインストールするメッセージが表示される」（→P.131）

■ ハードウェア関連のトラブル

□ BIOS

- 「BIOSで設定したパスワードを忘れてしまった」（→P.131）

□ LAN

- 「ネットワークに接続できない」（→P.132）
- 「通信速度が遅い」（→P.132）
- 「持ち運ぶと、接続が切断されたり不安定になったりする」（→P.133）
- 「電源オフ状態からWoL機能によるレジューム（Wake on LAN）ができない」（→P.133）
- 「周辺機器が持っている（記載される）MACアドレスが異なる」（→P.133）

□ デバイス

- 「機器が使用できない」（→P.134）

□バッテリー

- 「状態表示LEDのバッテリーステータスランプが赤色に短い間隔で点滅している」（→P.135）
- 「バッテリーが充電されない」（→P.135）

□ディスプレイ

- 「画面に何も表示されない」（→P.135）
- 「表示が乱れる」（→P.136）
- 「画面がくもる、水滴が付く」（→P.136）

□サウンド

- 「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」（→P.137）
- 「マイクからうまく録音ができない」（→P.137）

□ポインティングデバイス

- 「マウスポインターが動かない、正しく動作しない」（→P.138）
- 「入力中にカーソルが勝手に移動する」（→P.138）

□USB

- 「USBデバイスが使えない」（→P.139）
- 「USBデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される」（→P.139）
- 「電源オフUSB充電機能が使えない」（→P.140）

□カメラ

- 「カメラが映らない」（→P.140）

□その他

- 「「ジー」「キーン」という音がする」（→P.140）

8.2.2　起動・終了時のトラブル

電源が入らない

- **ACアダプタは接続されていますか？**
  次のような場合には、ACアダプタを接続してください。
  ・ご購入後最初にお使いになる場合
  ・バッテリー運用時にバッテリーが充電されていない場合
  「3.8.3 バッテリーの残量を確認する」（→P.67）
  ・長期間未使用状態の場合
- **バッテリーの残量を確認してください。**
  バッテリー残量が空の状態で本製品に添付のACアダプタを接続した直後は、電源ボタンを押しても電源が入らない場合があります。
  この場合はバッテリーの残量が1%になると自動的に起動しますので、数十秒から数分、ACアダプタを接続した状態でお待ちください。
- **周辺機器およびACアダプタと内蔵バッテリパックをいったん取り外してください。**
  周辺機器およびACアダプタと内蔵バッテリパックをいったん取り外してください。2～3分放置後、再び取り付けると問題が解決することがあります。
- **長期間（2年以上）未使用状態ではありませんか？**
  バッテリーを長期間使用していないため、過放電を起こしている可能性があります。
  新しいバッテリーと交換してください。または、「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
- **電源スイッチのあるOAタップをお使いの場合、OAタップの電源は入っていますか？**

メッセージが表示された

- **電源を入れた後の自己診断（POST）時に、画面にメッセージが表示される場合があります。「8.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.141）の「■ 起動時に表示されるエラーメッセージ」で該当するメッセージを確認し、記載されている処置に従ってください。**
  一部のメッセージはBIOSイベントログに記録され、BIOSセットアップから確認できます。「8.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.141）の「■ BIOSイベントログ」をご覧ください。
- **本製品にセキュアブートのセキュリティ機能のバイパスの脆弱性対応（※）を行った場合、脆弱なWindowsブートマネージャーの起動ができません。**
  （※）脆弱性対応について詳しくは、ご購入時に添付の『CVE-2023-24932の脆弱性対応について』をご覧ください。

上記の処置をしてもまだエラーメッセージが発生する場合は、本製品が故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。

画面に何も表示されない

- **次のことを確認してください。**
  - ・画面が暗すぎる
    【Fn】＋【F5】キーまたは【Fn】＋【F6】キーを押して明るさを調節してください。

    POINT

    ▶ F Lockランプ（→P.34）が点灯している場合はF Lock機能（→P.32）が有効になっているので、【Fn】キーを押さずに【F5】／【F6】キーを押すだけで明るさを調節できます。

  - ・ディスプレイのバックライトが消灯している
    何かキーを押してください。
  - ・スリープになっている
    電源ボタンを押してください。
  - ・上記の対処で解決しない場合
    電源ボタンを10秒以上押して本製品の電源を切ってください。電源が切れた後、10秒以上待ってから電源を入れてください。なお、保存されていない作業中のデータは失われます。
- **外部ディスプレイを使用している場合、次の項目を確認してください。**
  - ・製品本体の電源を入れる前に、外部ディスプレイの電源を入れていますか？
    必ず製品本体の電源を入れる前にディスプレイの電源を入れてください。
    製品本体の電源を入れた後にディスプレイの電源を入れると、画面が表示されないことがあります。
    そのような場合は、いったん電源を切ってから入れ直してください。
  - ・外部ディスプレイ出力に設定されていませんか？
    外部ディスプレイだけに表示する設定になっていると、製品本体の液晶ディスプレイには表示されません。
    【Fn】＋【F9】キーまたは【■】＋【P】キーを押して、表示先を切り替えてください。
  - ・解像度やリフレッシュレートは、外部ディスプレイにあった設定になっていますか？
    そのまま15秒程度待っても本製品の液晶ディスプレイが表示されない場合は、本製品を強制終了してください。その後、外部ディスプレイのケーブルを外してから電源を入れると、本製品の液晶ディスプレイに表示されます。
    「3.4 マルチディスプレイ機能」（→P.42）をご覧になり、お使いになる外部ディスプレイに合わせた設定値に変更してください。その後、外部ディスプレイの表示に切り替えてください。

起動時にチェックディスクが毎回行われる

- **書込保護機能（Unified Write Filter）により前回のチェック結果が反映されず、繰り返しチェックディスクが実行されています。**
  「1.4.2 書込保護機能の設定／解除」（→P.17）をご覧になり、書込保護機能を「無効」に設定してから、チェックディスクを行ってください。チェックディスクの結果、エラーが確認されなければ書込保護機能を「有効」に設定し、そのままお使いいただけます。
  - ・エラーが確認された場合
    チェックディスクでエラーの修復を試みてください。エラー修復後は、書込保護機能を「有効」に設定し、そのままお使いいただけます。
  - ・エラーが修復されなかった場合
    リカバリを実行してください。リカバリを実行してもエラーが解消されなければ、内蔵フラッシュメモリの故障が考えられますので、診断プログラムでハードウェアに障害が発生していないか確認してください。

Windowsが起動しない

- **Windows起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示された場合は、Windowsが起動するまでそのままお待ちください。**
  Windowsを正常に終了できなかった場合、次回起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示され、Windowsの修復が行われることがあります。修復後は自動的に再起動されます。
- **次の認証デバイスのドライバーをアンインストールしましたか？**
  ・Webカメラ
  ・手のひら静脈センサー
  ・FeliCaポート

  認証デバイスを使用してWindowsにサインインしている場合、その認証デバイスのドライバーをアンインストールするとWindowsが正常に起動できなくなります。
  認証デバイスのドライバーをアンインストールする場合は、「AuthConductor Client Basic」をアンインストールした後で行うようにしてください。
  「AuthConductor Client Basic」のアンインストール方法については、AuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。
  Windowsが正常に起動できなくなった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。

Windowsが動かなくなってしまい、電源が切れない

- **次の手順でWindowsを終了させてください。**
  1. 【Ctrl】＋【Alt】＋【Delete】キーを押し、画面右下の「シャットダウン」アイコンをクリックします。

  この操作で強制終了できないときは、電源ボタンを10秒以上押して電源を切り、10秒以上待ってから電源を入れてください。

  重 要
  - 強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
  - 強制終了した場合は、内蔵フラッシュメモリのチェックをお勧めします。

シャットダウンに時間がかかるなど、本製品の動作が不安定になる

- **本製品でシンクライアントを運用するときは、事前検証を十分に行ったうえで、必要に応じてオーバーレイキャッシュの最大容量を調整してください。**
  オーバーレイキャッシュの最大容量の設定変更方法については、「1.4.3 内蔵フラッシュメモリへの書き込み制御」―「■ オーバーレイ内容を変更する」（→P.22）をご覧ください。

8.2.3 Windows・アプリ関連のトラブル

ここでは、Windows、アプリに関連するトラブルを説明しています。トラブルにあわせてご覧ください。

Windowsにサインインできない

- **認証デバイスを忘れたり、紛失したり、破損したりして、Windowsにサインインできないときは、AuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。**

アプリが動かなくなってしまった

- **「タスクマネージャー」から、動かなくなったアプリを強制終了してください。**

POINT

- アプリを強制終了した場合、アプリでの作業内容を保存することはできません。
- アプリを強制終了した場合は、内蔵フラッシュメモリのチェックをお勧めします。

頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる

- **次の項目を確認してください。**

・Cドライブの空き容量が充分か確認する

Windowsのシステムファイルが格納されているCドライブの空き容量が少ないと、Windowsの動作が不安定になることがあります。Cドライブの空き容量が少ない場合は、空き容量を増やしてください。空き容量を増やすには次の方法があります。

・ごみ箱を空にする
・不要なファイルやアプリを削除する
・ディスクのクリーンアップを行う

・内蔵フラッシュメモリのエラーチェックを行う

それでもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリを実行してください。詳しくは『取扱説明書』をご覧ください。

「このms-*******を開くには新しいアプリが必要です」というメッセージが表示される

- **Windows 11 IoT Enterprise 2024 LTSCの仕様です。**

Windows 11 IoT Enterprise 2024 LTSCでは、本メッセージに対応するアプリを搭載していません。

Windows Updateが完了しない

- **UWFの保護が有効になっていませんか？**
  Windows Updateを実行するときは、UWFの保護を解除して行ってください。
  UWFの保護が有効な状態でWindows Updateを実行すると、UWFのオーバーレイキャッシュを消費して動作が不安定になります。
  また、UWFのオーバーレイキャッシュへの書き込みは内蔵フラッシュメモリに保存されないため、Windows Updateは完了しません。
- **Windows Updateが完了していない状態でUWFの保護を有効にしていませんか？**
  必ずWindows Updateが完了している事を確認してから、UWFの保護を「有効」に設定してください。
  Windows Updateの途中でUWFの保護を有効に設定すると、内蔵フラッシュメモリへの書き込みが行われず、Windows Updateの処理が繰り返し行われます。

UWFの保護が有効な状態でWindows Defenderを使用するには

- **本製品の再起動後にもWindows Defenderの変更を保持できるようにするために、必要なファイルやレジストリの除外をUWFに追加する必要があります。**
  次の手順で、ファイルやレジストリの除外設定をしてください。
  設定の変更は、UWFの保護を無効にして行ってください。

1 **「1.4.3 内蔵フラッシュメモリへの書き込み制御」（→P.18）をご覧になり、次のファイルとレジストリを除外ファイルに追加してください。**

・ファイルの除外

```
C:¥Program Files¥Windows Defender
C:¥ProgramData¥Microsoft¥Windows Defender
C:¥Windows¥WindowsUpdate.log
C:¥Windows¥Temp¥MpCmdRun.log
```

・レジストリの除外

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows Defender
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥WdBoot
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥WdFilter
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥WdNisSvc
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥WdNisDrv
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥WinDefend
```

POINT

▶ 次のサイトも併せてご覧ください。（URLと内容は変更されることがあります）
・UWFで保護されたデバイスでのマルウェア対策サポート
https://learn.microsoft.com/ja-jp/windows-hardware/customize/enterprise/uwf-antimalware-support

2 Windowsが起動しない問題を回避するため、続けて設定を行います。

1. 次のパスを除外レジストリから削除します。
   除外レジストリの削除は、「レジストリの書き込みを制御する」（→P.20）をご覧ください。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥WdFilter
```

2. 次のパスをメモ帳にコピーし、拡張子「.bat」で保存してバッチファイルを作成します。

```
uwfmgr.exe registry commit "HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥WdFilter" DependOnService
uwfmgr.exe registry commit "HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥WdFilter" Description
uwfmgr.exe registry commit "HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥WdFilter" DisplayName
uwfmgr.exe registry commit "HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥WdFilter" ErrorControl
uwfmgr.exe registry commit "HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥WdFilter" Group
uwfmgr.exe registry commit "HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥WdFilter" ImagePath
uwfmgr.exe registry commit "HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥WdFilter" Start
uwfmgr.exe registry commit "HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥WdFilter" SupportedFeatures
uwfmgr.exe registry commit "HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥WdFilter" Type
uwfmgr.exe registry commit "HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥WdFilter¥Instances" DefaultInstance
uwfmgr.exe registry commit "HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥WdFilter¥Instances¥WdFilter Instance" Altitude
uwfmgr.exe registry commit "HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥WdFilter¥Instances¥WdFilter Instance" Flags
uwfmgr.exe registry commit "HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥WdFilter¥Security" Security
```

3. ローカル グループ ポリシー エディターで、作成したバッチファイルをシャットダウン スクリプトに追加します。
   （1）「スタート」ボタンを右クリックして「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
   （2）「gpedit.msc」と入力し、「OK」をクリックします。
   「ローカル グループ ポリシー エディター」が表示されます。
   （3）画面左側で「コンピューターの構成」ー「Windowsの設定」の順にクリックします。
   （4）画面右側で「スクリプト（スタートアップ/シャットダウン）」をダブルクリックします。
   （5）「シャットダウン」をダブルクリックします。
   「シャットダウンのプロパティ」が表示されます。
   （6）「追加」をクリックし、手順2で作成したバッチファイルを選択し、「OK」をクリックします。
   （7）「シャットダウンのプロパティ」で「OK」をクリックし、すべてウィンドウを閉じます。
   （8）本製品を再起動します。

POINT

- 次のサイトも併せてご覧ください。（URLと内容は変更されることがあります）
  - UWFをMicrosoft Defenderから除外した後にWindowsが起動しない
    https://learn.microsoft.com/ja-jp/troubleshoot/windows-client/performance/windows-hangs-on-startup-after-excluding-uwf-from-microsoft-defender

Q 休止が使用できない

- **UWFの仕様により休止は非対応となります。**

Q 仮想メモリが使用できない

- **UWFの仕様により仮想メモリは非対応となります。**

Q 回復が正常に行えない

- **本製品は回復は非対応となります。**
  OSをご購入時の状態に戻す場合は、リカバリを行ってください。

UWF Servicingが使用できない

- UWF Servicingの機能は動作保証外になります。

スクリーンセーバーにUwfServicingScr.scrを設定すると、キー入力やマウス操作で復帰しない

- 【Ctrl】＋【Alt】＋【Del】キーを押し、「キャンセル」をクリックしてください。
  UwfServicingScr.scrは、UWF servicing専用のスクリーンセーバーのため通常の使用ではお使いいただけません。

デバイスドライバーをインストールするメッセージが表示される

- UWFの保護を解除して、メッセージがでるドライバーをインストールしてください。
  インストール後は、UWFの保護を有効に戻してください。

8.2.4 ハードウェア関連のトラブル

■ BIOS

BIOSで設定したパスワードを忘れてしまった

- 管理者用パスワードを忘れると、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。
  ハードディスクパスワードを忘れると、内蔵フラッシュメモリが使えなくなったり、内蔵フラッシュメモリのセキュリティ機能を解除できなくなったりします。
  いずれの場合も修理が必要となります。
  ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。
  詳しくは、「■ パスワードを忘れてしまったら」（→P.106）をご覧ください。

■ LAN

ネットワークに接続できない

- **ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？**
- **ネットワークケーブルに関して、次の項目を確認してください。**
  ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
  ・使用するネットワーク環境に合ったケーブルを使っていますか？
- **「機内モード」が「オフ」、「ワイヤレスデバイス」が「オン」に設定されていますか？**
  「機内モード」が「オン」、または「ワイヤレスデバイス」が「オフ」に設定されていると、電波が発信されません。設定方法については、『無線LANご利用ガイド』をご覧ください。
- **MACアドレスパススルー機能をお使いの場合は、次の項目を確認してください。**
  ・複数のMACアドレスパススルー機能に対応した周辺機器に、接続していませんか？
    ・本機能に対応した周辺機器の同時使用（有線LANの複数接続）はできません。
    ・本機能でネットワークに接続した後に、本機能に対応した他の周辺機器でネットワークに接続できないことがあります。
    同一のDHCPサーバーからIPアドレスを取得する場合、先にDHCPサーバーに接続した周辺機器がIPアドレスを取得しているため、後から接続した周辺機器はIPアドレスを取得できません。
    他の周辺機器から接続したい場合は、先に接続した周辺機器を取り外すことで、IPアドレスを取得できます。

ネットワークの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

通信速度が遅い

- **ネットワーク機器の電源を入れてから本製品の電源を入れてください。また、本製品の使用中にLANケーブルを抜いたり、ネットワーク機器の電源をオフにしたりしないでください。**
  ネットワーク機器との接続ができなくなったり、通信速度が極端に低下したりする場合があります。
  例：1Gbpsで通信していたのに10Mbpsの速度になる
  ネットワーク機器との接続ができない場合は、ネットワーク機器の電源が入っていること、およびLANケーブルで本製品とネットワーク機器が接続されていることを確認後、製品本体を再起動してください。

Q 持ち運ぶと、接続が切断されたり不安定になったりする

- **電波状態によってローミング（※）がうまく行われず、通信が切断されたり不安定になったりすることがあります。**

（※）同じ設定をもった複数のアクセスポイント間の接続を切り替える仕組み。

複数の無線LANアクセスポイントを同じSSID設定で使用している場合、製品の設置場所によってはローミングが頻繁に行われ接続が不安定になることがあります。
この場合は、次の手順でローミングの設定を変更し、頻度を調整してください。

1. 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.9）を表示します。
2. 「システムとセキュリティ」→「システム」の順にクリックします。
3. 「デバイス マネージャー」をクリックします。
   「デバイスマネージャー」が表示されます。
4. 「ネットワーク アダプター」をダブルクリックして、お使いの無線LANデバイスをダブルクリックします。
   デバイス名については、「9.4 無線LAN」（→P.156）をご覧になり、確認してください。
5. 「詳細設定」タブをクリックし、次のプロパティ内の設定を変更します。

プロパティ名	ローミングの積極性	
値 （選択）	最低	ローミングしにくく、現在のアクセスポイントとの接続を維持しようとする
	中	ご購入時の設定
	最高	ローミングしやすく、アクセスポイントの切り替えが発生しやすい

6. 「OK」をクリックします。

Q 電源オフ状態からWoL機能によるレジューム（Wake on LAN）ができない

- **MACアドレスパススルー機能をお使いの場合は、パススルー MACアドレスを使用してのWoL機能は使用できません。**

MACアドレスパススルー機能は、使用しないでください。

Q 周辺機器が持っている（記載される）MACアドレスが異なる

- **BIOSセットアップの「詳細」メニューの「各種設定」→「MACアドレスパススルー」が「使用する」に設定されています。**

上記の設定にすると、本製品が持っているパススルー MACアドレスを使用します。
周辺機器のMACアドレスを使用する場合は、本項目を「使用しない」に設定してください。

■ Bluetoothワイヤレステクノロジー

Bluetoothのキーボードやマウスの接続が切れやすい／Bluetooth機器との接続が安定しない

- **次の手順で設定を変更してください。**
  1. 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.9）を表示します。
  2. 「システムとセキュリティ」→「システム」の順にクリックします。
  3. 「デバイス マネージャー」をクリックします。
     「デバイスマネージャー」が表示されます。
  4. 「Bluetooth」をダブルクリックし、「インテル(R) ワイヤレス Bluetooth(R)」をダブルクリックします。
  5. 「電源の管理」タブをクリックし、「電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」のチェックを外します。
  6. ACアダプタを製品本体から一度取り外し、30秒以上待ってからもう一度ACアダプタを接続します。

Bluetoothデバイスが使用できなくなった

- **「機内モード」の切り替え操作は、充分に間隔をあけて行ってください。**
  Bluetoothデバイスが使用できなくなった場合は、もう一度「機内モード」を「オン」にし、その後間隔をあけてから「機内モード」を「オフ」にしてください。
- **スリープ状態からレジュームした直後に機内モードの操作（設定の切り替え）をすると、Bluetoothの切り替えがうまく動作しないことがあります。しばらく待ってから機内モードの操作を行ってください。**
  機内モードを「オフ」にしてもBluetoothが使えない場合は、Bluetoothの設定を「オン」にしてください。
  1. 「スタート」ボタン→（設定）→「デバイス」→「Bluetoothとデバイス」の順にクリックします。
  2. 「Bluetooth」を「オン」にします。

■ デバイス

機器が使用できない

- **「Systemwalker Desktop Keeper for Standalone」の［デバイス種別ごとの使用禁止設定］は、有効になっていますか？**
  次の機器を搭載した機種では、情報漏えいや不正プログラムの導入を防ぐために、「Systemwalker Desktop Keeper for Standalone」を使用してデバイスの使用を制限している場合があります。
  システム管理者に確認してください。
  ・USB（Webカメラなど一部利用可能）
- **仮想環境によっては使用できないデバイスがあります。**
  仮想環境のサポートにお問い合わせください。

■ バッテリー

状態表示LEDのバッテリーステータスランプが赤色に短い間隔で点滅している

- **バッテリーは正しく取り付けられていますか？**
  バッテリーが正しく充電できないことを示します。製品本体の電源を切ってからバッテリーの取り付けをやり直してください。それでも赤色に点滅している場合はバッテリーが異常です。新しいバッテリーと交換してください。バッテリパックの交換については、「3.7 バッテリ」（→P.55）をご覧ください。

バッテリーが充電されない

- **ACアダプタは接続されていますか？**
  ACアダプタを接続している場合は、コンセントおよび製品本体に正しく接続されているか確認してください。
- **バッテリーが熱くなっていませんか？**
  バッテリーステータスランプが点滅します。
  周囲の温度が高いときや使用中にバッテリーの温度が上昇すると、バッテリーの保護機能が働いて、充電を中止することがあります。
- **製品本体が冷えていませんか？**
  バッテリーステータスランプが点滅します。
  バッテリーの温度が5℃以下になっていると、バッテリーの保護機能が働いて、充電を中止することがあります。
- **バッテリーの残量が90%以上（80%充電モードの場合は70%以上）ではありませんか？**
  バッテリーの残量が90%以上（80%充電モードの場合は70%以上）の場合は、バッテリーを保護するため、充電が始まりません。
  バッテリーの残量が少なくなると自動的に充電が始まります。
- **ご購入直後や修理直後、また長期間（約1ヶ月以上）未使用状態ではありませんか？**
  このような場合には、バッテリー運用ができないことやバッテリー残量が正しく表示されないことがあります。
  バッテリーを満充電にしてから本製品を使用してください。
  バッテリー充電時間の目安については、「9.1 本体仕様」（→P.147）をご覧ください。

■ ディスプレイ

画面に何も表示されない

- **「8.2.2 起動・終了時のトラブル」（→P.125）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。**
- **省電力状態になっていませんか？**
  本製品には省電力機能が設定されており、一定時間入力がないと省電力状態に移行します。
  詳しくは「3.7 省電力」（→P.57）をご覧ください。
- **仮想環境のみで発生する場合は、仮想環境の設定に問題がある可能性があります。**
  仮想環境のサポートにお問い合わせください。

表示が乱れる

- **解像度、発色数、リフレッシュレートが正しく設定されていますか？**
  「3.3.3 解像度を変更する」（→P.41）をご覧になり、正しく設定してください。
  外部ディスプレイの場合は、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- **アプリを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。**
  1. アプリを最小化します。
  2. 最小化したアプリを元のサイズに戻します。

  POINT

  ▸ 次のような場合に表示が乱れることがありますが、動作上は問題ありません。
  - Windows起動時および画面の切り替え時
  - DirectXを使用した一部のアプリ使用時

- **近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありませんか？**
  強い磁界が発生するものは、ディスプレイや製品本体から離して置いてください。
- **仮想環境のみで発生する場合は、仮想環境の設定に問題がある可能性があります。**
  仮想環境のサポートにお問い合わせください。

画面がくもる、水滴が付く

- **急激な温度・湿度変化で結露が発生することがあります。**
  結露が発生した場合は、電源を切り、風通りの良い場所に設置し、結露が乾いた後にお使いください。
  設置場所については『取扱説明書』をご覧ください。

■ サウンド

Q スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- **内蔵スピーカーに関して、次の項目を確認してください。**
  ・スピーカーの出力はONになっていますか？
  スピーカーの出力を確認してください。
  ・マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？
- **外付けスピーカーに関して、次の項目を確認してください。**
  ・製品本体と正しく接続されていますか？
  ・スピーカーの電源ケーブルは接続されていますか？
  ・スピーカーの電源ボタンは入っていますか？
  ・音量ボリュームは正しく調節されていますか？
  ・マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？
- **ミュートや音量などを確認してください。**
  詳しくは、「3.6 サウンド」（→P.47）をご覧ください。
- **音が割れる場合は、音量を小さくしてください。**
- **オーディオ端子の機能が正しく設定されていますか？**
  「3.6.4 オーディオ端子の機能を切り替える」（→P.49）をご覧になり、オーディオ端子の機能を正しく切り替えてください。

Q マイクからうまく録音ができない

- **音量は調節されていますか？**
  音量を設定するウィンドウで録音の項目を有効にし、音量を調節してください。詳しくは、「3.6 サウンド」（→P.47）をご覧ください。
- **オーディオ端子の機能が正しく設定されていますか？**
  「3.6.4 オーディオ端子の機能を切り替える」（→P.49）をご覧になり、オーディオ端子の機能を正しく切り替えてください。
- **仮想環境側の問題もあるので、サーバー側の設定を確認してください。**

■ ポインティングデバイス

Q マウスポインターが動かない、正しく動作しない

□フラットポイント

- **フラットポイントが無効に設定されていませんか？**
  フラットポイントの有効と無効を切り替えるには、【Fn】＋【F3】キーを押してください。
  【Fn】＋【F3】キーを押すたびに切り替わります。
  また、マウスとフラットポイントを同時に使用したい場合は、「3.1.4 フラットポイントの有効／無効を切り替える」（→P.38）をご覧になり、設定を変更してください。

  POINT

  ▸ F Lockランプ（→P.34）が点灯している場合はF Lock機能（→P.32）が有効になっているので、【Fn】キーを押さずに【F3】キーを押すだけで切り替わります。

- **手のひらや袖口がフラットポイントに触れていませんか？**
  フラットポイントから手のひらや袖口を十分に離してください。
  それでも正しく動作しない場合は、フラットポイントの設定を変更することで改善することがあります。
  フラットポイントの設定方法については「3.1.3 フラットポイントの設定を変更する」（→P.37）をご覧ください。

□マウス

- **マウスは正しく接続されていますか？**
  ・電源を切らずにマウスのUSBコネクタを一度抜き、接続し直してください。
- **オプティカルセンサー部分が汚れていませんか？**
  ・オプティカルセンサー部分をクリーニングしてください。
- **次のようなものの上で操作していませんか？**
  ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
  ・光沢のあるもの
  ・濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
  ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの

Q 入力中にカーソルが勝手に移動する

- **手のひらや袖口がフラットポイントに触れていませんか？**
  フラットポイントから手のひらや袖口を十分に離してください。
  それでも正しく動作しない場合は、フラットポイントの設定を変更することで改善することがあります。
  フラットポイントの設定方法については「3.1.3 フラットポイントの設定を変更する」（→P.37）をご覧ください。

■ USB

Q USBデバイスが使えない

- **ケーブルは正しく接続されていますか？**
- **USBデバイスがUSBハブを経由して接続されていませんか？**
  USBハブを経由すると問題が発生する場合があります。USBデバイスを本体のUSBコネクタに直接接続してみてください。
- **USBデバイスに不具合はありませんか？**
  USBデバイスに不具合がある場合、Windowsが正常に動作しなくなることがあります。
  製品を再起動して、USBデバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USBデバイスのご購入元にご連絡ください。
- **「Systemwalker Desktop Keeper for Standalone」の［デバイス種別ごとの使用禁止設定］は、有効になっていますか？（→P.134）**
- **対応していないUSBデバイスを接続していませんか？**
  USBコネクタには、対応した規格のUSBデバイスの接続をお勧めします。
  お使いの機種のUSBコネクタの仕様については、「9.1 本体仕様」（→P.147）をご覧ください。
- **長いUSBケーブルを使用していませんか？**
  長いUSBケーブルを使用してUSBデバイスを接続した場合、USBデバイスが正常に動作しないことがあります。
  この場合は、USB準拠の短いケーブルをお試しください。
- **仮想環境の設定によっては、使用できないUSBデバイスがあります。**
  仮想環境のサポートにお問い合わせください。

Q USBデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される

- **デバイスドライバーに問題はありませんか？インストールされていますか？**
  必要なドライバーをインストールしてください。
- **「Systemwalker Desktop Keeper for Standalone」の［デバイス種別ごとの使用禁止設定］は、有効になっていますか？（→P.134）**
- **仮想環境の設定によっては、使用できないUSBデバイスがあります。**
  仮想環境のサポートにお問い合わせください。

Q 電源オフUSB充電機能が使えない

対 象 USB Type-Cコネクタ

- **電源オフUSB充電機能を無効にしていませんか？**
  電源オフUSB充電機能の設定変更はBIOSセットアップで行います。設定変更の方法については、「6.3.6 電源オフUSB充電機能の設定を変更する」（→P.109）をご覧ください。
- **バッテリー残量が12%以下になっていませんか？**
  バッテリーステータスランプでバッテリーの残量を確認し、バッテリー残量が12%以下の場合は、ACアダプタを接続してください。
  バッテリー残量の確認方法については、「3.8.3 バッテリーの残量を確認する」（→P.67）をご覧ください。
- **周辺機器によっては、電源オフUSB充電を使用できない場合があります。USBデバイスのご購入元にご連絡ください。**

■ カメラ

Q カメラが映らない

- **プライバシーカメラシャッターが閉じていませんか？**
  プライバシーカメラシャッターが閉じている場合は、シャッターを左に動かして開けてください。
- **「Systemwalker Desktop Keeper for Standalone」の［デバイス種別ごとの使用禁止設定］は、有効になっていますか？（→P.134）**

■ その他

Q 「ジー」「キーン」という音がする

- **静かな場所では、「ジー」「キーン」という製品本体内部の電子回路の動作音が聞こえる場合があります。**
  故障ではありませんので、そのままお使いください。
  BIOSセットアップの「詳細」メニューの「各種設定」に「ハードウェア省電力機能」が表示されている機種の場合、「ハードウェア省電力機能」配下にある項目の設定を変更すると、音の聞こえ方が変わる場合があります。

8.2.5 エラーメッセージ一覧

ここでは、本製品が表示するメッセージと、その対処方法を説明しています。
エラーメッセージ一覧には、お使いの製品に搭載されているハードウェアによっては、表示されないメッセージも含まれています。
本書に記載されていないエラーメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。

■ 起動時に表示されるエラーメッセージ

起動時の自己診断（POST）で異常がみつかった場合に表示されるメッセージは、次のとおりです。
BIOSセットアップメニューについては、『BIOSセットアップメニュー 一覧』をご覧ください。

メッセージ	解説
記号	
＜F1＞キーを押すと継続、＜F2＞キーを押すとBIOSセットアップを起動します。	起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OSを起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】キーを押すと発生しているエラーを無視してOSの起動を開始し、【F2】キーを押すとBIOSセットアップを起動して設定を変更できます。
N	
NVRAMデータが正しくありません。	NVRAMデータのテストでエラーが発見されたことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。
P	
PXE-T01:File not found	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動設定」→「ネットワーク起動」を、「使用しない」に設定してください。
PXE-E32:TFTP open timeout	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動設定」→「ネットワーク起動」を、「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。
PXE-E51: No DHCP or proxyDHCP offers were received	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動設定」→「ネットワーク起動」を、「使用しない」に設定してください。
PXE-E53:No boot filename received	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動設定」→「ネットワーク起動」を、「使用しない」に設定してください。
PXE-E61:Media test failure, Check cable	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。LANケーブルが正しく接続されていません。LANケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。
PXE-E78:Could not locate boot server	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ブートサーバーがないか、正しく動作していません。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動設定」→「ネットワーク起動」を、「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。
PXE-E89:Could not download boot image	Preboot Execution Environment実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「起動設定」→「ネットワーク起動」を、「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。
か	
起動可能なデバイスが見つかりませんでした。	OSがみつからなかった場合に表示されます。 BIOSセットアップでドライブが正しく設定されているか確認してください。

メッセージ	解説
さ	
システムは使用できません。	BIOSパスワードまたはBIOS生体認証に失敗した場合に表示されます。 この場合、電源ボタンを長押しして製品の電源を切ってください。
セキュアブートに失敗しました。 **アクセス拒否**	セキュアブートに対応していないOSから起動しようとしたときに表示されます。
前回の起動中にファンエラーが発生しました。	前回の起動時にファンエラーが発生したことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。
選択したデバイスから起動できませんでした。	起動メニューで選択された起動デバイスから、起動できなかった場合に表示されます。
は	
ファンエラー。システムの電源が切れます。	冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。 「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。
ら	
リアルタイムクロックのエラーです。 日付と時刻の設定を確認してください。	リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。 日付と時刻を確認し、電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。

■ BIOSイベントログ

起動時の自己診断（POST）で、一部のエラーはBIOSイベントログに記録されます。
BIOSイベントログは、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「イベントログ設定」の「イベントログの表示」から確認できます。
BIOSセットアップメニューについては、『BIOSセットアップメニュー 一覧』をご覧ください。
BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージは、次のとおりです。

メッセージ	解説
A	
ACアダプタ無しで起動されました	ACアダプタなしで起動されました。
B	
BIOSが更新されました (版数 xxxx)	システムBIOSが（版数 xxxx）に更新されました。
E	
ECが更新されました (版数 xxxx)	ECファームウェアが（版数 xxxx）に更新されました。
I	
Intel(R) Management Engineのデータを復旧しました	Intel(R) Management Engineのデータが破損し、バックアップデータにより復旧しました。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
Intel(R) Management Engineを復旧しました	Intel(R) Management Engineファームウェアが破損し、バックアップデータにより復旧しました。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」まで。
M	
MEが更新されました (版数 xxxx)	Intel(R) Management Engineファームウェアが（版数 xxxx）に更新されました。
P	
POSTエラー：NVRAMを復旧した	フラッシュメモリのデータが破損し、バックアップデータにより復旧しました。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POSTエラー：NVRAMを復旧した （ヘッダー情報）	
POSTエラー：xxxxxxxx xxxxxxxx	xには数字が表示されます。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
POST中にカバーが閉じられた状態で10分間経ったため終了しました	製品が高温状態にならないように自動で電源断が実行されました。
POSTエラー：日付/時刻不正	日付、時刻が正しく設定されていません。 「システム時刻」「システム日付」の設定を確認してください。
あ	
イベントログが空です	イベントログに何も記録されていません。
イベントログがクリアされた	イベントログがクリアされました。
か	
強制終了が実行されました	強制終了が実行されました。
さ	
システムBIOSを復旧しました	システムBIOS破損し、バックアップデータにより復旧しました。 なお繰り返しこのエラーが記録される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
システム設定が変更された	システム設定が変更されました。
診断プログラムが異常を検出 （詳細コード＝xxxxxxxx）	診断プログラム実行結果でエラーを検出しました。

メッセージ	解説
は	
パスワードが設定/変更された（ドライブ0）	ドライブ0のパスワードが設定または変更されました。
パスワード設定/変更エラー（ドライブ0）	ドライブ0のパスワードの設定または変更に失敗しました。
パスワード入力不正	誤ったパスワードが3回入力されました。
ま	
メモリ容量が前回起動時から変更された	メモリ容量が前回起動時から変更されました。

8.3 それでも解決できないときは

8.3.1 お問い合わせ先

■ 弊社へのお問い合わせ

故障かなと思われたときや、技術的なご質問・ご相談などについては、『取扱説明書』をご覧になり、弊社までお問い合わせください。

9

第9章

仕様

本製品の仕様を記載しています。

9.1 本体仕様 147
9.2 CPU 153
9.3 ディスプレイ 154
9.4 無線LAN 156

9.1 本体仕様

お使いのモデルの仕様一覧をご確認ください。
また、次の対応表でお使いの機種に搭載されているCPUと対応した列をご確認ください。

CPU名称	仕様一覧表の表記
インテル® Core™ 5 プロセッサー 220U	Core 5 220U
インテル® Core™ 3 プロセッサー 100U	Core 3 100U

9.1.1 LIFEBOOK A5515-TC

LIFEBOOK A5515-TC[注1]				
対応CPU			Core 5 220U	Core 3 100U
CPU[注2]	動作周波数	Pコア[注3]	最大5.00GHz	最大4.70GHz
		Eコア[注4]	最大3.80GHz	最大3.30GHz
	コア数		10（Pコア：2／Eコア：8）	6（Pコア：2／Eコア：4）
	スレッド数		12	8
	キャッシュメモリ（3次）		12MB	10MB
チップセット			CPUと一体	
メインメモリ[注5]			標準8GB（8GB×1）（PC5-5200（DDR5-5200））[注6]／最大32GB[注7]	
メモリスロット			×2（空きメモリスロット×1）[注8]	
表示機能				
グラフィックスアクセラレータ			Intel® Graphics（CPUに内蔵）	
ビデオメモリ			メインメモリと共用	
液晶ディスプレイ[注9][注10]			LEDバックライト付15.6型ワイドTFTカラー	
解像度／発色数[注11]				
	液晶ディスプレイ表示		HD（1366×768ドット／1677万色）／ フルHD（1920×1080ドット／1677万色）	
	外部ディスプレイ表示		アナログ：最大1920×1200ドット／最大1677万色 HDMI：最大4096×2160ドット／最大1677万色 USB Type-C：最大3840×2160ドット／最大1677万色	
DirectX			12.1	
OpenGL			4.6	
ストレージ[注12][注13]			暗号化機能付フラッシュメモリ（DRAM-less SSD/PCIe NVMe）256GB[注14]	
オーディオ機能				
オーディオコントローラー			チップセット内蔵＋High Definition Audioコーデック	
PCM録音再生機能			サンプリング周波数：最大192kHz、24ビットステレオ（再生時）[注15] サンプリング周波数：最大96kHz、16ビットステレオ（録音時）[注15] 同時録音再生機能	
MIDI再生機能			OS標準機能にてサポート	
スピーカー			ステレオスピーカー	
マイク			デジタルステレオマイク	
Webカメラ			有効画素数約207万画素	
キーボード			日本語アイソレーションキーボード （キーピッチ約18.4mm、キーストローク約2.5mm、106キー、JIS配列準拠）	
ポインティングデバイス[注16]			フラットポイント	
通信機能[注17]				
LAN			1000BASE-T／100BASE-TX／10BASE-T準拠[注18]、Wake on LAN対応[注19]	
無線LAN		規格[注20]	IEEE 802.11a/b/g/n/ac/ax準拠（W52/W53/W56/6L）[注21] （Wi-Fi® 準拠[注22]）（Wi-Fi CERTIFIED 6™ 準拠）（MU-MIMO対応）	
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式[注23]	
Bluetoothワイヤレステクノロジー[注24]			Bluetooth v5.4準拠	
セキュリティ機能				
手のひら静脈センサー[注25]			あり	
FeliCaポート[注25]			あり	
セキュリティチップ（TPM）			TCG Ver 2.0準拠[注26]	
盗難防止用ロック取り付け穴			あり	

LIFEBOOK A5515-TC[注1]				
対応CPU			Core 5 220U	Core 3 100U
インターフェース				
	アナログディスプレイ		アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1	
	HDMI[注27]		HDMI出力×1	
	USB[注28][注29]			
		Type-A	USB 3.2（Gen1）	×3（右側面×1、左側面×2）
		Type-C[注30]	USB 3.2（Gen2）[注31]	×1（左側面）（DisplayPort Alternate Mode対応[注32]、電源オフUSB充電機能付き）
	LAN		RJ-45×1	
	オーディオ			
		マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用[注33]	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1	
	状態表示		LED	
電源供給方式				
	ACアダプタ[注34]		入力AC100V～240V、出力DC20V（3.25A）	
	内蔵バッテリパック		リチウムイオン 24Wh（標準）／リチウムイオン 72Wh（大容量）[注35]	
バッテリー駆動時間[注36][注37]（JEITA3.0測定法[注38]）				
	標準バッテリー		動画再生時：約1.5時間／アイドル時：約3.0時間	
	大容量バッテリー[注35]		動画再生時：約6.0時間／アイドル時：約10.0時間	
バッテリー充電時間[注39]			約2.5時間（標準）／約3.2時間（大容量）	
消費電力[注40]				
	標準値（ACアダプタ接続時）		約5.4W	約5.3W
	最大時	本体のみ	約65W	
		ACアダプタ接続時	約74W	
	電源オフ時		約0.2W以下	
外形寸法（突起部含まず）			W 368×D 250×H 23.9～31.5 mm	
質量[注41]			約1.85 kg（標準）／約2.00 kg（大容量）	
電波障害対策			VCCIクラスB	
国際エネルギースタープログラム[注42]			対応[注43]	
温湿度条件			温度5～35℃／湿度20～80%RH（動作時） 温度－10～60℃／湿度20～80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）	
プリインストールOS[注44]			Windows 11 IoT Enterprise LTSC 2024[注45]	
ボリュームライセンスOS[注44][注46][注47]				
	サポートOS（BIOS／ドライバー提供含む）[注49]		Windows 11 Enterprise LTSC 2024[注48][注50]／Windows 10 Enterprise LTSC 2021[注48][注51]	
	BIOS／ドライバー提供OS[注52]		Windows 11 IoT Enterprise LTSC 2024[注53]／Windows 10 IoT Enterprise 2021 LTSC[注53]	

本製品の仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注1 ：シンクライアントの運用は通常のパソコンとは大きく異なります。導入の際は必ず事前検証のうえ、運用を含めた検討をお願いします。
注2 ：・アプリによっては、CPU名表記が異なる場合があります。
・本製品に搭載されているCPUで使用できる主な機能については、「9.2 CPU」（→P.153）をご覧ください。
注3 ：・Performance-core。高性能CPUコアで処理能力を向上します。
・搭載されるCPUの仕様であり、シングルコア動作時の瞬間的な最大周波数となります。連続してこの動作周波数で動作するわけではありません。
注4 ：・Efficient-core。高効率CPUコアで低消費電力に貢献します。
・搭載されるCPUの仕様であり、シングルコア動作時の瞬間的な最大周波数となります。連続してこの動作周波数で動作するわけではありません。
注5 ：メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。その容量は搭載されるメインメモリの容量により変動します。
注6 ：カスタムメイドの選択によって、次の容量のメモリが搭載されています。
・32GB（16GB×2）
・16GB（16GB×1）
注7 ：メモリの増設時は、場合によりすでに搭載されているメモリを取り外す必要があります。
注8 ：カスタムメイドの選択によっては、空きメモリスロットがない場合もあります。
注9 ：本製品を使用する場合、液晶ディスプレイを開く角度を約45～135度の間で使用してください。
注10：以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
・製造工程上やご利用環境によって空気中の微細な異物が混入する場合があります。
・本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
・長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらくすると消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。省電力機能などを利用して、自動的にディスプレイの電源を切る設定は、「電源オプション」ウィンドウ左の「コンピューターがスリープ状態になる時間を変更」から行えます。
・表示する条件によってはムラおよび微少なはん点が目立つことがあります。
注11：・グラフィックスアクセラレータが出力する最大発色数は1677万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。
・外部ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。
注12：容量は、1GB=1000^3バイト換算値です。
注13：・本製品は、仮想環境に接続して使用することを前提としています。
通常のパソコンのようにOfficeなどのアプリをインストールし、仮想環境を利用しない動作を保証するものではありません。
・すべてのOSの更新プログラム（Quality Update）に対し、必要な容量を保証するものではありません。
本製品に対しOSの更新プログラムの適用については、お客様のセキュリティポリシーに従ってください。
注14：カスタムメイドの選択によって、次のストレージが搭載されています。
・暗号化機能付フラッシュメモリ（DRAM-less SSD/PCIe NVMe）512GB
注15：使用できるサンプリングレートは、アプリによって異なります。
注16：カスタムメイドの選択によっては、USBマウス（光学式／レーザー式）が添付されています。
注17：仮想環境へリダイレクトしての使用は、サポートしていません。
注18：・1000Mbpsは1000BASE-Tの理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
・1000Mbpsの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したハブが必要となります。また、LANケーブルには、1000BASE-Tに対応したエンハンスドカテゴリー 5（カテゴリー 5E）以上のLANケーブルを使用してください。
注19：・1000Mbpsのネットワーク速度しかサポートしていないハブでは、Wake on LAN機能は使用できません。
・Wake on LAN機能を使用する場合は、次の両方でリンク速度とデュプレックス共に自動検出可能な設定（オートネゴシエーション）にしてください。
- 本製品の有線LANインターフェース
- 本製品の有線LANインターフェースと接続するハブのポート
この両方が自動検出可能な設定になっていない場合、本製品が省電力状態や電源オフ状態のときにハブやポートをつなぎ変えたり、ポートの設定を変えたりするとWake on LAN機能が動作しない場合があります。
・Wake on LAN機能を有効に設定している場合、消費電力が増加するためバッテリーの駆動時間が短くなります。Wake on LAN機能を使用する場合は、ACアダプタを接続することをお勧めします。
・電源オフ状態からのWake on LAN機能を使用するには、『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」―「Wake on LANを有効にする」をご覧ください。
・スリープの状態からWake on LAN（Magic Packet）でのレジュームはできません。スリープの状態からUWPアプリやリモートデスクトップアプリによるレジュームは可能です。
Windows10の場合、上記に加え休止状態からWake on LAN（Magic Packet）でのレジュームはできません。
注20：無線LANの仕様については、「9.4 無線LAN」（→P.156）をご覧ください。
注21：6LはIEEE 802.11axのみ利用可能です。
注22：Wi-Fi® 準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示しています。
注23：IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠またはIEEE 802.11ax準拠を使用したときは、MIMO方式にもなります。
注24：すべてのBluetoothワイヤレステクノロジー対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
注25：カスタムメイドの選択によって搭載されています。
注26：すべてのソリューションの動作保証をするものではありません。必ず事前検証をお願いします。
注27：・HDMI端子のあるすべてのディスプレイへの表示を保証するものではありません。
・市販のテレビとの連動機能はありません。
注28：・すべての対応機器の動作を保証するものではありません。
・長いUSBケーブルを使用してUSBデバイスを接続した場合、USBデバイスが正常に動作しないことがあります。この場合は、USB準拠の短いケーブルをお試しください。

注29 ： 外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は次のとおりです。詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。
・ USB 3.2（Gen2）Type-Cは、1ポートにつき1.5A
・ USB 3.2（Gen1）Type-Aは、1ポートにつき900mA

注30 ： ・ 接続したUSB対応機器の転送速度（理論値）は次のとおりです。
- USB 3.2（Gen2）対応機器：最大10Gbps
- USB 3.2（Gen1）対応機器：最大5Gbps
- USB 2.0対応機器：最大480Mbps

・ USB Power Deliveryに対応しています。
・ 映像出力に対応しています。

注31 ： ・ 7.5W（5V/1.5A）以上を供給可能なUSB Power Delivery対応機器であれば、製品本体に充電できます。
製品を使用しながら充電する場合は、60W（20V/3A）以上を供給可能な機器が必要となります。
・ すべての対応機器の動作を保証するものではありません。状況によっては消費電力が、給電速度を上回ることがあります。

注32 ： すべてのDisplayPortの動作を保証するものではありません。

注33 ： ご購入時はヘッドホンまたはヘッドセットに設定されています。
設定の変更は「3.6.4 オーディオ端子の機能を切り替える」（→P.49）をご覧ください。

注34 ： 矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用DC/AC電源など）に接続されると故障する場合があります。

注35 ： カスタムメイドの選択により、内蔵バッテリパック（標準）を内蔵バッテリパック（大容量）に変更できます。

注36 ： バッテリー駆動時間は、ご利用状況やカスタムメイド構成によっては記載時間と異なる場合があります。

注37 ： BIOSセットアップの「詳細」メニュー→「各種設定」→「ハードウェア省電力機能」を「使用する」に設定した場合のバッテリー駆動時間です。

注38 ： 一般社団法人電子情報技術産業協会の「JEITAバッテリ動作時間測定法（Ver.3.0）」（https://home.jeita.or.jp/pc_tablet/guideline/battery.html）に基づいて測定。

注39 ： ・ 電源オフ時。装置の動作状況により充電時間が長くなることがあります。
・ バッテリーユーティリティで「80%充電モード」に設定した場合の充電時間は異なります。

注40 ： ・ 当社測定基準によります（標準搭載メモリ、標準内蔵フラッシュメモリ容量、LCD輝度最小）。
・ 電源オフ時の消費電力は、約0.2W以下（満充電時）です。
電源オフ時の消費電力を0にするには、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。

注41 ： 平均値のため、お使いの製品で質量が異なる場合があります。

注42 ：「国際エネルギースタープログラム」は、長時間電源を入れた状態になりがちなオフィス機器の消費電力を削減するための制度です。

注43 ： 当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



注44 ： 日本語 64ビット版。

注45 ： バージョン情報には、「Windows 11 IoT Enterprise LTSC」と表示されます。
次の方法で確認できます。
：・「スタート」ボタン→「設定」→「システム」の順にクリックし、「バージョン情報」をクリックします。

注46 ： ・ 弊社は、本製品で「サポートOS」と「BIOS／ドライバー提供OS」を動作させるために必要なBIOSおよびドライバーを提供しますが、すべての機能を保証するものではありません。また、BIOS／ドライバー提供ベンダーのサポートポリシー変更によりBIOS／ドライバーの提供に制限が発生する場合があります。
・ サポートOSに関する最新の情報については、「OS関連情報」のページ（https://www.fmworld.net/biz/fmv/support/os/）をご覧ください。

注47 ： ・ Windowsを新規にインストールする場合は、『製品ガイド（共通編）』の「付録2 Windowsの新規インストールについて」をご覧ください。
・ 保護管理ツールについては単品での提供をしておりません。ボリュームライセンスOSをインストールする場合は、コマンドラインツールでUWFを設定してください。

注48 ： Microsoft社とのボリュームライセンス契約が必須となります。OSおよびBIOS／ドライバーのサポートについては、SupportDesk契約をご検討ください。

注49 ： OSのサポートも含めて、弊社が対応可能です。OSおよびBIOS／ドライバーのサポートについては、SupportDesk契約をご検討ください。

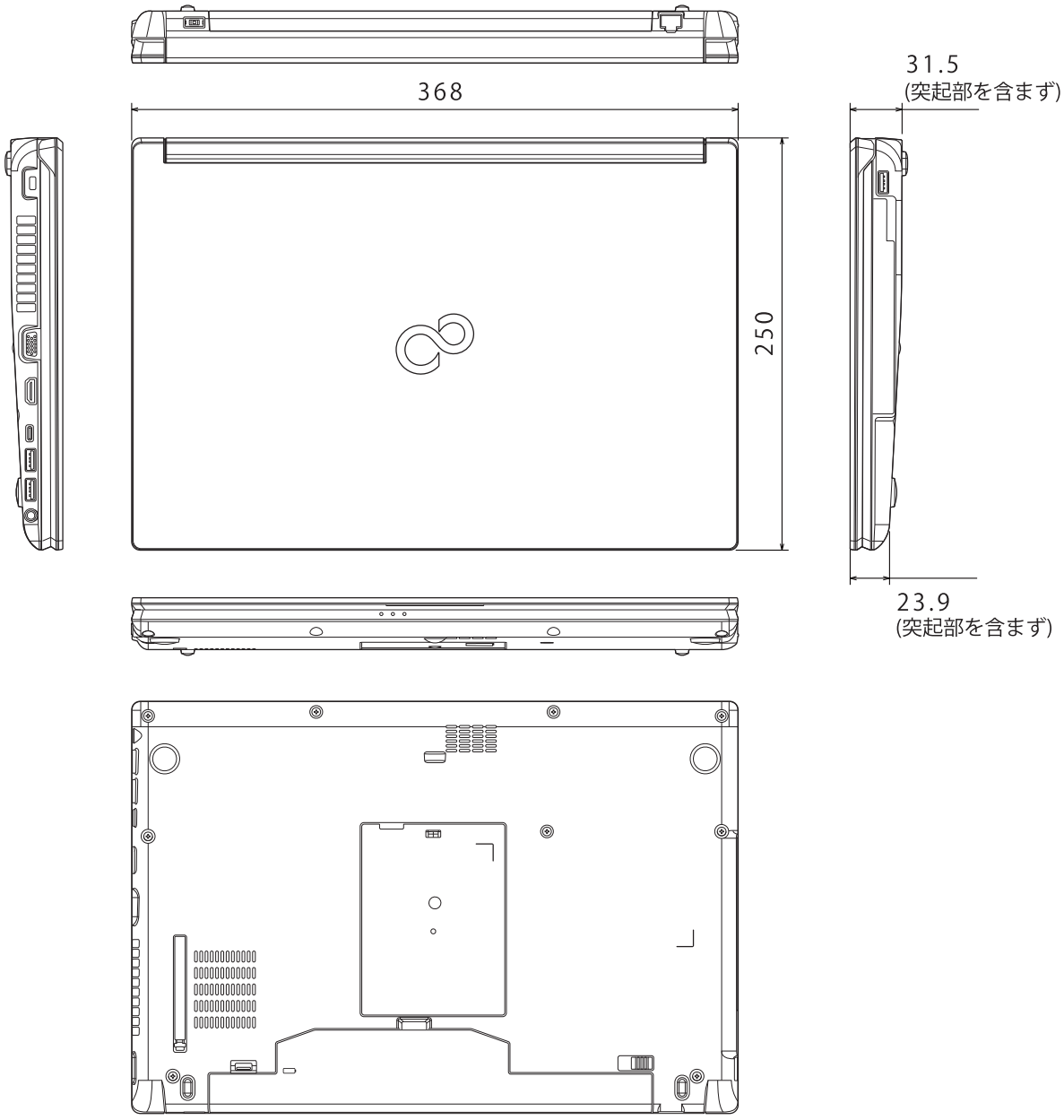
注50 ： Windows 11 Enterprise LTSC 2024のサポートには延長サポートはなく、メインストリームサポートのみになり、2029年10月9日で終了となりますのでご注意ください。詳しくはMicrosoft社のホームページ（https://learn.microsoft.com/ja-jp/lifecycle/products/）をご覧ください。

注51 ： Windows 10 Enterprise LTSC 2021のサポートには延長サポートはなく、メインストリームサポートのみになり、2027年1月12日で終了となりますのでご注意ください。詳しくはMicrosoft社のホームページ（https://learn.microsoft.com/ja-jp/lifecycle/products/）をご覧ください。

注52 ： BIOS／ドライバー提供はしますが、弊社ではOSのサポートはできません。OSのサポートについてはMicrosoft社の有償サポート契約が必要です。BIOS／ドライバーのサポートについては、SupportDesk契約をご検討ください。

注53 ： Microsoft社とのボリュームライセンス契約が必須となり、OSのサポートについてはMicrosoft社の有償サポート契約が必要です。
BIOS／ドライバーのサポートについては、SupportDesk契約をご検討ください。

9.1.2 六面図



9.2 CPU

本製品に搭載されているCPUで使用できる主な機能は、次のとおりです。

■ インテル(R) ハイパースレッディング ・ テクノロジー

インテル® ハイパースレッディング・テクノロジーは、OS上で物理的な1つのCPUコアを仮想的に2つのCPUのように見せることにより、1つのCPUコア内でプログラムの処理を同時に実行し、CPUの処理性能を向上させる機能です。複数のアプリを同時に使っている場合でも、処理をスムーズに行うことが可能です。
この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。『BIOSセットアップメニュー 一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

POINT

- OSおよびアプリの動作状況や設置環境などにより処理能力量は変わります。性能向上量は保証できません。

■ インテル(R) バーチャライゼーション ・ テクノロジー

インテル® バーチャライゼーション・テクノロジーは、本機能をサポートするVMM（仮想マ シンモニター）をインストールすることによって、仮想マシンの性能と安全性を向上させるための機能です。
この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。
『BIOSセットアップメニュー 一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

■ エグゼキュート ・ ディスエーブル ・ ビット機能

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能は、Windowsのデータ実行防止（DEP）機能と連動し、悪意のあるプログラムが不正なメモリ領域を使用すること（バッファー・オーバーフロー脆弱性）を防ぎます。
データ実行防止（DEP）機能がウイルスやその他の脅威を検出した場合、「[アプリ名称] は動作を停止しました」という画面が表示されます。「プログラムの終了」をクリックし、表示される対処方法に従ってください。

9.3 ディスプレイ

9.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度

製品本体の液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイでの「シングル表示」、複数のディスプレイを使った「拡張デスクトップ表示」にしたときに、本製品が出力可能な解像度です。
「拡張デスクトップ表示」にする場合は各ディスプレイごとに解像度を設定できます。

POINT

- お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
  発色数は「32ビット」（約1677万色）です。
- お使いのOSやディスプレイにより、表に記載のない解像度も選択可能な場合があります。

■ 製品本体の液晶ディスプレイ

お使いの製品本体の液晶ディスプレイ欄をご覧ください。

解像度	フルHD	HD
1024×768	○	○
1280×720	○	○
1280×800	○	−
1280×1024	○	−
1360×768	○	○
1366×768	○	○
1440×900	○	−
1600×900	○	−
1680×1050	○	−
1920×1080	○	−

■ 外部ディスプレイ※

※）アナログ接続／HDMI接続／USB Type-C接続

解像度	リフレッシュレート（Hz）
1024×768	85[注1]／75[注1]／70[注1]／60
1280×720	60
1280×800	60
1280×1024	85[注1]／75[注1]／60
1360×768	60
1366×768	60
1440×900	60
1600×900	60
1600×1200	60
1680×1050	60
1920×1080	60
1920×1200	60
1920×1440[注2]	60
2560×1440[注2]	60
2560×1600[注2]	60
3840×2160[注2]	60
4096×2160[注3]	60

注1：アナログディスプレイコネクタを使用する場合に設定可能
注2：HDMI出力端子／USB Type-Cコネクタを使用する場合に表示可能
注3：HDMI出力端子を使用する場合に表示可能

9.3.2 クローン表示の解像度

「クローン表示」にする場合に設定可能な解像度は、お使いの外部ディスプレイが対応している解像度により異なります。
製品本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイが対応しているそれぞれの最大解像度のうち、小さいほうの解像度が「クローン表示」で設定できる最大解像度になります。

POINT

- お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
  発色数は「32ビット」（約1677万色）です。
- お使いのOSやディスプレイにより、表に記載のない解像度も選択可能な場合があります。

■ 製品本体の液晶ディスプレイ＋外部ディスプレイ※

※）アナログ接続／HDMI接続／USB Type-C接続
お使いの製品本体の液晶ディスプレイ欄をご覧ください。

解像度	フルHD	HD
1024×768	○	○
1280×720	○	○
1280×800	○	−
1280×1024	○	−
1360×768	○	○
1366×768	○	○
1440×900	○	−
1600×900	○	−
1680×1050	○	−
1920×1080	○	−

9.4 無線LAN

本製品に搭載されている無線LANの仕様は次のとおりです。

■ Intel(R) Wi-Fi 6E AX211 160MHz

項目	仕様	
無線LAN規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠、IEEE 802.11ax準拠 （Wi-Fi®準拠注1、Wi-Fi CERTIFIED 6™ 準拠）	
転送レート注2	IEEE 802.11b準拠	最大11Mbps
	IEEE 802.11a/g準拠	最大54Mbps
	IEEE 802.11n準拠	最大300Mbps（送信2×受信2　接続対応）注3
	IEEE 802.11ac準拠	最大1733Mbps（送信2 ×受信2　接続対応）注3
	IEEE 802.11ax準拠	最大574Mbps（2.4GHz帯） 最大2402Mbps（5GHz／6GHz帯） （送信2×受信2　接続対応）注3
セキュリティ注4	SSID（ネットワーク名） WEP（セキュリティキー（WEPキー）：64／128ビット）注5 WPA-パーソナル（WPA-PSK）（TKIP/AES） WPA2-パーソナル（WPA2-PSK）（TKIP/AES） WPA-エンタープライズ（WPA）（EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)）（TKIP/AES） WPA2-エンタープライズ（WPA2）（EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)）（TKIP/AES） WPA3-パーソナル（WPA3-SAE）（AES） WPA3-エンタープライズ 192ビット（WPA3）（TLS）（AES） IEEE 802.1X（EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)）	
使用周波数 （中心周波数）	2,412～2,472MHz 5,180～5,320MHz 5,500～5,720MHz 5,955～6,415MHz	
チャンネル	2.4GHz帯（IEEE802.11b/g/n/ax準拠）	1～13ch
	5GHz帯（IEEE802.11a/n/ac/ax準拠）	W52（36/40/44/48ch） W53（52/56/60/64ch） W56（100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140/144ch）
	6GHz帯（IEEE802.11ax準拠）	1/5/9/13/17/21/25/29/33/37/41/45/49/53/57/61/65/69/73/77/81/85/89/93ch

注1 ： Wi-Fi®準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。
注2 ： ご利用の環境によって自動で切り替わります。
注3 ： 次の帯域幅に対応しています。
- 20MHz帯域幅（HT20/VHT20/HE20）
- 40MHz帯域幅（HT40/VHT40/HE40）
- 80MHz帯域幅（VHT80/HE80）
- 160MHz帯域幅（VHT160/HE160）

上記の帯域幅を利用するには、無線LANアクセスポイントも各帯域幅に対応している必要があります。
無線LANアクセスポイントの設定において各帯域幅の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちに各帯域幅の機能を無効にしてください。

注4 ： IEEE 802.11n、IEEE 802.11ac、IEEE 802.11axで接続するためには、セキュリティの暗号化をAESに設定する必要があります。
注5 ： WEPによる暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長24ビットを引いた40ビット/104ビットです。

□5GHz帯のチャンネルについて

IEEE 802.11a/b/g/n/ac/ax準拠の無線LANを搭載した機種では、5GHzの周波数帯において、次のチャンネルを使用できます。

- W52：36（5,180MHz）/40（5,200MHz）/44（5,220MHz）/48（5,240MHz）
- W53：52（5,260MHz）/56（5,280MHz）/60（5,300MHz）/64（5,320MHz）
- W56：100（5,500MHz）/104（5,520MHz）/108（5,540MHz）/112（5,560MHz）/116（5,580MHz）/120（5,600MHz）/124（5,620MHz）/128（5,640MHz）/132（5,660MHz）/136（5,680MHz）/140（5,700MHz）/144（5,720MHz）

5GHz帯を使用する場合は、上記チャンネルを利用できる無線LAN製品とのみ通信が可能です。

廃棄・リサイクル

■ 本製品の廃棄について

- **内蔵フラッシュメモリのデータを消去していますか？**
  製品本体に搭載されている内蔵フラッシュメモリには、お客様の重要なデータ（作成したファイルや送受信したメールなど）が記録されています。製品を廃棄するときは、内蔵フラッシュメモリ内のデータを完全に消去することをお勧めします。
  内蔵フラッシュメモリ内のデータ消去については、「付録1 製品本体の廃棄・譲渡時の注意」（→P.159）をご覧ください。
- **本製品（付属品を含む）を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。**
  ・法人、企業のお客様へ
  本製品の廃棄については、弊社ホームページ「ICT製品の処分・リサイクル方法」（https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/recycleinfo/）をご覧ください。
  ・個人のお客様へ
  本製品を廃棄する場合は、弊社ホームページ「富士通パソコンリサイクル」（https://azby.fmworld.net/recycle/）をご覧ください。

■ 使用済みバッテリーについて

- **使用済みバッテリーは、次のように取り扱いください。**
  ・リチウムイオン電池のバッテリパック、バッテリーユニットは、貴重な資源です。リサイクルにご協力ください。
  ・使用済みバッテリーは、ショート防止のためビニールテープなどで絶縁処理をしてください。
  ・バッテリーを火中に投じると破裂のおそれがありますので、絶対にしないでください。
  バッテリーの仕様については、「仕様一覧」－「本体仕様」またはバッテリーのマニュアルをご覧ください。
- **使用済みバッテリーを廃棄する場合は、次のように行ってください。**
  ・法人・企業のお客様へ
  弊社ホームページ「ICT製品の処分・リサイクル方法」（https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/recycleinfo/）をご覧ください。
  ・個人のお客様へ
  使用済みバッテリーは廃棄せずに、充電式電池リサイクル協力店に設定してあるリサイクルBOXに入れてください。
  詳しくは、一般社団法人JBRCのホームページ（https://www.jbrc.com/）をご覧ください。
  弊社は一般社団法人JBRCに加盟し、リサイクルを実施しています。





このマークは、リチウムイオン電池のリサイクルマークです。

Li-ion

付録1　製品本体の廃棄 ・ 譲渡時の注意

ここでは、製品を廃棄・譲渡するときにデータが流出するのを防ぐための対策について説明しています。

製品の廃棄・譲渡時の内蔵フラッシュメモリ上のデータ消去に関する注意

製品は、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらの製品の中の内蔵フラッシュメモリという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。
したがって、その製品を譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータを消去するということが必要です。
ところが、この内蔵フラッシュメモリ内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。
「データを消去する」という場合、一般に
①データを「ごみ箱」に捨てる
②「削除」操作を行う
③「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
④ソフトで初期化（フォーマット）する
⑤リカバリし、ご購入時の状態に戻す
などの作業を行うと思います。
まず、「ごみ箱」にデータを捨てても、OSのもとでファイルを復元することができてしまいます。さらに②～⑤の操作をしても、内蔵フラッシュメモリ内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの場合があります。
つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。
したがいまして、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、この製品の内蔵フラッシュメモリ内の重要なデータが読み取られ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。
製品ユーザーが、廃棄・譲渡等を行う際に、内蔵フラッシュメモリ上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、内蔵フラッシュメモリに記録された全データを、ユーザーの責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、内蔵フラッシュメモリ上のデータを物理的に破壊して、読めなくすることを推奨します。
なお、内蔵フラッシュメモリ上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなく製品を譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、充分な確認を行う必要があります。

データ消去

本製品の内蔵フラッシュメモリのデータは、付属の「ERASE DISK」で消去します。
ただし、特殊な設備や特殊なアプリの使用によりデータを復元される可能性はあります。あらかじめご了承ください。

■ 注意事項

- 製品本体にUSBメモリ、メモリーカード、外付けハードディスクなど周辺機器を接続している場合は、データ消去を実行する前に必ず取り外してください。

  POINT

  - データ消去実行時にステータスレポートを書き込む場合は、USBメモリ（FAT32ファイルシステム）を準備してください。
  - ステータスレポートとは、製品の型名や製造番号、データ消去を実行した日時などの情報が記録されたファイルです。
    ステータスレポートを書き込まなくても、データ消去は正常に完了します。
    お好みで書き込みを行ってください。

- 必要なデータは事前にバックアップしてください。
- 本製品で「ERASE DISK」を実行する場合は、ACアダプタを接続してください。
- データ消去中に電源を切らないでください。内蔵フラッシュメモリが故障する可能性があります。

■ データ消去方法

「ERASE DISK」を実行するには、製品の電源を完全に切った後、BIOSセットアップを起動します。
BIOSセットアップで管理者パスワードを設定し、「ERASE DISK」を開始します。

□BIOSセットアップを起動する

1 本製品の電源を完全に切ります。
電源の切り方は、「3.7.2 電源を切る」（→P.59）をご覧ください。

2 【F2】キーを押したまま、製品の電源を入れます。

3 ビープ音が鳴ったら、【F2】キーを離します。
BIOSセットアップ画面が表示されます。
パスワード入力画面が表示された場合はパスワードを入力（→P.105）してください。
手のひら静脈を登録した場合は、認証を行ってください。

POINT

- Windowsが起動してしまった場合は、本製品の電源を完全に切ってからもう一度操作してください。
  電源の切り方は、「3.7.2 電源を切る」（→P.59）をご覧ください。

4 「セキュリティ」メニューを選択します。

□管理者パスワードを設定する

すでに管理者パスワードを設定している場合は、「□ ERASE DISKを実行する」へ進んでください。

1 「管理者用パスワード設定」を選択し、【Enter】キーを押します。

2 「新しいパスワードを入力してください」にパスワードを入力します。
「現在のパスワードを入力してください」と表示された場合は、すでに管理者パスワードが設定されてます。【Esc】キーを押して、「□ ERASE DISKを実行する」へ進んでください。

3 「新しいパスワードを確認してください」に同じパスワードを入力します。
「変更が保存されました。」と表示され、パスワードが設定されます。

4 【Enter】キーを押します。

POINT

- 管理者パスワードは、ERASE DISKを実行するために必要です。
  管理者パスワードを忘れると、ERASE DISKの実行や管理者パスワードの変更・削除などができなくなります。管理者パスワードはメモに控えるなど、忘れないようにしてください。
- 入力できる文字については、「6.3.1 BIOSのパスワード機能を使う」（→P.103）をご覧ください。

□ERASE DISKを実行する

1 「データ消去（ERASE DISK）」を選択し、【Enter】キーを押します。

2 「次回起動時にERASE DISKユーティリティが起動します。」と表示されたら、「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 「終了」メニューを選択します。

4 「変更を保存して終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。

5 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
製品が再起動し、ERASE DISKが起動します。

6 管理者パスワードを入力して、【Enter】キーを押します。
「ご使用条件」が表示されます。内容をよくお読みください。

重 要

- 「管理者パスワードが設定されていません。」というメッセージが表示された場合は、管理者パスワードの設定が完了していません。【Enter】キーを押して、管理者パスワードを設定してください。
- 「本ユーティリティは、ACアダプタが接続された状態でのみご使用できます。」というメッセージ表示された場合は、【Enter】キーを押して、ACアダプタの接続を確認してください。
  ACアダプタが接続されている状態で、「□ BIOSセットアップを起動する」（→P.160）からやり直してください。

7 【Y】キーを押します。
認識したストレージが表示されます。

8 【1】キー → 【Enter】キーの順に押します。
「USBメモリにステータスレポートを書き込みますか？」と表示されます。

9 次の操作を行います。

●ステータスレポートの書き込みを行わない場合

1. 【N】キーを押します。

●ステータスレポートの書き込みを行う場合

1. 【Y】キーを押します。
   「FAT32ファイルシステムのUSBメモリを挿入してから、Enterキーを押してください」と表示されます。
2. FAT32ファイルシステムのUSBメモリを挿入して、【Enter】キーを押します。

POINT

- ステータスレポートとは、製品の型名や製造番号、データ消去を実行した日時などの情報が記録されたファイルです。
  ステータスレポートを書き込まなくても、データ消去は正常に完了します。
  お好みで書き込みを行ってください。

「HDD消去プロセスの最後に追加されるオプション」と表示されます。

10 お好みのオプションの番号を入力して、【Enter】キーを押します。

HDD消去プロセスの最後に追加されるオプションでは、選択した項目に合わせて次の処理が行われます。

重 要

- オプションは複数選択することができます。
  例えば、[1]と[2]のオプションを選択する場合は、【1】キー→【,】(コンマ)キー→【2】キー→【Enter】キーの順番に押します。
- BIOSセットアップの管理者パスワードを削除したい場合は、[1]を選択することをお勧めします。
- オプションで[3](データ消去後、自動的にシャットダウン)を選択した場合は、データ消去が完了すると自動的に製品の電源が切れます。
  [3]以外を選択した場合は、オプションの処理後に再起動しますが、Windowsは起動しないため「起動可能なデバイスが見つかりませんでした。」というメッセージが表示されますので、[3]も一緒に選択することをお勧めします。

「選択したハードディスクを本当に消去しますか」と表示されます。

11 消去しても問題が無ければ、【Y】キーを押します。

データ消去が開始されます。完了するまでしばらくお待ちください。
データ消去が完了すると、「ユーティリティを終了するにはEnterキーを押してください」と表示されます。

12 【Enter】キーを押します。

以上でデータ消去は終了です。
再度、製品を使用する場合は、リカバリを実行してください。詳しくは『取扱説明書』をご覧ください。

重 要

- 再起動してしまった場合は、電源ボタンを10秒以上押して、電源を切ってください。

付録2　Windowsの新規インストールについて

Windowsを新規にインストールする方法を説明します。手順どおりにインストールすることで、製品が正常に動作します。

注意事項

- 新規インストールすることができるOSは、「9.1 本体仕様」（→P.147）に記載している「ボリュームライセンスOS」をご覧ください。
  ただし、保護管理ツールについては単品での提供をしておりません。新規にOSをインストールする場合は、コマンドラインツールでUWFを設定してください。
- Windowsを新規にインストールすると、内蔵フラッシュメモリのすべてのデータが削除されます。必要に応じて事前にバックアップしてください。
- Windowsをインストールすることにより、今までお使いになっていた機能が使えなくなることがあります。
- ご購入後に増設・接続された周辺機器は、必ず取り外してください（カスタムメイドオプションを除く）。OSの新規インストールが完了してから、1つずつ取り付けてください。
- ドライバーはすべてインストールしてください。インストールしないと製品が正常に動作しません。
- 別売の外付け光学ドライブを接続してください。
- インストールするWindowsのバージョンおよびエディションによって、インターネット接続が必要になる場合があります。事前にご確認のうえ、Windowsをインストールすることをお勧めします。
  また、インターネット接続をするために、対応するネットワークドライバーのインストールが必要な場合があります。
- ボリュームライセンスOSの「BIOS／ドライバー提供OS」（「9.1 本体仕様」（→P.147）記載）のサポートはMicrosoft社になります。OSの不具合については、SupportDeskでは調査できません。

新規インストールの準備

□外付け光学ドライブを接続する

□BIOSの設定をご購入時の状態に戻す　（→P.112）

□ディスクを用意する

- 正規のWindows 11のインストールディスクまたはWindows 10のインストールディスク
- ドライバーズディスク

□内蔵フラッシュメモリデータを消去する　（→P.160）

新規インストール手順

1 ディスクをセットした外付け光学ドライブを、製品本体に接続し、Windowsのインストールディスクを起動します。

1. 本製品の電源を完全に切ります。
   電源の切り方は、「3.7.2 電源を切る」（→P.59）をご覧ください。
2. 【F12】キーを押したまま、本製品の電源を入れます。
3. ビープ音が鳴ったら、【F12】キーを離します。
   起動メニューが表示されます。
4. インストールディスクをセットします。
5. CD/DVD Driveを選択して【Enter】キーを押します。
   ・「選択したデバイスから起動できませんでした。」と表示された場合
   BIOSの設定が誤っている可能性があります。設定を確認してください。
   「Press any key to boot from CD or DVD…」と表示された場合は、何かキーを押してください。

2 画面の指示に従って、Windowsのインストールとセットアップを行います。

操作の途中で次の画面が表示されます。画面が表示されたら、次の操作を行ってください。

●「インストールの種類を選んでください」が表示されたら

1.「カスタム：Windowsのみをインストールする」をクリックします。
   新規インストールはこちらを選択してください。

●「Windowsのインストール場所を選択してください」が表示されたら

Windowsをインストールするパーティションを作成します。

1.「新規」をクリックし、「適用」をクリックします。
   複数のパーティションが作成されます。
2.「プライマリ」と書かれたパーティションを選択し、「フォーマット」をクリックします。
   選択したパーティションがフォーマットされます。

POINT

- Windowsのインストールの前にドライバーをインストールする場合は、「ドライバーの読み込」をクリックし、画面の指示に従って進めてください。

3.「プライマリ」と書かれたパーティションを選択し、「次へ」をクリックします。
   Windowsのインストール場所を設定します。

Windowsのインストールが始まります。途中何度か再起動しますが、そのままお待ちください。設定画面が表示されたら、画面に従って進めてください。
しばらくするとデスクトップ画面が表示され、インストールとセットアップが完了します。

3 ドライバー、アプリ、ユーティリティをインストールします。

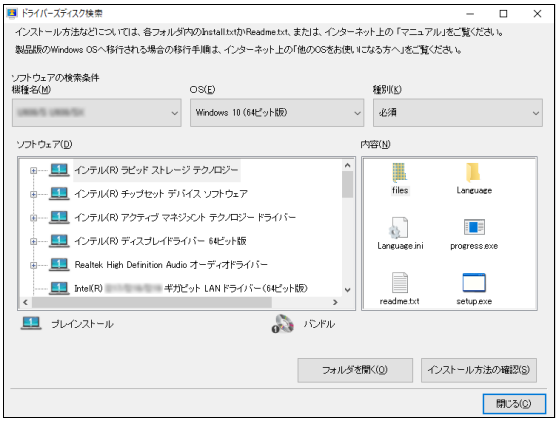
1.「ドライバーズディスク」をセットします。
   「ドライバーズディスク検索（DRVCDSRC.exe）」が起動します。

POINT

- 「ドライバーズディスク検索」が起動しない場合は、次のように操作してください。
  1.「スタート」ボタンを右クリックし、「エクスプローラー」をクリックします。
  2. ウィンドウ左の「PC」をクリックします。
  3. ディスクをセットしたドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「自動再生を開く」をクリックします。
  4.「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックします。

2.「ソフトウェアの検索条件」の「機種名」からお使いの機種を、「OS」からお使いのOSをそれぞれ選択します。

3.「種別」から「必須」を選択し、「ソフトウェア」に表示されたドライバーを上からインストールします。
- ご購入時に選択したカスタムメイドにあわせてインストールしてください。
- プレインストールと記載されているソフトウェアは、インストールすることをお勧めします。
- インストール方法については「Readme.txt」をお読みください。



（表示内容は機種や状況により異なります）

この後は、「お客様専用マスタを作成する場合の注意事項」のページ（https://www.fmworld.net/biz/fmv/support/os/master/）をご覧になり、お客様専用マスタを作成してください。

■ 最新の状態に更新する

Windowsおよび、ドライバーやユーティリティは常に最新の状態にしておく必要があります。

□ Windows Updateを実行する

Windowsを最新の状態に更新します。詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

重 要

- ご利用中のWindowsのバージョンに対応した最新の更新プログラムをインストールしてください。
  なお、問題が発生してWindowsの操作ができなくなった場合は、再度Windowsを新規インストールしてから、最新の更新プログラムをインストールしてください。
  - Windows 11 更新履歴
    https://support.microsoft.com/ja-jp/topic/windows-11-version-24h2-update-history-0929c747-1815-4543-8461-0160d16f15e5
  - Windows 10 更新履歴
    https://support.microsoft.com/ja-jp/topic/windows-10-の-更新履歴-857b8ccb-71e4-49e5-b3f6-7073197d98fb
  - ダウンロードURL（このURLは変更されることがあります）
    https://www.catalog.update.microsoft.com/Home.aspx
  - インストール方法
    1. 管理者アカウントでサインインします。
    2. ダウンロードしたファイルを格納したフォルダーを開きます。
    3. ダウンロードしたファイルをダブルクリックします。
       修正プログラムが実行されます。
       この後は、表示された画面に従って操作してください。

□ ドライバーおよびユーティリティを更新する

「サポート」のページ（https://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html）にて、最新版のドライバーやユーティリティが提供されている場合があります。
システムの安定稼働のため、常に最新版のドライバーやユーティリティを適用することをお勧めします。

LIFEBOOK A5515-TC

製品ガイド
B5FL-3571-01 Z0-01

発 行 日　2026年1月
発行責任　富士通株式会社

〒211-8588　神奈川県川崎市中原区上小田中4-1-1

●このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
●このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
●無断転載を禁じます。